

事件の發生を見るに至つた。我黨は直ちに支那軍變の根本的解決は背後勢力たる赤露の驅逐にありとして、對ソ開戦を政府要路に進言すると共に、瀋大下に向つても聲明書を発表して大いに輿論の喚起につとめる處があつた、この外京都天龍寺の革正運動や、宗教維新に對する意見書の發表や故内田總裁の一年祭の執行等種々あるが之を詳述することとする。

對ソ開戦を進言

我黨は二十一日の合同幹部會において、「ソ聯赤色帝國主義はアジアの敵世界の敵」といふ見地から「今こそ對ソ開戦の神機至れり」との黨本來の對ソ根本方針を闡明せる左記聲明書を発表することを決議するとともに同聲明書内容と同一の進言書を作成、これを首相、陸、海兩相外相等政府要路に進言し、善處を促すことを決定した。が實行委員の影山、白井、船生、福島四氏は七月二十三日前記各相を歴訪して右進言書を手交した。

【聲明】

支那軍變發生以來、ソ聯の對日攻勢は日と共に深刻化し來れり、抗日支那の實質的指導勢力は中國抗日人民戦線にして明らかにソ聯の支配下に隸屬せり、かくて日ソは既に戦つゝあるなり、無煙無聲の戦ひ愈々益々熾烈化しつゝあり。今般偶々日滿ソ國境方面に張鼓峰事件の發生を見、朝野一般の注目をひきつゝありと雖もかくの如きは從來何百回となく繰返して來るソ聯不法越境事件、漁業權侵害石油權侵害等々の一例のみ、驚くに當らざるなり。ソ聯赤色帝國主義は世界の敵なり、その世界觀において我が皇國日本と絶對に相容れざるなり、極東における兩國の利害關係また然り。皇國日本が萬邦修理固成の大使命に忠實ならんと欲せば、何よりもまづソ聯帝國主義を盡滅せざるべからず、英米の如きは領袖一國のみ、大陸聖戰の眞義また始めてこゝに完しといふべし。トハチエフスキー元帥等の統殺リニシコフ大將等の遺人等によ

り断じて赤軍戦力の低下、ソ聯對日戦意の後退を首斷すること勿れ、に更つ支那國を同時に敵とするは不利なりとし、又わが對ソ戦備完からずとなす勿れ、現機構その儘を以て戦はんとするが故なり、維新日本の威力を以てすれば萬敵と雖も敢て恐るゝに足らざるなり。對ソ戦の神機こそ即ち皇國維新の神機なればなり。わが黨は結黨以來滿七ヶ年、終始一貫對ソ主戰論を反覆強調を來りたるも、今こそ對ソ開戦内外一如皇敵一掃の機なりと信じ敢て江湖有志の熱誠に訴ふる次第なり

昭和十三年七月二十三日

大日本生産黨本部

天龍寺革正運動を起す

天龍寺は後醍醐天皇の御遺蹟を祀る夢齋國師の開山にかゝる由緒ある名刹であるが、現關管長の代に到り、惡徳僧黨を組んで管長に唱集し、不敬、不逞、不祥事件を頻發せしめて遂に一部が告訴問題となり、革正有志の結合激起となつたものである。しかして昨年十一月、島見立規、伊藤止山他一名の革正派の僧侶が、我が關西當務局に吉田委員長に面會を求め、應援を依頼して來たのであつたが、吉田委員長は「時局柄世道人心に及ぼす影響が甚大である宗教界の事故、寺内で圓滿に解決されたし」と拒絶したが、再三にわたる誠意と純情に動かされ、革正運動支援を決定するに至つた。しかして一月には西郷隆秀氏の仲介にて吉田委員長、徳田總務と關管長の會見となり更に四月には徳田、關再度の會見となつたのである、斯て天龍寺の求めに應じ革正有志は敢て進言書を正式に關管長に提出し之に對する沙汰を待つたのである。處か七月一日に至り突如革正派の島見立規、伊藤正山、西山原道の三名に對し、排斥處分執行を發表するに至つた。こゝにおいて吉田委員長はじめ我黨有志が、敢て天龍寺の歴史を尊び、社會的影響の甚大を考慮して穩便圓滿なる解決を進言しつゝあつた好意を捨て、殊更に社會問題化を招いた以上、今こそ徹底的に天龍寺の醜狀並にその思想的不敬、不逞

を別快開明して江湖の世評に訴へ、司直の勅、文部省の善處を促し、その真相を私明せねばならぬとし、七月十日附「天龍寺問題のいきさつ」と題する書報號外を發行し、聲明書を発表して黨の態度を明かにすると共に七月十一日には午前十時より本部に總務會を開催して天龍寺問題を中心に辯論の結果、刻下國民精神の高揚を急務とし、文教の正道止に與らんとする秋世道人心に範たるべき宗教界の墮落に對しては、斷乎これが別快開明のメスを加へ、宗教界覺醒の端緒たらしむべしとして、革正派支援を可決し、實行委員として、關根喜四郎、白井爲雄、船牛利重、千葉友次郎、福島三郎、橋爪宗治、阿部克巳の諸氏を決定して、即時實行運動に移り、東京本部に於いては十一日午後白井、關根、船生、福島の四氏は要請書を携へて文部大臣並に宗教局長を訪問して之を多交し、翌十二日には福島、阿部、橋爪の三氏が宗教局長に面會して、監督官廳の態度を確詰し、更に翌十三日には、白井、福島、千葉の三氏及び文部省を訪問して宗教局長に面接し、當局の善處を要望して引上げたが、關西黨務局に於ては「天龍寺革正同盟本部」を設置して、現地運動を行ふこととなり、京都嵐山電車終點、天龍寺山門傍らに是が本部を設けビラに、傳單に、演說會に猛烈な天龍寺糾弾運動を展開した。尙七月廿五日には島見立現、伊藤止山の兩氏は我黨京都支部の河上利治氏に引率されて上京、白井總務、及小林幹護士等と五名打揃つて文部省を訪問、午則、午後にわたり宗教局長、宗務課長に面會して善處方を要望した。

宗教維新に對する意見書發表

七月二十五日附を以て、宗教維新に對する根本原則は「神ながらの大道を以て國教となす」にある。神ながらの大道とは即ち宗派神道または儒佛混交の不純神道に非ざる國體の體なる神道である。即ち「天皇信仰」であり「國體信仰」である。これ日本及日本人の生命の本源にして、皇民必至絕對の信仰である。この信仰

なき處に日本は無く、この信仰なき處に日本人は無いのである。等々を内容とする「昭和維新の根柢」としての宗教維新に對する意見書」を新聞紙一頁大のリフレットとして發行したのであるが、これは當局の忌諱に觸れて發表處分に附された。

故内田總裁の一年祭と吉田總務委員長の指令

支那事變の一周年を迎へた

我々は、今又故内田良平先生の一年祭を迎へたのであつた。先生の畢生の大事業であられた大陸經綸の雄圖も着々その歩を進めつゝあると言へ、尙その前途に幾多の波瀾と困難とが豫想せられる今日、先生の逝去は實に皇國百年の憾みであり損失であつた。今その一年祭を迎ふるに當り特にその感を深ふる次第である。偕てこの先生の一年祭及墓碑除幕式は、その命日に當る七月二十六日午後三時から、名譽墓地の内田家墓地に於て、嗣子治氏夫妻、未亡人、葛生能久、小林順一郎、吉田委員長池田弘、末永二三、頭山秀三氏等以下御戚、門下生等百五十餘名参列し、神宮奉齋會の祭司祭下に嚴肅且つ盛大に執行せられた。因みに墓碑は内田良平之墓の書は頭山爾翁の筆になるものであつた。尙此の日我黨吉田委員長は左の如き指令を全黨員に發して、故總裁の遺徳を繼いで益々格闘し、皇運扶翼の戰士たるを期すべしと訓示した。

【指令】

總裁内田良平先生逝いて茲に一年、不肖總務委員長の重責を擔ひ、幸にしてその間益々我黨の發展を見

つゝあるは偏へに總裁生前の偉大なる足跡の然らしむる所であり、且又總裁の遺訓を遵守して、藩忠奉公の一念に燃ゆる幹部並に黨員各位の努力の賜にして不肖の感激に耐えざる所である。然れども、今や皇道宣布の聖戰途上にあつて、益々深刻なる機軸に際會し、外には獨り對支敵のみならず、對蘇敵既にその端緒を開き、對英、對佛、對米の諸強國も端倪を露

まず、内には政治、経済、思想の各部門において、幾多の速かに根本的解決を遂げざる可からざる諸問題の山積する有り、眞に戦時體制を強化確立せんがためには、維新的革新に俟つの他有る無し、我黨経國の使命は常にこの時局に處して重きを加へ、黨員諸士の任務亦倍せり、總裁の遺訓を繼いで諸士益々協働し、黨員全體、一家兄弟の契を堅くし皇運扶翼の戰士たらんことを期すべし。右指令す。

昭和十三年七月廿六日

大日本生業黨總務委員長 吉田益三

その他の運動

以上の外、七月二十二日より二日間、京都洛西臨川寺において、關西黨務局主催の「第二回日本主義夏期大學」が開催されたこと、城北支門が池袋、護國寺間の市電敷設問題につき猛運動を展開したこと及び、北海道大學支門が、一、北海道西海岸に海軍根據地設置の件、一、北海道西北地方に種馬所設置の件、外、件をそれぞれ關係當局に進言した事實が七月における主な活動であつた。

八月

吉田委員長著「暴ソの魔手を拂へ」を發表

支那事變の進展に伴ひ、ソ聯共産黨

第三國の援支援助行爲は益々猛烈を極め、殊にソ聯の如きは、公々然と武器、彈藥、將兵を送つて既に我れと直接間接に戦つてゐるといつてもよい状態である。然るにたまたま先月十二日張鼓峰事件の勃發を見るや、政府は駐ソ電光大便をして傳説認定を締結せしめ、これを以て日ソ間の危機解消せしが如く一般國民に認識せしめたと雖も、日ソの衝突はもはや歴史的必然にして、その好むと好まざるにかかはらず何時の日か必ずや干戈を交へざるべからざる運命におかれてゐるのである。ここに於いて我黨吉田總務委員長は八月八日附黨報號外を以て、「暴ソの魔手を拂へ！」と題する手記を發表し、國民の奮起を促した、その要旨は左の通り

日滿ソ國交は張鼓峰事件を契機として風雲頓る急を告げ、世界の關心は極東豆滿江岸に集注されてゐる、度重なるソ聯の暴戾ぶりに對する日本國民の憤激は今や頂點に達した、暴ソ魔患の聲は澎湃とし全國津々浦々に翕然と捲起つてゐる、皇道宣布の大事業が究極において日ソ拮抗争鬪の戦ひを避け得られない、寧ろ必至のものであることは一億同胞かつと覺悟したところである、異國一致、鐵の團結を以て外敵に向ふ決意はすでに國民一人一人の胸の裡に成つてゐるのである、かくある心構へが暴ソ魔患の叫びとなつたものであることは今更ら喋々の辭を要しないことである、薩溝橋畔一發の銃聲に端を發した支那事變はすでに一年餘を経過、漢口、重慶、廣東攻略目ざし皇軍は潮の如く殺到、勇敢なる戦闘を繼續してゐるが、この事變が單に暴戾將政權相手の戦ひでなく、將政權の裏にあつて陰に魔手を操る共産ソ聯を相手とするものであることは國民の深く認識するところ、吾人はここに對日作戦に狂奔するソ聯の暗躍迷動の事實、不法行爲、露國傳統の東方侵略經

論の一切を暴論し、一億國民の暴ソ膺懲の資とし更に二層の奮起を促かした。

暴ソ膺懲有志大會並に大演説會

我黨主催「暴ソ膺懲有志大會並に大演説會」の第一陣

は八月十八日夜六時から大阪中央公會堂において開催され、刻六時、會者野野島氏の挨拶に次いで村田華、柴山彌、船生利重、岡本芳衛、手島剛毅の諸氏が交々立つて、暴ソ膺懲の要を説き、張鼓峰事件の措置を痛烈に批判して降壇すれば、これより大會に移り吉田委員長を議長に推して小沢英男氏朗讀の、下記の如き宣言、決議及び呈請、電報打電の件等満場一致可決し、吉田委員長挨拶があつて大會を終り引續き演説會に移る、しかして山本千一、鈴木善一兩氏の熱辯に次いで吉見勇助氏が専門家の立場より日ソ必戦を説き、五千の觀衆に多大の感銘を與へて十一時閉會したが、翌十九日には京都華頂會館で同じく「暴ソ膺懲有志大會並に演説會」を開催して、宣言、決議を可決し、吉田委員長はじめ、柴山、山本、小部、鈴木、船生、河上の諸氏が交々立つてソ聯討つべしの大雄辯を振つた。因に大阪及京都における大會の宣言、決議は左記の通りであるが、右宣言、決議は八月二十三日東京本部の鈴木書記長、千葉、福島の常任委員等によつて首相、陸海外相にそれぞれ手交された

宣言

今や國運を賭し無敵巨萬を大陸に送つて聖戰一年有餘に及ぶ所以のものは長くも陛下の御詔勅に嚴として明らかなる如く共產主義思想の弊滅排除にあり、即ち聖戰目的を徹底奉行せんには元兇ソ聯を打倒する他なし、況んやソ

聯は舊帝政以來傳統の國是を以て東洋侵略を志し今次激變に際し匪賊將政權に對し積極的に援軍を送り皇軍に抗議しつゝあり、而も盟邦滿洲國境侵略行為數百件に及び、今次張鼓峰事件に至りては斷じて隱忍を容すべからず、過日停戰協定成立せざるも今後更に幾多事件の發生を豫測するに難からず、吾等は速かに大義明分によりソ聯を膺懲打倒せんことを期し國民の總

意を代表し茲に闡明す 右宣言す

昭和十三年八月十八日 於て大阪中之島中央公會堂

暴ソ膺懲有志大會

【決議】

一、政府は速かに對ソ國交を斷絶すべし 一、即時國內改造を斷行し必勝戰時體制を確立すべし 右決議す

昭和十三年八月十八日

暴ソ膺懲有志大會

暴ソ膺懲全國青年大會並演説會

我黨を初め鶴鳴莊、建國會、直心會場その他全國の日本主義青年有志主催による「暴ソ膺懲全國青年大會並に演説會」は八月二十四日午後六時から青山會館で舉行され宣言・決議を

可決し、我黨吉田委員長の激刺の挨拶等あつて大會を終り、引續き演説會に移り、相塚幸太郎、河上利治、永島文雄、相澤一甫、山本千一、赤尾敏、山正治氏等交々立つて暴ソ膺懲を叫び、最後の吉田委員長の發聲で萬歳を三唱して閉會した。當日の決議左の如し

【決議】

一、我等は今大聖戰の大眼目を貫徹せしむがため、廣東、海南島の速やかなる占領を要望すると共に、對ソ即時開戦の實現を期す 一、我等は一切の反戰或強行爲を粉碎すると共に聖戰の眞義に反する凡ゆる和平策謀の斷滅を期す 一、我等は内外の一切の反國體的存在を殲滅し、國體明徹、皇國維新の完成を期す

皇紀 五九八年 八月二十四日 於東京、青山會館

暴ソ膺懲全國青年大會

比島獨立運動支援を約す

ヒリツピンの完全獨立を策して奮闘途にケソン一派の親米派と相争れず、一九三四年日本に亡命して大日本生産黨をはじめ民間志士の庇護の下にあつて比島獨立の雄圖に若き血をまやしてゐた革命児サクダル黨を首ビー・アール・ラモス氏は支那變遷後東亞の新情勢を考慮しヒリツピン千三百萬同胞の完全なる獨立達成のためには徒らに亡命の日を送るの不可をさと、あらゆる困難と戦つても故國において奮闘するに如かずとなした。また過般來朝せるケソン大統領との諒解も成立したため滞在四年有餘の亡命生活を切り上げて去る八月十八日ドイツ船グナイゼナウ號に乗船、はるばる故國ヒリツピンより出迎へに來られた令息エドール・ラモス氏および長い間亡命生活の苦難を共にして來た秘書のエンリール氏、フレスポ氏らを帶同横濱を出帆する事になつたが此に先だち八月十六日午後七時より赤坂山王の幸樂に於て大日本生産黨委員長、吉田益三氏以下黨幹部と會同吉田益三氏とラモス氏との間に東洋平和と比島獨立に關して左の如き歴史的誓約が取行はれ此によつて大日本生産黨とサクダル黨との間には永遠に堅き協力提携が約束されるに至つた。

【誓約】

- 一、東洋平和を確保しアジア民族共同の福祉を増進する爲大日本生産黨とサクダル黨とは堅く永遠に提携協力することを誓ふものなり
- 二、大日本生産黨はサクダル黨の目的とする比律賓千三百萬同胞の完全なる獨立を達成する爲支援することを誓ふものなり。右誓約す

昭和十三年八月十六日

大日本生産黨々首 吉田 益三

サクダル黨々首 ビー・アール・ラモス

此日わが黨側よりは委員長吉田益三氏を初め黨總務長入幡博堂氏、總務白井爲雄氏、同影山正治氏、常任書記千葉友次郎氏等列席、サクダル黨側よりは黨首ビー・アール・ラモス氏以下エンリール氏、フレスポ氏および松澤護士、影山智三氏等が出席したが午後七時半一同着席の上前記誓約書にラモス氏および吉田益三氏が署名、各々一通づゝ交換し、これに立會人松澤護士、入幡博堂氏が署名なし並に大日本生産黨とサクダル黨との歴史所提携の誓約が成立した。それよりラモス氏は日本滞在中我黨より蒙つた好意に對して満悦の感謝をさしげ、今後とも大いに支援を乞ふ旨の挨拶をすれば、吉田委員長は「大日本生産黨は、あらゆる困難と犠牲を排して貴サクダル黨を支持して比島の完全なる獨立のために援助を惜まない」と答へ、一同そろつて記念撮影の後、送別會を兼ねた食卓につき和氣藹々裡に歡をつくして十時すぎ散會した。

傷病兵慰問家族の無料乗車を進言

今次事變において戦傷病に侵され、各地病院に入院加療中の勇士の家族が、これを見舞ひこれを慰安し度くも旅費の高み等により思ふに任せざるもの幾多あるを遺憾とし、我黨吉田委員長は左の如き進言書を、陸海兩相、軍事保護院總裁、鐵相等に提出してこれが速やかなる實現を要請した。

謹啓 皇國未曾有の軍大時局に當り那家の爲め日夜映撃せられる貴閣下に深甚なる敬意を表し候。陳者支那事變勃發以來十で一年有餘、所在に世界戦史空前の輝かしき戦果を擴大しつゝあるは偏へに稜威の然らしむるところにしてまた忠勇なる皇軍將士の果敢なる奮闘に貢ふ處多なるもの有之、國民の感戴措く能はざる次第に御座候、この驚嘆すべき戦果の裏に

は君國の爲め死を志すに奉る精神を尊んで榮めなせる名譽の戦死者、傷病軍人が多数にあるは忘却し得ざる處にして各地における慰靈祭、慰問、遺族への援護は實に戦後國民感謝の熱誠を表現せるものに他ならず候。政府また此點を強調し更に今秋十月五日より戦後援護調査團を實施し戦後援護に關する國民の認識を深め特に戦病軍人の遺功を偲ぶと共に傷病軍人並に出征軍人に對する感謝の念を昂揚せしめ國民の日常生活を通じて具現永くをはかり、併せて傷病軍人、戦病軍人の遺族及び出征軍人の家族などに對する援護の完備を期せんとせらるゝは遂に時宜に過せる措置に御座候、當局の意圖せらる處を仄聞するに遺族に對しては孝子、節婦、賢母の表彰を行ひ、就職斡旋援護などを主とし日常生活に關する優待などは擧げて民間の自發的援護に俟つものゝ如く恩料被致候、國家が神神の優遇を主とし物質方面を従とせらるゝは諒と致候もこは事と次第に依るべきものと存候。不幸第一線に傷き内地へ後送されたる傷病軍人は戦後各地の陸軍病院に收容加護を受けつゝあるが故郷に安否を氣遣ふ父母、妻子、兄妹は一日も速に病床を見舞ひ手を握り合つて勞苦を慰め安郷の權様を知らせたきは肉親として當然の情愛に有之、我國の美風たる家族主義の流露に候。然るに近親者居住地と陸軍病院所在地とは必ずしも一致せざるため遠隔地にある家族等は旅費嵩みて思ふに不任、日日培へ難き悶々を藏しながら訪ひ得ざるもの多きに上る實情にして國人の目するに忍び難きもの有之候。鐵道省は曩に全國小學校児童の日本精神昂揚のため伊勢神宮參拜に限り團體半數の無償輸送を實施中に候が、君國のため犧牲となりたる勇士家族の心情を諒察し一家族一名乃至三名を限り居住地より收容陸軍病院に復の無償乗車を實施し將兵並にその家族の精神慰安を圖られ候候、時局多事にして政務御多端の砌り誠に恐人候得共特別の御諒察を以て至急實施方相成度此の段及上申候也。

昭和十三年八月
大日本生産黨總務委員長 吉 田 益 三

其他の運動 以上の外前月より引續き糾弾中の京都天龍寺の革止問題は益々猛烈に展開され、八月四日午後七時からは嵐山劇場で「天龍寺糾弾大演説會」を開催し、山本千一、手島剛毅、山根敏三、小部英男、村田等、影山正治、河上利治の各辯士が交々立つて天龍寺の不正、不敬を暴露し、これが徹底的革止を叫んで四百の聴衆に多大の感銘を與へた。

九月

九月における黨活動は、前々月より繼續中の「天龍寺革止運動」の外、關西黨務局における「社大市議の國旗凌辱問題」の糾弾等が主なるもので、その他は地方組織の擴大強化に力が盡されてゐる。

社大市議の國旗凌辱を糾弾 社大黨が巧みに偽善傾向をなして、時局變遷をなすつゝあることは、屢々指摘した處であるが、折も折社大黨の大坂市會議員前田謙男の國旗凌辱被致、是實無難事件が發生した。前田は自己の選挙地盤より出征する兵士に對して、その歡心を賣はんがため、國旗に板間大阪市長の「武運長久を祈る」と

と署名せしめて之を贈りつゝあつたが、偶々九月十二日午後一時、豫て依頼せる國旗の署名は坂間市長の直筆に非ずと言ひがかりをつけ、之を破り棄てた事件である。これは明かに待等が個裝轉向の威を脱してゐない事を曝露せるものにして、斷じて許容し得ない處である。我黨關西黨務局では、早速手島市議をして市會内部より之を糾弾せしむると共に、黨幹部は十五日大阪市會正副議長、及市會議員團各派に對し、嚴重なる要求書を提出し、また大阪警備兵隊並に大阪府警察部に對しても之が嚴重取締方を進言した

催涙ガス事件に判決

去る四月六日大阪中央公會堂において社實大衆黨が議事報告を兼ね西尾末廣の除名問題を取上げて演説會を開催した際、これを解散せしむるべく催涙ガスを撒布した星井眞澄、村田等の兩氏は、傷害事件として其後に於て起訴され審理中であつたが、九月十三日午前十一時から大阪區裁判所で公判が開廷され、村田等氏は同事件の外、尾崎行雄の反演論文の反駁文を雑誌「大槓」に編輯したかどで、新聞紙法違反事件も併合審理されたが、檢事は兩氏に對し「本件は被害兩名とも日本主義に忠實で、新聞紙法違反も傷害も共に社實大衆黨及尾崎行雄の反國體性に對する認識から出た行爲であり、同情に値するが催涙ガス使用といふ手段が全國に初めてあり將來の社會的影響を考慮せねばならぬ」と諭告して、村田氏に懲役三ヶ月罰金百四十圓を、星井氏に罰金百圓を求刑したが、九月二十九日の公判において前田裁判長より村田氏に罰金百圓、星井氏に罰金八十圓の判決があつた。

其他の運動

以上の他九月中特記するべき事項として、九月十九日夜九段車人會館に發誓式を擧げた「大日本回國協會」に顧問として我黨の頭山南翁が、又理事として藤生龍久(後に副會長)吉田總務委員長が就任したことが、京都の漫山、洛陽兩支部が合併して京都支部を結成し支部長に河上利治氏が就任し、九月六日日本都より吉田委員長を初め小部、山本狩野、手島の各總務の出演を得て京都伏見本願寺において第一聲の演説會を開催したこと等を初め、九月十日松本市翁宮樓上に本部書記長鈴木善一氏を中心とする松本支部の座談會が、九月十七日福井支連の演説會が、九月四日大阪府下大草村の演説會が、同じく十三日阿部野中央クラブにおいて演説會がそれぞれ盛大に開催された事等特記するべき事項であらう。

十月

前月より引續き糾弾中の「社大市議前田種男の國旗侮辱問題」はついに發展して十月十三日の「亡國社大黨擊滅市民大會並に大演説會」となり、内務大臣は即時社會大衆黨を解散すべしと決議せるを初め、十月七日吉田總務委員長の名を以て、「宇垣大將に對する公開狀」の發表したこと、武漢三鎮の攻略の報に接し、「戦はこれからだ」と國民の決意を促した聲明書を發表したこと等が十月における黨活動の主なるものであるが、今之れを詳記すれば

亡國社大黨擊滅市民大會並に大演説會

我が忠勇なる將兵が、酷寒炎熱を曾して國

戦力圖、一階東洋平和の確立へと邁進しつつある秋、社會大衆黨を根幹とする人民戦線派の一黨は、偽裝轉向によつて同胞の目を眩まし、今尙反國體的、亡國的策動を續けつゝあり、這般の前田市議の國旗後辱事件もその一つの現れであるが、その後同事件は符等の策動によつて有耶無耶に葬り去られんとする情勢にあるので、我黨關西黨務局に於ては、十月十三日午後六時半より大阪市俱樂部に於て「亡國社大衆黨滅市民大會並に大演説會」を開催し、満場立錫の餘地なき大盛況裡に、栗山總務司會者となり、山本總務を議長に推して左の如き宣言、決議を可決し、狩野、關根、影山、手島、鈴木の各總務及吉田總務部長も立つて、社大黨の反國體性、偽裝轉向人民戦線派の覆滅を叫び十時半閉會した

【宣言】

人類の救共産主義を掃滅し以つて世界の禍を消滅するは今次事變の意義なり、忠勇なる皇軍將兵は彈雨の中に聖戰目的貫徹を實踐履行し、或は山岳を攀り、或は敵艦陣に内爆突入し、或は萬里の波濤を越つて生命を鴻毛の輕きに置く。而も征逐荷敵寇なり。即ち總國力を併せて目的を貫徹せざる可らず。我等大阪市民はこの意を體して戮力統後黨の誠を齎さんとす。然り而して共産主義の覆滅を計らんと欲んか、苟もその亞流と雖も假借する處あるべからず。然るに何ぞや社會民主主義を信奉し、常に共産黨の温床となり、今や全く共産黨唯一の巢窟となり終せる社會大衆黨の尙今日存在するとは、彼等は用意周到に偽裝せりと雖も既にその片貌を露見すること枚擧に足なく、或は軍機洩洩事件、反戰運動事件等を惹起し統後を擾亂すること著し。且つ又大阪市會における社會大衆黨議員の國旗後辱事件の發生は、我等又大阪市民の名譽を毀損せるものにして斷じて看過すべからず、茲に我等は大阪市民大會の名において社會大衆黨の解體覆滅を期す右宣言す

【決議】

- (一) 社會大衆黨は即時解散すべし
- (二) 社會大衆黨大阪府聯は暴卒の積弊を清算し即時解散すべし
- (三) 內務大臣は社會大衆黨の即時解散を斷行すべし
- (四) 大阪市會は前田種男の國旗後辱事件に關し即時意志表示すべし、右決議す。

昭和十三年十月十三日

宇垣一成大將に對する公開狀を發す

亡國社大衆黨滅市民大會
去る九月二十九日「對支中央機關設置問題」にからみ外務大臣を辭職した宇垣一成大將に對し我黨吉田總務委員長は十月七日「宇垣外相の辭職は臣節を竭したりといふべきや」と題する向大將に宛てた公開狀をリフレットとして天下に公表し、今日の重大非常時局に當り、いやくも大命を拜して台閣に殉じた國務大臣が、自己の信念のままに辭職せらるるは輔弼の臣としてその臣節を全うせりといふべきや、否や、とてその解明を求めたものであつた。

武漢陷落に當り聲明書發表

武漢三鎮陷落の報に接した我黨は十月二十六日對支中央機關設置問題の英靈への敬意、從軍將兵の勞苦に對する深甚の謝意を表すると共に聖戰目的達成への第四階段に入つて「戦ひはこれからだ」の心構への必要な事を全國民の前に表明せる左の如き聲明書を發表した

【聲明】

東京徐州我が鐵蹄下に潰え抗日の據點廣東すでに陥り、いま敵都漢口を屠る將政權が據るべき重要地點悉く我が手中にありて、國威を中外に宣揚す、遂に慶祝に堪へざるなり、皇師進むや所在の敵を擊掃して戰果を擴大世界戰

史空前の偉業を舉ぐ、これ固より御威威の然らしむるところたるや、嗚々を要せざるも尙ほ忠勇なる是軍將兵の不撓不屈の奮闘のよるもの多し、今日敵都攻略の快報に心なる慶祝を表すると共に、事變發生以來一年四ヶ月聖戦の爲に殫れたる護國の本懐に對し限りなき感謝を捧げ、その遺族に對しては衷心より敬意を表し、從軍將士の勞苦に深甚なる謝意を表す。

惟ふに事變は漢口陥落により新段階に入りたり、即ち重要據點を奪取されたる府政權は雲南、貴州、四川、廣西に據り、長期抗戦を策さんとす、世上往々にして援將ルートを遮断せられたる府政權が西南に據るとも自滅のほかなく今や軍事行動は一段落を告げ餘は勳匪行あるのとの説をなすものあり。當らざるや遠し、いま府政殘の身を西南に逃る彼か自滅は必ぜり、而して彼に代るべきもの赤露勢力の伸長と、功利英國の侵蝕たるも必ず、外蒙、新疆に勢を伸ぶ、ソ聯が四川、甘肅、青海方面に赤化の魔手を伸ばし西海に侵入せる英國が雲南、貴州、廣西方面に侵略の爪牙を伸ばし來るは明瞭事なり、共產主義が皇道精神と相容れざるは論を俟たざるところ功利自由主義また共產思想の母體にして皇道精神と相反す、今次事變の眞因は皇國の理想たる八紘一宇の大精神と相容れざる共產主義を離棄し、以て東亞永遠の平和を招致せんとするにあり、赤露の傀儡將倒れたる嘆き、皇國の前に姿を現はすその本體主力なり、於粵東亞盟主日本の使命は愈々重且つ大を加ふ、軍事行動また共產主義廢滅の使命達成の日まで止まる所なかるべしこれ本黨が夙に「ソ聯撃つべし」を唱導し今こゝに「戦はこれからだ」を高唱、對露必戦に備へ國民は飽くまで確乎不動、實實剛健の精神を振起し、徒らに戦捷に酔ひ痴れることなを要する所になり、時實如斯重天の秋、國民は大勇決心を以て、事變の成果を確保、東亞に加へらるべき武力脅威を殲除

するに足る軍備を整へ經濟力を蓄積し、思想、教育、政治、行政、經濟その他各般の皇道に基く刷新を断行舉國一體の實を舉げ上、聖旨に應へ奉り、下忠勇なる護國の英靈に酬ひるべきなり、漢口陥落に當り皇軍への深甚なる謝意を表し併せて本黨の時局所見を闡明す。

昭和十三年十月二十六日

大日本生産黨

其他の運動

以上の外十月十一日には東京城北支部内に一區、一支部を目標して豊島、板橋、瀧野川の三支進が設置され又十四日には本部より吉田委員長初め、鈴木書記長、久野、小部、影山、手島、村田の各幹部が出席して福井支部が結成されてをり、十七日には「天龍寺問題と時局批判演說會」が京都嵐山に、又二十一日には長野縣松本市公會堂で松本支部主催の「時局批判國內改造」の演說會が本部より吉田委員長を初め鈴木、徳田、影山、關根の各總務を迎へて盛大に開催されてゐる。尙この月十四日に東京集義塾員であり、日本主義文化同盟に關係してゐた富永博氏が逝去されてゐる。

十一月

この月は「天龍寺更正問題」に對するピラ戦術傳東戰等を活版に行つた外、對外的な運動は餘りなから専ら組織擴大運動に力

が注かれ、十大日には本部より吉田委員長をはじめ、手島、徳山、小部、山本、白井、村田、山本の各幹部が出席して岡山支部の結成式が擧げられ、同夜は又岡山市公會堂に八百餘名の聴取を得て、支部結成記念の大演説會が開催され續いて翌十七日には、同じく岡山縣下の兒島支部主催の演説會が開催された。尙この十一月二十二日附吉田總務委員長は「日英すでに戦ひつゝあり」と題する九十頁にわたるパンフレットを發行された。

十二月

年末匆忙の間、黨活動また目覚しきものなしと雖も、組織方面においては年來の努力が結實して、京都府下に「三丹支部」が滋賀縣下に「大津支部」がまた埼玉縣下に「川越地方支部」がそれぞれ結成されてをり、この外黨の青年分子は「青年俱樂部」の結成に協力してゐる。

三丹支部結成大會並に記念演説會

京都府下の但馬、丹後、丹波地方を一丸とした三丹支部結成大會並に記念演説會は十一月十二日午後六時から福知山市公會堂において吉田委員長以下村田、小部、柴山、河上氏等の本部幹部出席して盛大に舉行され宣言決議を行つて演説會に入り大内武氏司會の下に各幹士交々立つて聖戰貫徹、維新達成の大旗幟を揮ひ會を閉じたが同支部では支部結成を記念に十一月六日から引續き間人町、口大野町、岩瀬町、宮澤町、峰山町、網

野町、新舞鶴市等に演説會を開催し、三丹地方の要地を殆んど我が黨旗を以て覆蓋した

大津支部の結成大會

滋賀縣大津市の小巻惣太郎氏を中心に着々準備が進められつゝあつたが、十一月八日午後六時から大津市公會堂で結成大會並に記念演説會が開催され、本部から吉田委員長、手島、小部、河上、村田、山本、坪井等の幹部が出席した

青年俱樂部結成さる

維新運動の低調俗化を打破し、斷乎萬惡を折伏して神國日本の確立に従事し得るは、絶對なる國體信仰維新黨の熱誠に燃えた純正青年運動のみであるとして、本黨の白井爲雄、徳田惣一郎、山正治、長谷川幸男、福島三郎、千葉友次郎、住田徳市、瀧澤利重氏外各派の青年分子二十六名が去月十四日夜赤坂三會堂に會同して青年俱樂部結成準備會を開催したが、諸般の準備もとのひ、十一月二十四日午後一時より青山會館別館においてこれが結成大會を舉行し、山正治氏司會の下に宣言、申合せを要議決定し、世話人及連絡員を選定の後、關係各派の代表ももて立つて熱火の如き愛國の熱辯をよるひ午後六時意義ある結成大會を閉じた。なほ當日の申合せ及連絡員左の通り

【申合せ】

(一) 皇國維新完成の基礎たる青年維新運動の全國的統一強化の爲の連絡、懇親、協力研究を目的とす
(二) 一切の思想、文化、政治、經濟等をすべて民族使命遂行、國體實現の線上に根本的に改變一新する
(三) 思想的には内外に皇道の徹底を圖り、自由主義、社會主義等一切の反國體的思想を棄絶し、三民主義を克服し揚する
(四) 政治的には天皇親政、君民一體の國體政治機構の確立を前提とし、反國體的政治諸要素の徹底覺醒克服を期する
(五) 經濟的には現行

資本主義制度を根本的に批判し、金融・土地、労働の奉還を行ひ經濟大權を確立し、國防との關聯のもとに全經濟の國體的再形成を行ふ(一)對外的には日・滿・蒙・支青年大衆の東亞協同體の自覺に依る東亞維新の遂行と對ソ主戰、對英作戦の實踐を基礎とする世界皇化政策の樹立と實現に邁進する

昭和十三年十一月二十四日

於東京・青山會館 青年俱樂部 結成式

中央聯絡員 勝村文彦、杉田省吾、影山正治、丹羽五郎、永島文雄、山下幸弘、白井爲雄、鈴木善一、松尾九州男、深澤源造

傷病兵家族優遇運動奏功

去る八月我黨吉田委員長の名を以て、傷病兵家族の看護、見舞等に對する國鐵乗車の優遇方につき鐵道その他關係方面に進言中であつたが、十一月八日これが正式決定を見、傷病兵の優遇範圍擴大と共に近く實施を見ることとなつた、これによれば支那戰中の取扱ひとして張鼓峰事件を含む戦傷病者の復職又は就職旅行の場合は三等片道五割引とし内地歸還の出入へ、見舞看護のためその家族が乗車する際は身分に應じて二三等賃を五割引とすることに決定を見た

其他の運動

この他十一月三日には時局協議會系日本主義團體と共に國民再組織問題、國家總動員法發動問題等に對して共同聲明を發表してゐること、永井十吉氏が相談役に就任してゐること等記載するべき事項であらう

昭和十四年

【皇紀二千五百九十九年】

平沼内閣出現「責任政治」に関する聲明を發表す

新華早々未だ四日

といふに、近衛内閣は「新たなる内閣のもとに新たなる内閣の構想をめぐらして、以て民心の一新を圖ること」の必要なる旨を聲明して退陣し、翌五日平沼内閣が成立した。然るに平沼内閣の顔ぶれを見ると、七名もの留任閣僚があり、その上近衛公自身異例の無任所相としてこれに列してあり、そこには何等の更迭意義も、新鮮さも感得出来ないのみか、名實共に近衛内閣の延長であるといへるのである。我輩吉田内閣委員長は、かゝる無責任なる臣節不盡の政治家の多きを嘆息しられて「責任政治に誘致せよ」と題する一文を發表した。

未曾有の困難に際し、君國の興隆を冀荷する政府が更迭するには、それ相當の理由があり、後繼内閣はより以上強化され時局處理に微塵も揺がざる進んだ政策と信念がなければならぬ。新内閣は組閣當初においても政綱の發表なく、又議會に臨んでもこれが具體的發表をしなかつた。これを見るに平沼内閣は單に近衛内閣の延長であつて舊態依然であると稱すより他はない。斯くの如くんば政變の意義は滅却され、近衛公より平沼男に交替する必要は認められない。今日の時局は爲政者が観念的遊戯心を以て政權兩廻に耽溺してゐられる程悠長な秋ではない。不撓不屈、斃れて向ひまざる奉公の赤誠もて、難局

處理に博光心一心邁往せねばならぬ時なのである。九千萬同胞が一致團結して解決に當るべき時なのである。歴代の内閣が「君國大事の秋、全力を盡して最後の御奉公を期す」と口にしなから、次々に交代して行くが、これほど無責任政治はない。甲政府奉公の誠を致して倒れ、乙内閣その死屍を越えて輔翼の道を繼ぐといふのでなければ眞に臣節を盡し得たりといはれぬ。平沼首相に望むところは、先づ確固たる信念、死して後口を覺悟の確立である。

吉田委員長ソ聯撃つべしを發表

昨年八月「暴ソの魔手を拂へ」と題する一文を發表し

て、暴ソ魔手を強引された吉田内閣委員長は、一月四日「ソ聯撃つべし」と題する左の如きフレットを發表して、暴ソの急なるべきことを強調すると共に、舊曆二十一日近衛首相談の形式を以て發表せられたる對支國交調整根本方針に関する聲明に對しても、これを逐條的に反駁して右傾左傾的弱氣外交を一擲し、八紘一宇の大理想實現へ一踏進すべきことを要望された。

ソ聯撃つべし

張叛峰事件を契機に風雲晦々急を告げた日ソ國交は、帝國の自重により一とまづ危機を將來に持

越したが、我が眞意を解せず暴ソ聯は飽くまで對日抗戰態度を固執して譲らず、事態は今や遷延を許さざる重大時期に直面してゐる。皇道と共產思想とは天人俱に相容れざる全く逆の思想である。皇道宣布の大事業完成への緒戦を大陸に遂行しつつある帝國と、帝國の理想を阻みつつあるソ聯とが、世界統一線上において相闘すべきことは、明白の理であり必至のものである。吾人は暴ソ魔手の即刻爲さるべき所以を繰述、天下同愛の士に訴へたが、さらに今日ソ聯の暴狀を自衛するに及んで憤慨する能はず、帝國萬代のため禿筆を向して「ソ聯撃つべし」を讀天下愛國の士に想へ、當局の斷乎たる決意

を促がす次第である。ソ聯暴民の數々は疊きに「暴ソの魔手を拂へ」に狂記せる通り實に目にあまるものがあるが、更にソ聯はその抱懷する世界赤化の野望達成への手段として將政權援助の積極化と帝國權益の侵蝕による國力の消耗を期しつゝあるのである。即ち支那事變發生以來陰に陽に蔭介石を援助しつゝあつたソ聯は赤化東漸と將政權内部への共產勢力擴大の二大方針のもとにソ聯内で多數の支那將校に猛烈な軍事訓練を施すとともにコミンテルン労働組合、共產黨を驅使して列國の對將援助後進の促進、日本孤立化の暗躍に奔命するほか、事變對青年化への策として抗日支那共產化の前提に西北地區の赤化に全力を注ぎ對將武器輸送路たる迪化、哈密、蘭州道路の軍用化を完成、連日百餘台に上るトラックにソ聯製武器、彈藥、一毛皮類、その他軍需品を満載して送り、牽引重砲、ソ聯製軍用機の輸送も活潑に行はれ、ソ聯、蘭州間は絶へず抗日戰指導のソ聯軍人が往復、事變後蘭州に入込んだソ聯人はすでに六百名を突破し城外にはソ聯正規兵の姿さへ多數認められたと傳へられてゐる。今次事變が軍に蔭介石を齎せるものでなく、その蔭に糸を操る赤魔を驅逐するにあらざるは論を俟たぬところ實に敵は背後にあるソ聯、英、佛、米諸國であるのである。さらにソ聯は日ソ漁業條約改正交渉に理由なき自説を固執し頑強にわが申出を拒否しつゝあり、暫定協定取極めは否として前途の捕捉に苦しむものがある。帝國は暫定協定が十二月末日をもつて満了となるのみでなく、十二月一日には四十四ヶ所特別契約漁業區が期限満了となるに拘らずソ聯側が交渉打開の態度を示さぬため去る九月一日わが方より交渉口火を切り爾來四ヶ月折衝を續けたが、ソ聯側は漁業交渉となんら關係なき北鐵代金支拂問題を持出し、右解決を前提とするが如きことを主張、ソ聯一流の不信不法なる態度に終始せるため交渉は曠

曠に乘上げ、帝國は血を以て購ひ得たポーツマス條約その他日ソ基本條約に基き斷乎實力を行使し北洋漁業權擁護に當らねばならぬこととなつた。これを惟ふにソ聯は世界赤化のため日本鯨破を企圖せる以外のなものでもない。彼にして斯の如し、帝國にして何の凌巡を要するところがあらう。況んや帝國とソ聯の一戦必至なるにおいて何の躊躇がるらう。必勝の決はまづ機先を制するにありといふ。帝國は起つて即刻暴民ソ聯を撃つべきである(下略)

【役員異動】 一月二十一日關西黨務局の小部書記長が辭任され、新書記長に山本千一氏が就任された。

二 月

一月に這入つて間もなく、東方會と社會大衆黨の合同問題が惹起し、一時世人の注目と興味を喚起したが、結局人民戰線大連隊の意圖に恐れられた假裝轉向の社會大衆黨と、新し物喰ひの東方會との意見の不一致で物分れとなり、一世の寵愛と擁護を受けて中止となつた、がこの問題に我黨最高顧問にして日本主義運動の元勳たる頭山滿翁が、この新黨の顧問として就任説が傳はつたりしたがこれは全くの浮説で問題にならなかつた。さて二月における我黨の活動は、一月四日に吉田委員長の名を以て「反國體兩選法の改正を求む」と題する意見書を發表した、こと及び一月十七日に日比谷公會堂で「國體突破大演説會」を開催したこと等である。

選挙法改正に関する意見書發表

選挙法改正案は今次議會に上程されるべく近衛前内閣

において着々準備されつつあつたが、たまたま内閣の更迭となつて、今議會への上程は沙汰済みとなつてしまつた。我黨は結黨以來の政策として、家族主義に立脚した家長本位選挙法の實現を叫びつづけて來たのであるが、この際是非これが實現を期する要ありとして、吉田首相の名を以て次の如き「反國體的選挙法の改正を求む」と題する意見書を一月四日發表して、各方面の考慮を促す處があつた。

前内閣はその重要政策の一として議院制度改革を標榜し、議員制度審議官を設け今議會上程に提案すべく議を進め衆議院に關しては舊選挙制度部會において、改正要綱成案を得るに至つたが、偶々内閣総辭職となり今議會上程は遂に沙汰済みとなつた。選挙法改正は何れの内閣たるを問はず斷行せねばならぬ重要政策であるから、假令本議會上程の運びとならぬまでも次の議會へ平沼新内閣の手によつて提案されるべく必至のものである選挙制度部會決定の改正要綱は徒らに枝葉末節に拘泥して現行選挙法の最大惡法たる非國體的部分の改正に及んでゐない、かくては選挙法改正は有名無實の舉となり現行法と五十歩、百歩の相違でしかたない、新内閣が必ずしも前内閣の方針を踏襲し審議官の答申を轉呑みするとは考へぬが、選挙法改正は必至のものであるが、故に吾人こゝに簡明率直に改正に關し、吾人が抱懐する所信を披瀝し以て國民の支持を求め政府當局の覺悟を促し萬邦無比確固不壞の皇國體の生成發展に資したい。

皇國は恒久一體の 天皇を元首と仰ぎ、同族同心の臣民を敍體として、天壤無窮に生々發育進化隆昌する國體である。一

君臣民、九千萬臣民は戮力協心、ト御一人に歸一し輔翼の誠を發すを臣民道としてゐる。従つて我國には男女、老幼、貴賤貧富の區別なく、各々その身分境遇に相應して國家と與へ生き、國家と與へ榮え、國家と與へ使命し、君國を忘れて生活なき大精神に始終、父相相繼ぎ國家と家庭と自己と宇宙を本來一體とする信念に燃えつづけてきた。君臣民の争ひ、父子理の競ひ、夫婦尊を比べ、貴賤怨を交へ、貧富反目し、勞資拮抗し、國家と國民が權を張る如き鬱風は皇國において會つて想見するをだに許されなかつた。一大家族國家、忠孝一本の顯現こそ皇國が中外に誇示する國體の精華であり、國體の眞核である。然るに轉近歐米思想の舶載により全く國體精神を異にする民主國家の學說に眩惑され、異說を爲すもの憂り國體の光輝を減耗せしめるものあるに至つたことは嘆かほしき次第である。議員制度にも斯の陋風浸潤し、先きに納税額の多寡を以て國民を分類する資本主義機構の選挙法があり、次いで個人を基調とする現行法（所謂普通選挙）への改惡があつた。想起すれば過ぐる大正十四年、吾人は普通選挙法の議會上程に當り、その反國體的原因を掲げてこれが權權に墜起、代ふるに純正普通法の確立を懇求したのだつた。即ち個人主義の現行法は國家組織の大本たる家庭の統一を破壊し君臣忠孝の淵源を廢亂、階級闘争を挑發して秩序を紊り途には恐るべき結果を招來するものであつたからである。股肱運からず現行法施行されるや自由思想は一轉して社會主義思想の蔓延するところとなり、骨肉相喰ふ勞資相争ふ畜生道を現出、立法の府は國争編と化し、參政權を貴曰によつて購買するもの引きも切らず、公然と革命を口にするものを見るに至つたのだつた。現行法は普通選挙と稱してゐるが、その實は制限選挙である。一千數百萬人の限定された有權者が親は親、子は子に分れて統一も

なく長幼の序もない勝手氣儘なバラバラ投票を行つてゐるのである。

明治天皇は長くも五ヶ條の御誓文に上下心を一にして盛んに經綸を行ふべし、天下の大成は萬機公論に決すると言はせられてゐる。長くも臣民を深く御信賴遊ばされ國家の興隆を臣と御俱に御負擔遊ばされる大御心と拜察されるのである。萬民輔翼は皇國臣民本然の道である。しかるに斯くも優渥なる御言葉を賜る九千萬國民として一人の力と雖も無駄にせず、九千萬人の力はこれを幾十倍にもして働かなければならぬ御奉公申し上げねばならぬ。一千數百萬人が各個バラバラの投票をし親子離反する現行法が果してよく心を一にして經綸を行ひ、萬機公論に決すと仰せられた御聖旨に副ひ奉るものであらうか想をこゝに廻らすときあまりの恐れ多きに背に冷汗三斗たるを禁じ得ない。

爾來十有五年、吾人が憲法改正を叫び純正普通選挙の確立を求め來つたのは、今にしてこの國體破壊の惡法を是正せずんば遂には恐るべき凶罪に墮し終るべきを憂ふるからであつた。吾人の求むる純正普通選挙とは、わが國の特長たる家族主義に立脚して一家の家長に選挙權を賦與し九千萬國民が舉つて協心戮力参政する制度である。わが國は、上御一人を家長とし奉り九千萬同胞を悉く家族とする家庭國家であり各家庭は國家の縮小圖である。國民が、上御一人に對し奉り絕對であると同一く家庭においても家長は家族に對し絕對である。斯くあればこそ忠孝一如の國體精神が三千年一貫され來つたのである。家庭の内に和合が行はれ、家長が一家の統制權を持つてゐれば、家長の行使する一票は即ち道義的に全家族の意志が投票されてゐるわけであり、家庭の老人も妻も子供も家長の投票によつて参政してゐるのである。九千萬國民が悉く参政權を有つて

而してその投票が國民道徳の精華によつて唯だ一つの投票となつてこの日本國家の存立と繁榮とを確保するといふ美はしくも崇高なる普通選挙法なるが故にかの偽裝せる普通選挙を排して純正普通選挙の確立を要望するのである。

選挙制度部會の咨申決定に従へばこの重要なる點を閉却してゐる。徒らに末節たる法制技術上の問題に捉れ核心を忘却してゐるのである。斯くの如くんば選挙制度改革は百年河清を待つゝの類ひであり、究極の希望到達は空想の夢である。吾人は純正普通選挙法の確立を求め次の如き改正を要望する。

(一) 選挙權、被選挙權に關する事項 イ、帝國臣民にして左の各項に適合する者は選挙權を有す (A) 滿二十才以上の家長 (戸主及び一家を扶養する世帯主) (B) 前項の資格を具備し滿廿才に達せざる者は親權者又は後見人の代行を認む。ロ、帝國臣民にして滿二十才の家長 (戸主及び一家を扶養する世帯主) は被選挙權を有す。ハ、缺格條項中第六條第六項に治安維持法違反の罪を加ふべし。ニ、選挙犯罪に本づく選挙權、被選挙權の制限につき裁判所の宣告で「公民權を停止せず」との宣告をなし得ざるやう改正すべし。ホ、應召軍人召集解除となりたる時は直ちに召集前の議員たる職に復歸出來るやう改正すべし。ヘ、府縣市町村會議員は衆議院議員と相兼ねることを得ざるやう改正すべし。ト、居住制限は可及的短期間とし六ヶ月程度に引下ぐべし。(二) 選挙區及び議員定數に關する事項 イ、選挙區は府縣を一選挙區とする大選區制を採り、東京、京都、大阪、横濱、名古屋、神戸市外人口かりに五十萬人以上の都市にかぎり一選挙區を設くべし。ロ、議員定數は一選挙區一名乃至三名程度に減少し議員數百二十名程度とすべし。(三) 選挙手續に關する事項 イ、供託金をある程度に引下

げ落選者の供託金はこれを没収すべし。ロ、現行の次點繰上制度を改め任期中違反失格決定者ありたるときは順次次點者より繰上げよきに没収したる供託金を返還すべし。ハ、現行の缺員二名に達せざれば補選選挙を行はざる規定を改め缺員を生じたるときは速かに補選を行ふべし。ニ、棄権率五割を超えたる場合は選挙を無効とし再選挙を行ふべし。(一) 選挙運動及費用に関する事項。イ、完全選挙公費を實施すべし。(A) 選挙に関する文書は選挙公報のほか一切此を禁じ演説會告知文書も公費とし、立看板も公費をもつて周知せしむる方法を講ずべし。(B) 演説會場はすべて公費とし學校、寺院、教習、劇場等の開放、借入れは市町村において行ひ、公費演説會以外の演説會を禁ずべし。(C) 候補者の政見發表にラヂオを開放すべし。(D) 選挙公報は少くも數回發行すべし。(E) 候補者は選挙公費として一定額を府縣へ納入すべし。(F) 選挙費用を極度に制限すべし。(二) 投票及び開票に関する事項。イ、投票所を増加し投票期間を二、三日間とすべし。ロ、開票所を可及的少數となし選挙區一單位の混同開票とすべし。ハ、投票及び開票立會人は選挙に關係なく候補者に關係なき者を任命すべし。(一) 選挙罰則に関する事項。イ、連座規定を撤廃すべし。ロ、選挙犯罪に關する裁判は二審乃至三審制度として可及的速かに判決を爲すやう改むべし。

現行法によれば帝國臣民男子にして二十五年以上の者に選挙權を與へてゐるが、これ位不合理な話はない。法律上二十五年に達すれば成人として認め、徴兵の義務、刑罰を課することになつてゐる。然るにひとり選挙權のみ二十五年以上、被選挙權を三十年以上と制限するは一方において成人と認め一方において否認する不合理制度である。往時は十六年に達すれば

元服させ一人前の男子として待遇したものである。吾人はこの矛盾不合理を是し成年家長に選挙、被選挙兩權を賦與すべしとするものである。現議員數は多きに過ぎ議事審査に煩雜を來せしめてゐるのでこれを減少すべきであると信ずる。供託金は廢止するを理想とするも名譽意に顧られたる徒證の蓋立を防止するため存置するを可とするも、無資産者にして達識の人士の立候補を可能ならしむるためある程度に引下げ落選者の供託金はこれを没収して候補者の整理を行ひ、惡質違反を防止する見地より徹底的選挙公費となし金權選挙の弊害を除去せねばならぬ。また現行法は投票率の制限なきため棄権八割に及ぶもこれを總意による當選者と認めてゐるが、斯かる不合理性を打破し眞に國民の總意を議會に反映するため少くも五割以上の棄権あるときは該選挙を無効とする必要があり斯くせざれば選挙の價値は無い。

斯くして國土たる家族主義に則り家長選挙制を布き一切の金力權力を排除し野にある遺賢達識具眼の士を選び億兆一心滲業完成へ奮發の誠を盡してこそ三千年來父祖相繼承したる國體の精華を更に發揚し、未曾有の國難に直面する皇國を推進入紘一字の廢國大理想を中外に顯現し得るのである。敢えて申見を續述して當局の覺悟を促す次第である。

國難突破大演説會

聖戰第三年を迎へて延期建設、東亞新秩序確立といふ重大任務を擔ふ我が國の前途にはなほ幾多の難關が横はり、英、米、佛、ソの對日包圍攻撃は益々露骨化し、上海租界問題、對支借款問題、日ソ油業條約問題等々の事實となつて現れ、その前途實に容易ならざるものあるに鑑み、我黨においては二月十七日夜六時から日比谷公會堂に「國難突破大演説會」を開催し、吉田委員長はじめ黨幹部多數登壇して憂國の大獅子吼をなし非常なる成果を收めた。

日比谷公會堂における演説會が今回初めてであり、その觀衆を心配されたのであつたが、當日は幸に天候に恵まれ月には稀な暖かさであつたので、觀衆は定刻前よりどしどし會場を押寄せ、さしもの廣い會場も開會前一階席は早くも一杯といふ盛況ふりを示し

一、皇政確立、世界維新 一、必勝戰時體制の完備 一、援將ルートの實力的切斷 一、防共軍事經濟同盟を締結せよ
一、英米佛ソの對日總攻撃に對處せよ、等々のスローガンが、觀衆の神經を緊張させる中に、定刻六時開會者船生利重氏開會を宣し、同氏の開會の挨拶に次いで村田等、關根喜四郎、小部英男、影山正治、柴山滿の各辯士が交々立つて、人民戰線派の打倒、強硬外交の確立、官制統制の獨善排他、内外維新の急務等につき絶叫して降壇すれば、最後に吉田委員長立つて黨の政綱、政策について詳細これを説明し、我黨はいつたことは必ず行ひ、行つたことは必ず責任をとるものであると結び、狩野慶氏の閉會の辭に次いで吉田委員長發聲で聖壽萬歳を奉唱して十時半近く散會した

三 月

二月十七日、東京日比谷公會堂で「國難突破大演説會」*開催した我黨は三月にはいつて、三月十一日大阪中之島中央公會

堂に「第二回國難突破大演説會」を開催したのをはじめ町廻り大阪市内の梅香小學校、明治小學校等において大演説會を開催して、世界總包圍戰に對する國民的決意を促す處があつたが、この外吉田委員長の名を以て「議院法改正に關する聲明書」の發表、本部役員の一部異動等がなされてゐる。

大阪中央公會堂で「國難突破演説會」

日比谷公會堂における「國難突破演説會」は

在野維新陣營の代表的國民の聲として、全国的にその反響をたらしたが、さらに三月十一日午後六時から大阪中之島公會堂に、關西黨務局主催の下に「第二回國難突破大演説會」が開催された

當日は小部英男氏の司會の下に、村田等、柴山滿、船生利重、鈴木善一、手島剛毅、吉田委員長の順で登壇し、内外諸國に對して痛烈なる批判を試み、一千五百の觀衆に多大の感銘を與へて午後十時半散會した。

議院法改正に關し聲明

聖職下第七十四議會が開會中なりと雖も、議會の空氣遂に低調にして、

口に非常時を説けども心に時局なく、徒らに選舉民を迷込みの駄辯や、黨勢擴張の論議に終始して、天樂黨員、戰時議會たるの本務を忘却せる態度に痛憤せる我黨吉田委員長は三月十四日左の如き聲明書を發表し議員法改正の急務を説かれた。

大御後威八紘に洽わく 皇威大陸に光被して暴良將政權の衰勢日と共に濃く、援將諸國の極東對策愈々積極化する。東亞新秩序建設を國策となす帝國と、東亞舊秩序維持に奔命する諸國との間における相剋關係は益々苛烈を加ふ。また國際情勢動盪然日愈にして帝國の前途益々端倪を許さざるものあり。

斯る重大時に奮闘し國難を克服、聖戦の大目的を達成せんには一億同胞戮力協心、生命、智謀、學識、經驗、資財、努力ありとあらゆる持てるものを、上御一人に奉還、奉公に些かの懈怠あるべからず。第七十四帝國議會は聖戦中、深き國民の關心と全世界の注目に開かれ、現に審議を履行中なるも、凡そ本議會は國民をして嘆嗟せしめたるは非ざるなり。外に皇師百萬を送りて聖戦を闘ひ、對列強關係顧る微妙を極めて由々數く内に諸機構改革の大事業を抱藏せる帝國の現在より將來へ、皇運の彌榮を誠心誠意謀すべき議會の形相や如何に、議員諸公口に非常時を説けど心に時局なく、議壇上論ぜらるる質疑は黨勢擴張の具からざれば概ね國民當て込みの駁辯に止り遂に低調を極むこれ果して戰時議會と謂ひ、天業實費の責務を盡し得べきや、世上往々これに銜して輿論と曰ふ、これ正しくは吳阿爾會なるべし、世界の趨勢は今日ありて明日相同しからず、大陸の戰局秒進須臾も留るところなし、國事の多端にして重要なる今日を以て最大なりとす、然るに閣僚悉く口利議員冗辭の質問に答ふべく九十日間の長きに亘り議會の權語大臣となり國務を顧る能はず、政務事務の滞滯著し帝國未曾有の國難に際し國を憂ひ時局を案するを、畏くも、上御一人の御軫念に委し奉り輔弼の重責を負ふ國務大臣と實費の大任に在る議員が冗長なる駁論に長時日を浪費し、擧げて國事を顧みざるが如きは斷じて臣節を竭すものと謂ふべからず、恐懼誠懼、憂憤に堪えざるところたり。惟之、素より議員諸公の忠誠如何に其因するところなれど又現行議院法の缺陷たるに因る、余はこゝに改革私案五項を摘記し以て政府、貴衆兩院の参考に資し、速かに改正を斷行、舉國一體となりて皇運隆榮に輔翼の誠を盡し聖慮を安んじ奉るべきを切望す

一、國務大臣の議會出席を少回数で以て可能ならしむるやら改むべし 現行法によれば、答辯は必ずしも國務大臣たるを要せざるも、議員は徒らに政府委員の答辯を急遽し大臣の説明を求むるが故に會期中大臣は議壇答辯のため寸暇なく國務を放棄するの已むなきに至る。斯る習慣は原内閣以來のものにして同内閣以前には嘗て無かりし所なり、大臣は大體方針の説明のみに止め、餘は次官、局長等の政府委員において答辯に當ることせば大臣は國政を掌る餘裕を生じ現在の如き失態は起らざらんべし

一、議員定数を減少すべし 現議員定数は多きに失し、悉く發言を希望するが故に長期間を必要とす、議會の實情を按ずるる彼此論點等しきもの多く重複す、議員定数を減するも有能練達之士を得れば、今日以下の論議に低下する虞れなく、却つて圓滑なる議事進行を圖り得るなり

一、會期を短縮すべし 既に議員定数を減し重複する論旨の發言を整理し別項の常議員制を設くれば、議會における質疑は極度に整理されるを以て徒に長時日の會期を要せず、尠くも十五日乃至二十日程度の會期にして審議を盡し得るに至らん一、常議員制度を設けよ 一ヶ年間に於ける事實、またこれより發する將來への見透し、かゝる膨大なる問題を三ヶ月間の會期に八百に餘る議員が委曲を盡さんと圖るは蓋し無理なり、内閣に貴衆兩院より十名乃至十五名程度の常議員を置き國務の全般、各省事務の全般を常に知らしめ政府と議員との連絡機關たらしめば議會は常時政府の施政に接觸するを以て帝國議會における無用の冗辭は極度に整理され議案審議も圓滑を期し得べし

一、議員の歳費を廢止すべし 會期短時日に縮少され、常議員制度ありて議員日常の職務著しく減せられたる以上、議員は名譽職とし一切の報酬を受けざるを至當とす、但し常議員に選ばれたる者には相當額の手當を支給すべきは勿論なり。以上諸賢の御参考に供し御批判を乞ふ

役員異動發表

本部機構の一部改正(參見、對外部、宣傳出版部新設)に伴ひ、左の如く本部役員の異動が發表された

任總務 船生利重、同河上利治、任對外部長 鈴木善一、任事務長 白井爲雄、任遊說部長 柴山滿、任關西黨務局書記長 山本十一、任青年部長 影山正治、任同次長 星井眞澄、任組織部長 小部英男、任勞務部長 關根登四郎、任宣傳出版部長 千葉友次郎、任參事 永井了吉、同 小山田淑康、任相談役 鈴木一郎、同 澤大坊終吉、同 馬淵吉一、同 松本藤忠、同 荻野丈夫 同藤田味川、任評議員 寺部安定

其他の運動

以上の外、前記の如く十八日には大阪市應春小學校に又二十五日には同じく大阪市明治小學校において、吉田委員長を初め柴山、小部、手島、狩野、村田氏等の幹部が出動して演說會が開催されたこと及び三月二十九日午前一時吉田總務委員長の嚴父、省吾翁が八十三才の高齡を以て佐世保市相之浦町の自邸で逝去され、三十一日の告別式に黨代表として白井爲雄、徳田宗一郎の兩氏が參列したこと等である

四月

四月における黨自體の活動としては六日に大阪市東成區中本第一小學校に演說會を開催して、關西黨務局の小部、柴山、狩野、村田、山本首一、眞保、中村等の幹部が出演して熱辯を振つた他、目ぼしい運動はされてゐないが黨の青年分子は友誼團體の青年分子と共に「日獨伊軍事同盟締結懇請全國青年聯盟」の結成に協力したこと、並に我黨總務部長影山正治氏が「大東塾」を結成したこと等が特記すべき事項であらう。

大東塾の結成

淀橋區戸塚町に「維新寮」を設けて、皇道維新道標に精進しつつあつた、我黨總務部長影山正治氏は今回新たに渋谷區代々木西原町九五九に「大東塾」なる人材養成道場を設けることとなり、之が開塾式は四月廿日の神武天皇祭の佳日を下して盛大に舉行された。尙同塾の塾長、塾頭、役員等左の通り

【塾長】

(一)大東とは即ち大統世界の謂ひなり吾人は皇道に依る大統世界の實現を期す (二)大東とは即ち大東洋聯盟の謂ひなり吾人は全世界大統の根柢たる大東洋聯盟の實現を期す (一)大東とは即ち大東國日本の謂なり、吾人は神命に基く道の國光の國、大東國日本の實現を期す。

【塾頭】

本塾は塾長に基き滿支大陸の第一線に立ち、皇道宣布の殉教者として、挺身奉公すべき眞平青年志士の

餘成を眼目とす。

【訓 育】 (一) モンギ、神拜、體座、作文、詩吟、書道、(二) 武道、行軍、野營、勤勞、(三) 學課、國體學、
 原論、生命哲學、國防學概論、日本史、東洋史、西洋史、日本地理、東洋地理、西洋地理、神皇正統記、古事記、日本書紀、
 歷代御詔勅御製、6 皇國古史講義(萬葉集、祝詞、神皇正統記、本本記、中朝事實、日本外史新論、弘道館記流義、國學
 諸著等)、7 支那古典講義(大學、中庸論語、孟子、老子、莊子、孫子、韓非子、傳習錄等)、8 宗教研究(神、道佛敎、キリ
 スト敎、回教等)、9 思想社會研究(資本主義、共產主義、フアツシズム、三民主義等)、10 日本現勢、東洋現勢、世界現勢、
 自由講義(東洋聯邦論、維新建設論、協和會精神、新民會精神、外交論、教育論、文學論その他)、12 支那語

【役 員】 (塾長) 影山正治(塾監) 徳田憲一郎、藤村文彦、摺建一甫、白井爲雄(塾同人) 星井眞澄、長谷川幸
 男、窪田雅章、安藤泰憲、渡邊松久、谷川仁、榎原健一、茂呂靜馬、横岡虎雄、金野善作、片山重吾(顧問) 井田藤楠、小
 林順一郎、吉田益三、前田虎雄、梅津勳兵衛、倉田巨三、田尻隼人、永井丁吉、入幡博宣、鈴木善一

日獨伊軍事同盟締結要請全國青年聯盟結成 日獨伊防共協定の締結は、三國間に後期以上の効果を
 收めつゝあるが、最近の世界情勢、特に歐洲及東亞の緊迫せる諸情勢は、單に防共を以て足れりとせず、更にこれを軍事同盟
 締結にまで押進めんとするの必要に迫られつゝある折柄、四月十五日午後一時より日ハ谷公園松本樓に、日本主義各團體の少壯
 分子三十餘名出席して該問題を中心とする協議の結果、各派一致協力してこれが實現に邁進することを申合せ、「日獨伊軍
 事同盟締結要請全國青年聯盟」を結成することを決定し、結成準備委員として我黨總務白井爲雄氏をはじめ、奥戸足百、板倉

聖三郎、山下幸弘、摺建一甫、米村格夫、古岡義規、永島文雄、小崎一誠の諸氏を、又宣言、綱領の起草委員に片岡敬、持尾
 利久の兩氏を決定して着々準備を進めつゝあつたが四月二十二日午後一時より赤坂三會堂にこれが結成大會を盛大に舉行した
 當日は奥戸足百司會の下に、皇啓遙拜、國歌奉唱、戰艦並に出征將兵に感謝の對辭を捧げたる後、奥戸氏の開會の辭に
 次いで本黨總務關根喜四郎氏を議長に推舉し、書記、世話人、相談役等の任命があつて、宣言の朗讀があり、終つて演說會
 に移り、夏秋龍一、板橋菊松、香渡信氏等が熱辭を揮つて會を閉ぢたが、宣言書に基き首、外、陸、海の各省を初め獨伊大
 使館へ訪問委員を選定して要請書を手交した。

五 月

全國代表者會議で通牒を發す 結成記念「全國代表者會議」を來月二十八日に控えた本部は五月に入る
 や早速これが準備に取かかり、まづ三日には左の如き通牒を全國分黨に發達した。

【通 牒】 拜啓 時局愈々重大にして戒心を要するの秋、貴分黨益々御健闘の段那家の爲め慶賀奉存候陳者本黨も
 故内田總裁の御加護と貴員諸氏の忠誠心に依り來る六月二十八日を以て滿八周年を迎ふるに至り候、就いては六月二十八日

の結果記念日を期して本黨全國代表者會議を開催し適切なる國難突破の大方針を審議、確立し以て巨額本務の一端を果して度く存し得候、よつて本月中旬より下旬にかけて全分黨（朝鮮、台灣、北海道を除く）に本部員數名を分割派遣し、大會の下相談を致度存候間本部員到着以前に各地において役員會か或ひはこれに類する會合を開催し、各分黨の大會対策を豫め御協議決定に相成度此段御願申上候

昭和十四年五月

大日本生産黨本部

大日本生産黨地方分黨 御中

追而 本部員直接出張せざる地方は文書を以て適宜連絡可致候、尙本部員出張日程は確定次第御通知申上候

右通達に基き五月下旬より船生利甫氏を東北及關東の一部へ、福島八郎、船津俊男の兩氏を關東の一部へ、千葉友次郎氏を中部、北陸へ、又小部英勇氏を九州其他へ、栗山滿氏を中國、近畿地方へそれぞれ大會打合せのため特派した。

徳島の國難突破大演説會

徳島支部準備會主催の「國難突破大演説會」は五月十三日午後七時から徳島市教育會館で開催され、黨本部より吉田委員長を初め手島、小部、柴山の各總務、山本眞一常任が大參加し、伊吹氏の司會の下に、山本、小部、柴山、手島の各幹部が交々立つて國內維新の必然性、強硬外交の必要、日獨伊軍事同盟の締結等を力説し、最後に吉田委員長は、既成政黨の腐敗、責任政治の確立等を論じて時局を痛烈に批判し、黨の主義、政綱、政策の説明に及んで約一時間半に亘る大獅子吼をなし、千餘名の聴衆に異常の興奮と感銘を與へて午後十一時すぎ散會した。

全國青年大會開かる

(日獨伊軍事同盟締結を斷全國青年聯盟主催)

去月二十一日結成されたる「日獨伊軍事同盟締結を斷全國青年聯盟」では五月九日横濱市神奈川會館に關東大會をもち十日には東京日比谷公會堂に全國の青年代表參集して「全國青年大會」を開催し、奥戸足百氏司會、我黨の關根重四郎氏議長の下に宣言、決議、運動方針等を決定の上、永島文雄、櫻建一甫、影山正治、赤尾敏、井田男爵、鹿子木博士等一大獅子吼をなし、軍事同盟締結に拍車をかけたが、更に、五月二十七日海軍記念日の佳き日、大阪天王寺音樂堂に再び「全國青年大會」を開催し、四千の大衆參集の下に、新田實平氏の開會の辭に次いで栗山滿氏の議長、林英助、中川裕南氏の副議長の下に宣言決議を可決し、松浦清一、雲井修洲、永島文雄、原憲正、關根重四郎、櫻建一甫、影山正治氏等の各地代表の火を吐くが如き熱辯があり最後に本聯盟の相談役たる我黨吉田委員長の挨拶があり午後十時半散會した、なほ當日の決議左の如し

【決議】

急迫せる歐亞の現状は英國、ソ聯を中核とする國際人民戰線の「防共」國家に對する陰謀、侵略に原因す、この事實に直面して猶且つ、日獨伊軍事同盟の締結を忌避するは信義を盟邦獨伊に失ひ、外侮を敵國支那及び英ソに招く所以のものなり。現前皇國の大事、一にかゝりてここに存す、滿天下皇國の青年同志代表、相會してこの大事を議し茲に左の如く決議す。

(一) 皇國日本青年國民はその崇高なる民族使命に立ち飽迄も盟邦獨伊と共に全世界の無道民族と決戦せしむことを期し、極迫せる現下の世界情勢に對應し速かに日獨伊軍事同盟を締結せしむことを要す。(二) 我等は聖戰貫徹、非常時局應戰大

彼の神威たるべき白濁伊軍軍同盟の實現を阻む一切の親英派を粉砕、克服せむことを期す。

其他の運動

以上の外特記するべき事項として、政友会系の久原派、中島派の内紛をめぐつて暴落したる既成政
黨の醜狀に對し、我黨を初の國聯、純協、愛同等九團體は、連名を以て既成政黨の斷乎解散方を當局に向つて進言すると共に、各政黨に對しては、速に政黨を解消して皇國臣民としての本然の姿に復歸すべきことを勧告した事および昨年七月以來繼續糾弾中の天龍寺革命問題に關し、五月十二日關西黨務局の聚野隆昭、中村金次郎、眞保勝次の三氏は折から開催中の天龍寺宗務會に對して要請書を手交したこと等である。なほこの月、去る昭和十二年十月十日赤坂三會堂で開催された全國代表幹部會の席上、皇軍慰問團兵金を募集し、これを陸軍省に獻納した件に對し、昭和十三年五月附を以て左の如き感謝狀が届けられた。

感謝狀 今次事變ニ際シ出動皇軍慰問ノ爲御座

深厚ナル謝意ヲ表ス

昭和十三年五月

陸軍大臣 杉山 元

大日本生業黨全國代表幹部會啓

六 月

「全國代表者會議」開く

我黨結黨記念全國代表者會議は、六月二十八日午前十時より東京赤坂三會堂に於て、萬生、小林兩顧問、吉田總務委員長以下本部幹事及全國各地分黨代表 百餘名參集して盛大に舉行されたが、之に先立ち六月二十五日午後一時から三會堂會議室に於て、總務會を開催し、吉田總務委員長、八幡重雄總務以下、柴山、小部、徳田、久野、佐橋、狩野、白井、影山、關根、船生、永富、河上、横尾の各總務及び本部書記局より千葉、福島、深澤の三黨記列席して吉田委員長座長の下に全代會議スローガン、順序、聲明、決議、宣誓文、並に本部提出議案、支部提出議案等を審議決定して、全代會議に對する最後の打合せをなし、續いて大會前日たる二十七日には午後三時より同じく三會堂に、中央、地方幹部打合せ會開催し吉田委員長以下

船生、白井、小部、手島、關根、影山、柴山、狩野、徳田、河上、横尾、久野、深澤、千葉、長谷川、粟野、山本(貫)星井、山田、福島、柏村、茂呂(聯)小部(信)奥田、鮎澤、信夫、松井、豐間、茂呂(健)小池、山下、高瀬、松藤、水、野本、水谷、玉井、秋山、豊西、入田、中山、松原、内田、大山、長谷部、三谷、矢羽田、味岡、増田、伊吹、杉浦、板東、武市、市原、住田、南、小林、仙田、許斐、高見、伊澤、小野山、山崎、松井、冷泉、岡山、岡野外入名が出席して和氣齋を裡に全代會議に對する一切の打合せを終り晚餐を共にして閉會したが、大會當日の二十八日は午前八時、全國より上京せる代表百五十餘名は、日比谷公園内に集會、隊伍をととのへて宮城前に參進し、聖壽の萬歳を奉唱して會場に向ひ、開會を待てば、午前十時二十分、振鈴と共に聖戰遂行途上、歴史的意義を持つ全國代表者會議の開會が宣せられ、小部、英男、影山正治兩氏司會の下に左の順序によつて會議は進行された。

昭和十四年度全國代表者會議順序

司會者 影山正治
小部英男

皇居 遙拜
國歌 奉唱

戰歿並に出征將士に對する感謝默禱

一、開會の辭

二、議長及副議長推薦

三、議長挨拶(議長代理柴山滿)

副議長

四、大會委員並に書記任命

書記長

五、全國代表者資格審査發表

六、故總裁及殉難同志の英靈に對し默禱

七、宣 誓

八、聲明、決議の件

九、來賓、友誼團體代表者祝辭

一〇、祝辭、祝電、披露

一一、顧問挨拶

一二、大會名譽委員代表挨拶

一三、本部代表挨拶

一四、地方代表挨拶

一五、本部報告

一六、各府縣聯合會及支部報告

一七、本部役員發表

一八、聲明、決議の件

一九、本部提出議案の審議

二〇、黨務局、府縣聯合會、支部提出議案審議

二一、閉會の辭

聖壽萬歲

四〇

八、總務委員長訓辭
九、來賓、友誼團體代表者祝辭
一〇、祝辭、祝電、披露
一一、顧問挨拶

吉田 益三
頭山 滿
小林 順一郎
小山田 淑康
鈴木 善一
手島 剛毅
關根 喜四郎

一、開會の辭
二、議長及副議長推薦
三、議長挨拶(議長代理柴山滿)
副議長
四、大會委員並に書記任命
書記長
五、全國代表者資格審査發表
六、故總裁及殉難同志の英靈に對し默禱
七、宣 誓

影山 正治
八幡 博堂
鈴木 善一
柴山 滿
船生 利重
横尾 武雄
河上 利治
聖壽萬歲
設 誓
葛生 能久

一八、聲明、決議の件
一九、本部提出議案の審議
二〇、黨務局、府縣聯合會、支部提出議案審議
二一、閉會の辭
聖壽萬歲

議 事
書 記 局
小部 英男
葛生 能久

野頭先づ小部司會者指揮の下に皇居遙拜、國歌奉唱、戰歿並に出征將士に對する感謝默禱を擧げたる後、影山司會者開會の辭を述べ、次いで議長に入幡博堂氏、副議長に柴山滿、鈴木善一の兩氏を推薦し柴山副議長より議長就任の挨拶あつて、大會

書記並に大會委員が別項の如く任命され、續いて河上利治氏は一同起立の下に左の如き宣誓文を朗讀し

【宣 誓】

茲に我が黨本年度全國代表者會議を開催す、期する所は聖戰貫徹、維新成就の一途にあり、我等は吉田委員長統率の下に熱誠以て議り協心これが方途を明らかにし、融然以て結び戮力これが實踐に勇往せんとす、願はくば故内田總裁の英靈夫れ我等の上に明々の照耀を垂れ給へ

皇紀二五九九年六月二十八日

大日本生産黨全國代表者會議

代議員 一同

終つて吉田總務委員長より大要左の如き訓辭があつた

一言御挨拶申述べます、先程司會者からも申述べられた通り本日は我黨結黨八周年に當り遠くは台灣、北海道より近くは關西關東の各地より代表者相會して茲に全國代表者會議の開催せられたる事は誠に慶賀に堪へない次第であります。我黨は一昨年慈父内田總裁を失ひ、我々はその後父にき子として奮闘して参つたのであります。幸にも故内田總裁の好き御指導と御加護により、更に又全國黨員の熱誠なる活動とによつて、全国的に黨勢の擴大強化を見つつかるといふことは誠に深謝に堪へない處であります。我大日本生産黨は和を以て第一義とし、然も一旦決定したことは必ず實行するといふ點において決して他の如何なる團體の人後にも墜ちない自信と誇りを持つてゐるものであります。御承知の如く政府は國家總親和を以てその方針として努力されつつありますが果してその實績がなつて居りませうか、甚だ悲しむべき状態であります。

今日の日本は實に軍大時期に當面してゐるのであります、政府も國民も一段と緊張して事に當らなければなりません。本日

の會議の議案には重大な多くのものが提出されてあります、諸君には眞剣に眞面目に審議されて決定事項については即時に実行に移したいと思ひます。各地の代表者諸君にも地方へ歸られたら大いにこれが實現のために努力されんことを希望致します。重ねて申します吾が黨は和と實行とを以つて邁進する。この事を充分御旨み下され一層御健闘あられん事を切望致しまして私の御挨拶に代ゆる次第であります。

續いて大會委員橘尾武雄氏より出席代表の資格審査發表に次いで愛國労働農民同志會々長松本國平少將以下が實、友誼代表の祝辭、並に全国各地より寄せられたる祝電の披露あつて顧問の訓辭に移り病氣療養中の頭山顧問の「激動の群」を萬生顧問が代讀された。

【激動の群】 車變以來茲に三年、皇軍向ふ所京戰克獲敵軍を掃蕩しつゝありと雖も英ソの暴狀益々露骨にして興亞の聖業、途向は遠運なるのみならず世界の風雲また甚だ危急にして皇國の天職愈々重さを加ふ、この秋に當り大日本生産黨が年々その隆盛を致し茲に全國代表者會議を開き内外の對策を審議し大いに黨是の遂行を期せんとするは余の欣快に堪へざる所なり、今や日本國民の責務は一に係りて興亞聖業の達成と世界維局の打開とにあり生産黨立黨の主義亦茲に出づは余の斷じて疑はざる所なり、實くば奮勵努力益々その團結を固ふし一意是の遂行に邁進せられんことを

昭和十四年六月二十八日 頭山 滿

續いて小林顧問の訓辭、小山田大會名譽委員の挨拶を終つて、本部代表挨拶を鈴木善一氏が、地方代表の挨拶を大阪の手島

剛毅氏がそれぞれ感涙を以て述べられ、次いで關根喜四郎氏より本部活動報告が、また福島の松井正光、神戸の小松三郎、福井の長谷部富太郎、京都の大内武、台湾の實間善兵衛、官廳の阿部通の諸氏よりそれぞれ地方活動報告があり、終つて大會書記より左の如き本部新役員の發表がなされた。

大日本生産黨本部役員 顧問 頭山 滿、葛生 能久、小林順一郎
總裁 故内田 良平 總務委員長 吉田 益三

【重頭總務】八幡博堂【總務】徳田整一郎、鈴木善一、西郷隆秀、山本千一、柴山滿、久野一雄、佐橋尚政、永富以徳、白井爲雄、影山正治、小部英男、關根喜四郎、永島義高、手島剛毅、狩野巖、橋尾武雄、船生利重、河上利治

書記局 【書記長】鈴木善一【事務長】白井爲雄【常任書記】鮎澤俊男、千葉友次郎、福島八郎【書記局助】兒玉覺一、瀧田光雄

専門部 【青年部】(部長)影山正治(次長)星井眞澄【組織部】(部長)小部英男(次長)河上利治【遊説部】(部長)柴山滿(次長)船生利重【勞農部】(部長)關根喜四郎(次長)福島八郎【調査情報部】(部長)缺(次長)永富徳以【宣傳出版部】(部長)千葉友次郎【對外部】(部長)鈴木善一【中央常任委員】鮎澤俊男、千葉友次郎、小杉賢一、福島八郎、瀧澤利眞、村田等、宮永源一郎、田中正雄、山本貞一、小松崎重、雨宮信、本多喜一郎、徳田新策、小野義徳、秋山

延一、中井秀市、豊西橋一、尾井真澄、大西正人、往田徳治、太田清徳、阿高克己、梶原重雄、吉川興七、深澤源造、柏村幸雄、長谷川幸男、茂呂輝馬、伊吹芳人、小部信治、栗野隆昭、青野止一、仙田茂吉、山田正治、外支部責任者三十名【参興】永井了吉、小山田淑康【相談役】三木重次郎、岸本守弘、岩瀬幸三郎、坂井六輔、岸本清、尾形榮造、池田弘、角岡知良、立花良介、齋地馨夫、松田順輔、小幡虎太郎、林逸郎、井上四郎、澤大正終吉、鈴木一郎、馬淵吾一、松本庸忠、荻野丈夫、鎌田味川、的場克己、小池銀次郎、山根敏三【評議員】草野正造、内藤太一、大曲三郎、飯塚豊一、松井正光、柿花啓正、伊藤武男、山本昌彦、香渡信、川原信一郎、小松三郎、吉川令三、寺部安定、味岡正義、増田耕一郎

關西黨務局

【書記長】手島剛毅【事務長】小部英男【常任書記】田中正雄（出征中）山本貴一、小部信治、栗野隆昭、奥田藤太郎、中村金次郎、野保勝次

以上を以て午前中の行事を終り、議長は晝食の爲め一時間の休憩を宣したが、晝食を採る前に三會堂前庭において萬生、小松兩顧問を中心に記念撮影を行つた、一時間の休憩が終つて午後一時振鈴と共に會堂は再開され急遽議事に入る。野原議長は聲明・決議の件を上げ、左の如き聲明（案）を濶澤利權氏がまた決議（案）を任田徳市氏が朗讀して満場喝采の如き拍手裡にこれを可決した。

【聲明】

今や聖戰の前途益々重大なり事變は一轉して愈々援將第三國討伐の機運に際會す、日獨伊軍事同盟の締結に次ぐ在支英佛租界の撤收は今日最も緊急焦眉の問題と化しつゝあり、今こそ日本は疾風迅雷雷光石火のうちに英蘇打

倒の大方略を決すべきなり、併も必めて國內の現状を一瞥するに維新回天の大業未だ中途にして、大戦即應の體制確立せず爲政の徒はなほ現状維持の糊塗策に汲々たり、之正に皇國空前の一大時局に直面せりといはざるべからず、この秋において我黨結成記念の佳日を下し、本年度全國代表者會議を開催す、我等の責務や重大にして、我等の決意や不動なり、全黨一致粉骨奉公の赤誠に燃えつゝあり、即ち廣く天下の同愛と相結び、以て純忠の臣節を全ふせん事を期す、右聲明す。

【決議】

(一) 我黨同志は益々立憲不拔の大精神を明徴にし大日本主義の下、國內諸般の根本的維新に盡せんことを期す(一) 我黨同志は愈々故内田總裁の遺教を擴充し、萬難を排して大陸經略の大計に従事せんことを期す(一) 我黨同志は今大車變の眞眼目に傍遊し、將政權の根柢援將第三國の討伐を通じ聖戰貫徹の大道に進せんことを期す。

昭和十四年六月二十八日

大日本生産黨全國代表者會議

續いて左の如き本部提出議案六件、支部提出議案二十件、緊急提出議案三件、計二十九件の議案を熱烈且つ眞剣に審議可決し最後に小部英男氏の閉會の挨拶、萬年顧問の發聲で聖壽萬歳を三唱して萬歳ある全國代表者會議の幕を閉ぢた、時正に午後六時十分であつた。

本部提出議案

第一號議案 日獨伊軍事同盟に關する件 説明者 總務 關根喜四郎

日獨伊三國軍事同盟の締結は國內的國際的兩面にわたる現状打破討論體制確立の大方策にして、聖戰貫徹、維新奉公の神機なりとして極力宣傳運動を展開し來つたところであるが政府は先月下旬これが締結の根本態度を決定したりし如く、天下

に公表したりしも未だに何ら具體的發表を行はな

し動搖を來たし國際的輕蔑の機運を

増大しつゝある、政府はよろしく速やかに三國軍事同盟の締結を一日も早く、その真相と經過を公表して不明朗なる諸方面の疑念を一掃すべきである、この點につき本黨は全國代表者會議の名により政府の責任ある態度を要請すべきである

【要 請】 日獨伊軍事同盟の締結は今大聖戰實施の神策にして又世界維新實現への大方略なり、よろしく高難を排して速やかに之が實現を期すべきなり政府は先きに書記官長談を以て之が締結の根本態度を決定したるが如く中外に公表したるも未だ何ら具體的の發表を爲さず爲に國民間に種々の疑惑を生ぜしめ、又支那民衆に不安の氣を興へつゝありよろしく内外の現狀に活眼を開き一日も速やかに事を決し、その真相と經過を發表して國民の向ふべきを闡明すべきなり

昭和十四年六月二十八日

大日本生産黨 全國代表者會議

内閣總理大臣 平沼騏一郎閣下

第二號議案 對ソ主戰運動の件 説明者 總務 影山正治

周知の如く本黨は終始一貫對ソ主戰論を強調し來つたのであるが、最近における赤白ソ聯の暴戻はますます極端となり、一先きの張鼓峰事件、今次のノモンハン事件、ハルハ事件等はすでに局部的國境紛争の域を超え純然たる戰爭の狀態である、今次支那事變の根本解決は援將背勢勢力たる英ソの打倒なくして絕對にあり得ないことはまつたく自明の理であるが、特にソ聯に對する武力的擊滅の要はいよいよその必要性を増大しつゝある、しかも最近における國民的傾向はかゝる對ソ問題の重

要性を看過し只だ目前下下の現象的問題にのみ目を奪はれつゝある狀態である、かくては遂に今次聖戰の眞義を貫徹し、復興アジア千年の大計を樹立するを得ざるにいたるであらう、こゝにおいて本黨は、府政權徹底擊滅、英勢力全面掃討の運動とともに、より一層の決意と努力をもつて故總裁一生の大念願たる對ソ主戰運動の履行に萬全を期せんとするものである

第三號議案 政・民・社大解散運動の件 説明者 總務 影山正治

萬變下における政友會の紛争事件はたまたま既成政黨の本質を白日下に露呈したに過ぎざるものであつて、民政黨と雖もまた全くこれと本質を同じうてゐる、西洋流民主主義に立脚せる反國體的政、民兩黨の解散は國體明徹、維新進行の上によりして今日最も絕對不可決缺の緊急事である、又その本質において人民戰線たる赤白不逞の偽裝轉向社會大眾黨もまた政民兩黨と共に即時解散すべき存在である、皇道政治の實現はまづ政民、社大の解散に出發すべき所以を明徹にして以て益々これが解消運動に邁進すべきである

【實行方法】 具體的方法としては全國代表會議の名において決議文を總理及び内務大臣に手交すること

【決 議】 舉國聖戰の實戰に邁進しつゝある時紛々たる非國民的紛争を繰返して恥ぢざる國體政友會を即時解散し同黨出身の大臣、次官、參事官等を一齊免官せしめられたし又これと其の本質を同じする反國體的民主主義政黨たる民政黨および赤白人民戰線の中樞たる偽裝轉向の社會大眾黨に對しても、斷乎解散相成度也

昭和十四年六月二十八日

大日本生産黨 全國代表者會議

内閣總理大臣 内務大臣 司法大臣

第四號議案 租界撤收運動の件 (説明者) 總務 狩野 巖

第五號議案 金權奉還運動の件 (説明者) 總務 永富 以徳

第六號議案 農村負債根本整理の件 (説明者) 總務 手島 剛毅

支部提出議案

一、肥料國營に関する件 (説明者) 小池銀次郎

二、工業の地方分散化に関する件 三、國民保健と農村社會施設に関する件

四、教育の根本精神徹底と實際化の件 (説明者) 水谷 道泰

五、銃後國民生活刷新の件 (説明者) 高瀬 道善

六、國民奉公金徴收の件 七、皇道政治確立の件 八、皇道外交確立の件

九、教育の根本改革の件 一〇、日本精神の確立と宗教統一運動實行の件

一一、農村救済の根本的方策樹立の件 (説明者) 小池銀次郎

一二、免租宅地特權奉還の件 (説明者) 松浦 勝一

一三、農山村の物資統制に関する件 一四、買上軍馬の代償馬下附の件

一五、北洋漁業に関する件 (説明者) 小池銀次郎

一六、南方總督制實現に関する要望の件 (説明者) 横尾 武雄

一七、國民精神總動員中央聯盟改組に関する件 (説明者) 大山 俊雄

一八、黨の全國遊説に関する件 一九、黨の縦横連絡協調に関する件

二〇、都市と農村の負擔均衡に関する件 (説明者) 小池銀次郎

緊急動議

一、阿久津村事件犠牲者慰靈祭の件 (説明者) 柳橋 啓一

二、ヒリツピン獨立運動支援に関する件 (説明者) 横尾 武雄

三、強力維新内閣要望の件 (説明者) 河上 利治

何右官議中、本部提出第一號議案及び第三號議案の要請書及決議文を携へて、首相、内相、外相に手交すべく訪問を爲すが選定され即ち出發訪問して、會議中に開議し之が會見願末の報告があつた、次に本全國代表者會議の役員出席者スローガンは左の通りである。

昭和十四年度全代會議役員

【顧問】頭山滿、萬年能久、小林順一郎【總務委員長】吉田益三【議長】八幡博堂【副議長】鈴木善一、柴山滿【司會者】影山正治、小部英男【書記長】船生利重【書記】千葉友次郎、深澤源藏、長谷川幸男、青野正一【大會委員】久野一雄、西郷隆秀、白井爲雄、徳田整一郎、狩野巖、手島剛毅、關根喜四郎、永富以富、橋尾武雄、佐橋尙政、河上利治【大會名譽委員】永井了吉、小山田淑康、三木重次郎、岸本守弘、岩瀬幸三郎、坂井六輔、一岸本清、池田弘、尾形榮造、角岡知良、立花良介、齋地隆夫、松田誠輔、小幡虎太郎、林逸郎、井上四郎、鈴木一郎、澤大坊終吉、馬淵吾一、松本庸忠、荻野丈夫、鎌田味川、山根敏三、草野正造、内藤太一、大曲三郎、飯塚豊一、松井正光、柳花啓正、伊藤武男、山本昌彦、香渡信、川原信一郎、小松三郎、吉川令三、寺部安定【受付係】越智慶介、結澤俊男、星井眞澄、小杉賢一、阿部克巳、柏村幸雄、山田正治、奥田謙太郎、中村重次郎、兒玉覺一、窪田光雄【場内係】住田徳市、福島八郎、瀧澤利量、豊西楠一、吉川興七、栗野隆昭、小部信次、秋山延一、雨宮信、本多喜一郎、糸井義作【連絡係】茂呂靜馬、山本貴一、新保勝次【宿所係】小部英男、福島八郎【新聞記者係】小松崎重、太田岩藏

全國代表者會議出席者氏名

【本部代表】萬年能久、小林順一郎、吉田益三、小山田淑康、岩瀬幸三郎、

14.6.28

舟上四郎、坂井六輔、鈴木一郎、柴山滿、鈴木善一、小部英男、久野一雄、西郷隆秀、白井爲雄、佐橋尙政、手島剛毅、影山正治、永富以富、狩野巖、河上利治、徳田整一郎、船生利重、關根喜四郎、橋尾武雄、福島八郎、山本貴一、星井眞澄、瀧澤利量、柏村幸雄、小部信治、千葉友次郎、結澤俊男、深澤源藏、阿部克巳、小松崎重、山田正治、長谷川幸男、茂呂靜馬、太田岩藏、中村金次郎、奥田謙太郎、新保勝次、糸井義作、兒玉覺一、窪田光雄、栗野隆昭、秋山延一、青野正一【地方支那關係代表】(千葉形支連) 福原勤王、大山竹次郎(松本支連) 水谷道泰、石川葉村、玉井敬佑、松藤光廣、野村守雄、(福原庄次、館茂幹生、水谷清、大島芳雄(金澤支連) 大山俊雄、中山正次郎、吉田謙三(仙台支連) 須藤隆雄(盛岡支連) 信井源一郎、安土秋實(前橋支連) 山崎品道、桑原金太郎、苗木支次郎、峰岸新藏、小林勝造(富山支連) 海野文良(宇都宮支連) 柳橋啓一、丹野清、柿沼信吉、伊藤留吉(久留保革新會) 高瀬道善、清水三郎、澤浦潤吉、諸田幸太郎、船真三代司、星野井松、清水政吉(茨城縣布川支連) 小池健次郎、高橋井松、沼崎巳之助、上田熊太郎、中野貞吉、中野初夫、中野丑松、(菅生革新會) 茂呂巖吉(足利支連) 松山三郎、三上勇一、山内克夫(長野縣上水内支連) 尾澤林太(札幌支連) 清水英雄(八王子支連) 山崎榮一、中島正義、橋本一郎、小澤慶一、山崎重太郎、田中茂七、本島足雄(川越支連) 大和田武雄、川島公郎、春田彦一郎、秋元俊雄、松村井五郎、櫻部守郎(台灣事務局) 賢尚善兵衛(柏崎支連) 酒井一徳、福田清洲(土浦町) 小松崎次郎(岐阜支連) 松原二(三丹支連) 荻野丈夫、大内武、上田朝太郎(京都府) 中川祐、安川牛松(羽田修造、小川隆一郎(大津支連) 小巻親太郎(奈良支連) 中村孝雄(福井支連) 長谷部富太郎、高野孝一(魚崎支連)

南直枝(西宮支部) 住田徳一、仙田茂吉、山下要治、小林秀信(神戶支部) 味岡正義、小松三郎(岡山支部) 大元義
 島支部) 松井正光、岡野三嘉一、岡山利親、冷泉豊(徳島支部) 増田耕一郎、伊吹芳人、松浦勝好、坂兼進、武市俊一、市
 原榮一(小倉支部) 寺本龍蔵(福岡縣金田支部) 許斐徳次郎、伊澤孝一(大牟田支部) 石川直樹(熊本支部) 巖間慈郎、甲
 斐督士(宮崎支部) 阿部滋、中武清風(三重桑名支部) 田中辰三郎、芳井庸一(堺支部) 豊西楠一、八田廣一(南河内支
 部) 三谷蘭作(高槻支部) 小野山松太郎(和歌山支部) 大西文依(大阪府藤) 山崎久太郎、糸田實(愛國石綿従業員會) 宮
 下力藏、倉田嘉代治(淡路支部) 藤崎宗治郎、柴田政雄、矢島進(ライオンズスレート) 田宮知、掛地定治、東海村忠一、牧
 野茂雄(淀橋支部) 岩田勝次郎、鶴岡信市、羅花三郎、中西勇次郎【來賓】 平山周、ボース天來、佐藤良信、若狭勝次、金
 子力三、摺建一甫、摺建克夫、持尾利久、古閑義規、松本重平、田尻隼人、永島文雄、中澤若太、大森一肇、黒田末雄、柳
 澤美壽、村井修、井上吉男、沼田秋成、夏秋龍一、梅津勳兵衛、石橋彌、高畑正、皆川三陸、中根初太郎、淺田春吉、福原
 仁榮、丹羽五郎、小笠原計三、下澤秀夫、萩原益八、鶴野慶介、堀田篤、玉井顯治、小川博生、山口光蔵、有賀八十重、船
 食米一郎、笹本一雄、高島高明、中村英一郎、玉村一雄、山崎松夫、秋田泰佑、外大東塾關係十五名

懇談晚餐會

會場が全部終了したのは午後六時過ぎだった、朝から非常なる暑さであつたにもかゝらず、全
 國の代表者諸君は終始熱烈かつ嚴肅に會談を續行し、少しの緩みも見せなかつたことは正に聖戰下における銃後國民の意氣を
 如實に示したもので、國家のためにも甚だ慶びに堪へないと共に本黨の誇りとする處である。さて會談を終了した代表諸君は

一同打揃つて別室に設けられた懇談會場に臨み、車上用意された粗末ながらも楽しい折詰辨當を開きながら、懇談にはいつ
 た司會者船生總務の指名で大阪の秋山延一氏大津の小巻太三郎の萩野丈夫氏盛岡の信天源一郎氏、足利内山克夫氏等の
 の熱烈、且つ感動的なスピーチがあり、更に大阪の太田岩穂氏の詩吟、大東塾生一同の廣瀬中佐の「正氣歌」の詩吟會
 唱等あり、和氣藪々つきざる歡を殘して七時近いころ萬生顧問の發聲で、大日本生産黨の萬歳を三唱して散會した、

大會記念非常時突破大演說會

全國代表者會談を記念して開催された「非常時突破大演說
 會」は六月二十九日午後六時より東京日比谷公會堂において盛大に開催された。壇上には正面に國旗と、生産黨のマークを大
 きく染め抜いた旗とがたれかけ、その下には故内の總裁の寫眞が黨旗、青年部旗に覆られて飾られてある。その兩側には

- (一) 尊皇攘夷、内外維新 (一) 聖戰の貫徹の方途は生命奉還、金權奉還 (一) 援將道敵の英ソに鐵火の天譴を降せ (一)
- 銃後擾亂に暗躍する人民戦線派を粉砕せよ
 等々のスローガンが満場の聴衆に異常な興奮を興へる。

定刻六時、船生利重氏司會の下に皇居遙拜、戦歿並出征將兵に對する感謝黙禱を捧げ、黨員及黨幹部は故内田總裁の寫眞を
 前に禮拜、終つて船生司會者より開會の挨拶があり、續いて栃木縣代表の丹野清氏の挨拶、茨城縣代表小池銀次郎氏が農村
 問題の重大性と根本救済の必要を叫び、次いで本部組織部長の小部英男氏、凡ゆる行詰りは國內の現状維持を許さずと
 國內維新問題につき、また次の本部幹事部長關根喜四郎氏は世界新秩序建設にあへく國際情勢の眞迫化を叫び、日獨伊軍事

同盟の必要不可欠の四つを説いて降壇すれば、續いて登壇の柴山清氏は金機器遺して經濟機構の根本的改革の急務を説き、次の青年部長影山正吉氏は政民社大の非國權性を痛烈に批判しこれが徹底的撲滅の必要を獅子吼すれば、講壇の觀衆はこれに和し萬雷の拍手を送り會場は熱狂する。續いて本部書記長鈴木善一氏は日支重慶の木質、租界問題最近の北中支那の現状を詳細に説明し續いて關西黨務局長手島剛毅氏は自治政の改革を説き、強力維新内閣出現を要望して降壇すれば最後に吉田委員長登壇、國內、國外問題を全體的に痛烈にこれを批判して觀衆に多大の感銘を與へ、狩野巖氏の閉會の辭に次いで吉田委員長の發聲で聖壽萬歳を三唱して十時餘會程に散會した。

全代會議代表者内田邸を訪問

六月二十九日の早朝より降り出した雨は九時ごろにはひどい大雨となりとなつて上野驛前福仙旅館に宿をとつた地方代表諸君の氣持を重くした。それは午前十時本部に集合して故郷内田良平先生の御遺永遠に眠る多摩墓地へ参拜することになつてゐたからである。午前十時になつても雨は相變らずの大降りである。この雨では遠い多摩墓地まで地方代表の方々を案内するのはお氣の毒でもあるといふので案内役松澤中央常任の計らひで故内田邸を訪問してその御遺代を参拜し且つ未亡人にたいして御挨拶申上げることになり、左記一行は車を連ねて雨中を自黒の内田邸に向ひそれぞれ参拜、未亡人に御挨拶して引返へした。

- 丹野清、大島芳男、水谷道泰、玉井敏佑、松藤光廣、野本守作、杉山一郎、三上勇一、柳橋啓一、高野孝一、矢野田廣造、吉田三三、長谷部彌歩、柳沼信吉、伊藤留吉、上田朝太郎、信天源一郎、大山俊雄、津貫三代司、星野丑松、諸田光太郎、高橋道善、清水秀雄、新保勝次、山本貞一、奥田隆太郎、中村金次郎、糸田貞、秋川延一、齋間善兵衛

其他の運動

以上の外六月中の特記するべき事項として、六月一日に岡山支部の小坂、友海、大森氏等の努力によつて、岡山縣中庄村に中庄分會が本部より梁山總務列席の下に結成されたこと、六月五日に滋谷支部の再生懇談會が本部より船生、鮎澤、深澤の各幹部、支部から松井、加藤氏外十名の黨員が出席して開催され、滋谷支部再建に關して協議されたこと及び、六月八日には大阪中央公會堂で關西黨務局長の合同幹部會並に「松室少將を圍んで時局を語る座談會」が開催されたことであるが六月十二日午後六時半から大阪中之島中央公會堂で開催された「回教民族對策大演説會」に回教協會の阪東嵐次少將、鈴木剛氏、松室少將等と共に我が黨吉田委員長が出演して回教對策の重大性を絶叫されたこと、及び六月二十一日台灣院代表の橋尾、賣間の兩氏と本部の白井、小松崎の四氏が南方總督制に關し、左記建白書を平沼首相初め陸、海、外、拓、興亞の各關係當局に手交した

【建白書】

台灣總督府及南洋廳はこれを合併しその官制は朝鮮總督府區同様に總督及長官以下の地位を引上げ拓務大臣の監督を廢し南方總督として二元的に南洋南洋發展施設を統制せしむる様々の機構を改革相成度左記理由書を附しこの旨及建白候也

七
月

日英東京會談で當局に進言

今次支那事變勃發以來英國のわが聖戰を妨害せる情むべき事實は枚舉にいとまなく、遂にわが軍部當局は天津租界の檢問檢察に出づるの止むなきに至りたることはむしろ當然であつて、この斷乎たるわが態度に狼狽せる英國は、彼一流の老練なる外交手段を弄して、この危機の脱却を策し、遂に東京會談を提議して、七月十五日よりこれが交渉に入つたが、かゝる英國の老練な態度に憤激せる我國民は各地に「打倒英國」「租界撤收」の狼火を上げ、今や一大國民運動として潮の如き勢ひを以てその止る處を知らざる有様であるが、我黨においても去る六月二十八日の全代會議において「租界撤收に関する件」を決議すると共に各地方に演說會を又關西黨務局においては連日大阪廳頭、心齋橋筋等々の目抜き地所四十八ヶ所において手島書記長以下大道演説をなして、國民の輿論喚起に拍車をかけつたあつたが、本部においては東京會談の報一度傳はるや直ちに七月三日佐橋、千葉、福島、柏村の四氏が左の要請書を携へ外務省を訪問これを外相に手交した

【要請書】

今次聖戰の眞義を明徹にし、その目的を貫徹する上において支那における抗日租界の存在は一日も許容してはならない、抗日租界を通じて爲される援將通敵の行動は聖戰の進展を阻み、新支那建設の途上に横たはる最大層面の障害物である。天津租界問題は現地交渉から東京會談へと進展した、天津租界問題が現地で解決されようと、中央で解決されようと、それは天津で生起した英國のみを對象とする局部的出來事として取り扱つてはならない、天津租界問題は英佛を前衛としたる民主主義的、資本主義的國家群の帝國主義的野心と、皇道の世界宣布に全生命を傾倒してゐる皇國日本の聖戰

命との火花を散らす發火點であり、支那の背後勢力を前線に引き出してその非人道的不正行爲を白日下に暴露すべき好機である、従つて天津租界問題は單なる天津租界問題であつてはならない、それは支那全土に所在する抗日租界の全面的撤收の契機である、租界の撤收なくして聖戰の貫徹も新支那の建設もあり得ない。今や天津租界問題は東京會談へと發展し、世界の注視はこの一點に向けられてゐる、聖戰貫徹の重大な事件として租界の早急なる撤收を希求する我々は、東京會談の一點を單なる天津における租界問題を限定するだけではなく、支那全土に所在する抗日敵地たる租界の全面的撤收へと一氣呵成に展開せしむべきであると思考するこれこそ支那事變に際して賜つた御勅語に拜見する積年の禍根を斷つ所以であると確信し敢て以上を要請する

昭和十四年七月三日

大日本生産黨

外部大臣 有田 入郎 閣下

更に會談開始の當日即ち七月十五日午前中佐橋、白井、千葉、兒玉の四氏は内閣總理大臣及外務大臣を訪問して左の如き進言書を手交一切の妥協を拂して英國の敵性免除のためには國交斷絶官報布告も辭せざる一大決意を以て會談に臨まれんことを進言した。

【進言】

今次東京會談に關しては我黨は先般外務大臣に對し會談は單に天津租界問題に止まらず、英の援將通敵行爲を斷々平排して彼を全東洋より放逐し、以て根本要源の方策を講ずることの急務を要請せり、今や全國民は打倒英國

に熱狂しつゝあり、政府はこの際一切の妥協衝合を峻拒して、英國の條件排除のために國交断絶、宣戰布告も辭せざる一大決意を以て會談に臨まれんことを可望す。これこそ上 陛下に奉答し、戰役並に出征將兵に應へる唯一の道なり。會談開始に當つて右進言す。

昭和十四年七月十五日

首相、外相宛

大日本生産黨

日英断交要求國民大會

我黨關西黨務局においては七月七日以來連日連夜にわたり幹部總動員の
下に全市近郊にわたり烈々たる反英街頭演説、又は市民大會を開き國民の反英認識をさらに強調せしめてゐるが
國民の壓力で老練英國を驅逐しろ！抗日租界を即時占領すべし、聖戰貫徹は英勢力の粉砕にあり！、聖戰目的に背反する如
き策動を許すな！

等々のスローガンを掲げて七月三十日夜大干寺公園音楽堂において「日英断交要求國民大會」を開催、定刻前より押し寄せた觀衆は七時半さすが大會場もギッシリと、文字通り立進の餘地なく一萬を算へる觀衆は烈々として肺腑を刺す幹部諸氏の反英演説に國民的公憤にわき上らせ熱狂しきつた觀衆の間からは英國驅逐べしの叫びさへ上げられるのであつた、かくて栗山、小部、船生、手島各總務らは連夜にわたる睡叫びに咽喉の舌痛も忘れてこの大觀衆を前に日英東京會談の即時決裂を期し、（注）「我黨の目的は」に就いて熱辯を揮ひ、吉田總務委員長は

「聖戰目的はアジアより白色人種を驅逐すべきにある、東京會談の必要か何處にある、政府はこの會談によつて早くも軟弱を暴露してゐる、全國民の排英気分は一時的の興奮からではないのである、日本は直ちに英國に對して國交断絶を宣し英國を驅逐を宣すべしである

と滔々として觀衆によびかければあらしの如き拍手は暫し止まず、かくて市議手島剛毅氏を議長に推し左の如き決議文を府野氏が朗讀して満場一致可決し國民的熱情をわき立たせて十一時近く散會した、なほ前記決議文は本部を経てそれぞれ關東黨團へ手交した

【決議】

(一)吾人は聖戰の眞目的に背反した日英東京會談の決裂を期し斷乎國交断絶を要求す (二)吾人は抗日租界を即時占領し全アジアの敵勢力を斷平驅逐せん事を期す (三)吾人は世界維新達成のため日獨伊軍車同盟の即時締結を期す。右決議す。

皇紀二千五百九十九年七月三十日

大日本生産黨主催日英断交要求全大阪國民大會

各地で排英大會

排英布施市民大會並に演説會は七月二十九日後七時より布施市第一足代座に於て開催、本部より吉田委員長初め手島、栗川、狩野、小部、船生氏等の外青年部員多數登壇して排英の大雄辯を揮ひ、二千に近い觀衆は満場一致を以て排英決議を行つた、次に茨城縣布川町の對英有志大會並に演説會七月三十一日は午後一時から、布川町記念館で開催、小池銀次郎氏を初め瀧澤、柏村、永島の各辯士表裏焼くが如き中に排英の大獅子吼をなし、四百の觀衆と共に排

英決議をなして五時近く散會した

臺灣事務局「英の借地權返還要求」 日支事變の進展に伴ひ、南支各地の攻略と共に南方の重要性いよいよ加重されつつある折柄、我黨台灣支部においてはこれが使命遂行に對處するため、今回從來の支那を曠止して新たに事務局を置く事となつたが、同事務局では七月三十日台北市公會堂に役員會を開催して、永代借地權回收問題を取上げ、翌三十一日小林總督、兒玉軍司令官に左の如き進言書をまた淡水英國領事館にたいしては勸告書を、それぞれ手交してこれが實現に邁進しつつある

【進言書】

英國領事館使用に係る淡水領事館敷地及その他の英國施設敷地は、永代借地權と稱するも、これは十八世紀的侵略的、植民地の遺物にして、我日本帝國の領土たる台灣に今尙外人の植民地的權益を殘存せしむること帝國の面目上將又島民の體面上、到底憚る不能の處に有之候、而かも同地は紅毛城の遺跡にして、歴史上保存の必要も可有之國防上よりも要地に有之外國人に自由に使用せしむるに非らずと存せられ候。宜敷之が即時無償回收を實行せられ、領事館及其他施設全部移轉せしめられ候、我黨は役員會の決議に依り右及進言候也。

昭和十四年七月三十一日

大日本生産黨台灣事務局

台灣總督

小林總督閣下

台灣軍司令官

兒玉左衛門閣下

其他の運動

以上の外七月十五日大阪中之島において開催せられた「全大阪日刊新聞社聯合排英大會」に我黨吉田總務委員長は大阪經濟新聞社長として議長となつて、言論界の排英運動に協力拍車をかけられたこと、又七月二十六日午後

五時から九段軍人會館において内田家主権の下に「故内田良平先生の二年祭」が執行され我黨から吉田委員長を始め、各幹部多数参列したこと等が特記されるべき事項である。

八月

日英東京會談即時中止の意見發表

八月に這入つても、七月より引續き全國的な排英

運動は繼續せられ、八月三日黨本部に於ては白井、福島、柏村の三幹部が去月二十九日の排英布施市民大會の決議及三十日の大阪大寺公園音楽堂で開催の日英斷交要求國民大會の決議並びに、三十一日茨城縣布川町の對英有志大會の決議をたづねへ首相、外相、陸相、海相等を訪問してこれを手交すると共に、八月四日には吉田委員長の名を以て「日英東京會談を即時中止すべし」と題するリフレットを發行し、また八月九日には福岡縣金田町に「排英町民大會」を更に八月十日には「福井縣民有志大會」をそれぞれ開催して全國の排英運動に拍車をかけた

日英東京會談を即時中止すべし

聖戰此に二年有餘、皇道宣布の大理想は儘に腰に懸べられつつありて新秩

序建設の黎明は東亞の天地に赫灼として、輝耀してゐる、新東亞建設の劃期的な鴻業は（一）支那をして抗日侮日の迷途

より警覺せしめ、日清支那通關の新趨勢に参加させ(一)阿片戦争以來支那に加へられた英領を大衆とする白人勢力の地
領を除き(二)支那赤化の魔手を排撃防止する三原則の全面成功によつて達成し得るものである。

今次の日英東京會談も、又このわが國策に従つて論議するべきであり英國の對日、對支認識、感情、政策の是正、援將通
敵、害我利敵行爲を根本的に終絶せしめ、さらに日本民族の使命たる東進の世界宣布の進展を阻害する彼の世界觀を變改せ
ねばならぬ、故に會談の根基は彼をして、皇國の東亞新秩序建設の目的と行爲を確認せしむるを以て、一般原則とし、こ
に交渉の出発点を置かねばならないのである、然るに政府の提議する處を觀るに戰闘行爲の確認と害我利敵行爲の抑制を以
て、一般原則としてゐる實に本末を顛倒せるものと謂はねばならぬ、支那大陸において大規模な戰闘行爲が行はれつゝある
ことは懸乎たる事實であつて、今更ら英國の確認を求むべき筋のものでなく、又た害我利敵行爲にしても結局は不法不當な
る手段によつて掠めたる利権を有するが故に爲されるものなればその根源を衝かずして何の効果も期待出来よう、現地軍當
局が天津英租界を封鎖するに及んで急遽狼狽會談を提議し來つた彼の態度に因つてみるも彼の弱點が空邊に存するか明らか
であり、徒らに枝葉末節に低價せず、體面的に根本要素工作に差進してこそ眞の解決點に到達し得ることは三才の童兒と雖
もなほよく知悉する所である、わが國民これを知り、支那の民衆すでにこれを知れるに獨り、政府のみ輿論に順從するなく
耳を蓋ふて鈴を蓋むの愚を演じつゝあるは、皇國萬代を護るものと斷せざるを得ない。已に政府の軟弱斯の如きものあるが
ゆゑに英國の乘する處となり、表裏相反する言動の始終をみつゝあるありやまである、チエン、パレン英首相、ハリファツク

又英外相の、英國議會における(一)英の極東政策は日英會談によつて變更されず(二)英租界は抗日分子の温床ならず、
(三)日英協力して支那資源を開發すべし(四)日支兩國における反英運動を徹底的に取締ることが會談の成功を招來する
ものである、といふ利己的な聲明は彼れ英國の態度を表明して餘す所がない老獪なるタレーギト大使の一舉措、一修辭に關
らざればかなき望みを囑する政府の姿態こそ鮮やかに堪えたりと謂ふべきである、英國の無誠意無反省將に慨然たるものがあ
り何ぞ苦しみて會談を履行するの要である

世界の大局は現状維持、自由主義國家群と世界新秩序建設全體主義國家群との鋭き對立を示し好むと好まざるにと拘らず
その争闘戦は必至と觀せられてゐる、方今世界の大局は急速度をて地球上を統一すべく、進行しつゝあり、世界列強が統一
せらる可く歩み來つたことは有史以來顯著なる事實にして昔より聖賢の徒は人類の先天的享有せる性、情、愛を以て、倫理
的、宗教的に一切の國争を排除し國境を超越して平和なる世界を現出せしむべく、心血を注ぎ又一方英雄の徒は武力を以て
國争を打破し、世界を統一して國境をなからしめ永遠の平和を實現せしむ可く奮闘したものである、兩者その目的とするこ
ころは一にしてその手段を異にしたるのみ、而るに數千年來未だ統一の目的を達せざるは各國民族の風俗習慣、習識が甚だ
懸隔せるため融和統一することが至難なりしによるものにして、釋迦、孔子、耶穌、マホメット等聖賢、歷山大王、成吉思
汗等の英雄がしきりに傑出したるも世界の機運が未だ熱せざりしによるものである。

近世に到り科學の進歩、交通機關の發達により、世界統一の機運は自ら熱し來るものといへる、故に英、米、佛、露は世

界の武力並に經濟力を獨占し世界統一を旨指して立てるは顯著なる事實といへる、而し彼等の世界統一の成否は一にかゝつて亞細亞にある、即ち亞細亞を取るか取らざるかによつて決せられるものである、亞細亞は世界争覇の天王山にして、その天王山を上領するものが勝者である、亞細亞の東端に國してその地形、支那および西比利亞を包容する日本は亞細亞第一の雄邦にして、日本の存在する限り彼等白人をしてその野心をほし、ままにする能はざらざるや明らかなるものがある

ここにおいて彼等にとりて日本は最も邪魔物にして野望を妨ぐる障害物である、しかるに何事ぞ平和主義に陶酔し、不戰條約、軍縮條約等を日本の爲政者が過去において妥斷せし結果、彼等白人の横暴となり就中英國等の如きはアジアに幾多の經濟的擄取を行ひ、ここに大なる跛足を生じ、日支軍變に當り彼の援將行爲は露骨化し、彼の政策はアジアに進出し而して今次の軍變に對する一大障害となつた、アジアより英國を驅逐することは、民族的、經濟的、歴史的、現實的に一齊の事實を見ても當然すぎる程、當然なるものである、彼等を目して現状維持、自由主義國家と稱するは實にここにある、又前者に屬するアメリカ合衆國は英國をして優勢なる地位に置かしむべく率然、日米通商條約を廢棄した。

次に來るべきものが何であるかは國を憂ふる者の等しく豫見する所である、そこはかとなき姑息な解決を圖り果て吾國に及ぼし悔を千載に残すが如きことあらば、何を以て上、聰明に應へ奉り下國民の信倚に報ひんとすや、嗚呼、爲政者にその大計なく責任感なきを東京會議究極の目的は英國をして東亞新秩序建設の目的と行爲を體認せしめ、阿片戰爭以來不法不義に據奪せる在支權益を放棄させ東亞の天地より後退すべきことを條約、且つ速かに實行せしむるにある然らざれば即ち止む即時會議を中止し英國の大理想實現を阻害するもの一切の排撃の實力を行使するあるのみである

組閣に着手せる阿部大將に要請

獨ソ不可侵條約の締結により、八月二十八日平沼内閣が退陣し、阿部大將に後繼内閣組閣の大命下るや翌二十九日直ちに組閣本部たる霞山會館に、千葉、鮎澤、柏村の三氏が左の如き要請書を手交してこれが實現を要請すると共に、全國分黨に對しても下記の如き指令を發してその態度を明かにした

【要請書】

國際情勢の慌ただしき變轉の眞只中に平沼内閣は、その不明の故に總辭職を執行し、遂に八月二十八日大命は閣下に降下した政黨政治没落以來我々の眼前に登場した歴代内閣は、皆相當の努力を以て時局に對處したに拘らずその成果は甚だ僅少であつて、未だに強力なる維新體制の完成に到達しない現状である。多數の人材を擁し、多量の努力を拂ひながら而も何等の成果もない所以は、歴代内閣に確固不動の一貫した思想的根基が缺落してゐること、政府部内の人的政策的に不統一、と責任政治に敵してゐないといふことに盡きる、この缺陷は組閣當初における四方圓滿、八方美人の曖昧なる組閣態度に起因する。今般大命を拜受した閣下においては、從來の歴代内閣が踏襲し來りし政黨、財閥、官僚、日本主義、自由主義、國家社會主義等、奇木細丁的統一、形式的總親和の態度を一掃して、牢固として拔く能はざる維新的思想の根基を確立すべきである。この思想的根基に立脚して閣僚の人的配置を考へたならば、將來において内閣不一致の如き物笑ひの理由によつて瓦解することはない。我々國民は、歴代内閣によつて示された閣内不一致の行動や、聲明によつて、如何程その身心を浪費した事か。最近の國民の不安は、かゝつて閣内不一致によることを三留すべきである。次に責任政治の徹底

といふ點であるが、我々皇民の本務が維新黨を舉行することにある以上内閣議公の行爲もその旨を本務として行ふべきである。従つて自己の執りたる行動が、無責任であらうと維新黨に背反するものならば、即刻責任ある態度に出ねばならない。我々の祖先は僅かな條約にすら切腹を以てその責を負つてゐる。閣下が天命を授けし相聞されるに當り、以上の三要件即ち維新的思想の確立、内閣の生命的統一、責任政治の徹底を根本的態度として、徹底的維新精神の完全な推進し以て外、懸念なき國際政府に對處し、内對支離方針の一元化を計り而して上、陛下の御聖慮に應へ奉るべきである。若し閣下として、この決意なくば事即刻天命を拜辭して臣道本務を果すべきである。右を請す。

昭和十四年八月二十九日

大日本生産黨

陸軍大將阿部信行閣下

【指令】

獨ソ不可侵條約締結が投した一石は世界的波紋を推し、平沼内閣はついにこれによつて連障するの止むなきに至つた。今般の政變によつて新しく發端した阿部新内閣に對しては、その組閣本部を訪問して別紙の如き要請書を手交し、本黨の態度を闡明したが、國內對策に關しては本年度全國代表者會議の席上において決定せる態度方針を以て、その目的達成のために努力しつゝある。國際的には獨ソ不可侵條約に示された獨逸の行爲は、防共協定國たる日本への一大背信行爲であり、我々の断して許すべからざる處であるが、然しこれは皇國日本にとっては寧ろ幸ひであり、これを契機として日本は今後獨自の立場を以て進むべき國際的決意を一層強固にするものと信ずる。ソ聯と皇國日本とは絶對相容れない不倶

靈天の仇敵である、昔間一部に流布される日ソ不可侵條約を締結して全力を擧げて英國を撃ち、以て支那事變の解決を望むが如き傾向は親英的態度と共に斷乎粉飾すべきである、親英黨の本黨の態度は確固不動であつて、本黨のが從來執り來りし自主的外交の確立は現在最も必要緊急なものとなつた。如何に國際的政局が變轉し、國內的政變があらうとも、黨の態度に變化はない、益々結束を固め維新黨の大道に献身するものである、各分黨においても以上の趣旨に則りてそれぞれの運動を起されんことを切望す。

昭和十四年八月二十九日

大日本生産黨本部

全國各地分黨御中

其他の運動

以上の外八月二十一日午後六時から群馬縣沼田町の沼田劇場で我黨北毛分黨重に群馬維新黨共同主催で「國難突破大演説會」が開催され、我黨の船生利重氏も出演して一大獅子吼をなし、六百の聴衆に多大の感動を與へた。

九月

戰時内閣確立に關し意見發表

九月四日附自由黨員長の名を以て「戰時内閣の確立を希望」

す」と題する左のリーフレットを發表した。

獨ソ不可侵條約は帝國の政權に急激なる衝動を與へ、閣部新内閣は平沼内閣に代り自主獨立外交への國民の眞實なる輿論を擔ひて新しき出發線に立てり、而してその相閣を觀るに果して側近の重臣は十全の臣節を竭し得たりとなすや、是れ第一に吾等の理解に苦しむ處なり、更に閣僚の觸れを檢討するに十人中七人または元大臣の經歷を有す、歴代内閣にして天災地變眞に不可抗力のため互解せるは僅々二、三名に止まり殘餘は悉く經驗に過ちありて罪を闕下に謝し骸骨を乞ひ奉りたるに非ざるはなし、現閣僚諸公殆どまた同斷たり、昨日不明を記ひて挂冠せしものが今日再び恩遇を蒙る、此果して大義に透徹せりと稱しうべきや、吾等の不可解とせる所なり。日本臣民道は萬代不易にして聖明を覆ふ過誤あらば直ちに履腹、以て自ら決するを義とす、近世徒らに歐風吹入りて道義地に墮ち「職を辭すれば即ち足る」と爲すの思想變りて國風を紊るに至る處に責任を解せざる爲政者の跡業が産みたる悲しむべき現象なり。遑莫、閣部内閣は誕生してその第一歩を踏み出さんとす吾等は暫らく新内閣の行はんとする處を監視し是々非々檢討批判を加へることとなしたれど聊か所懐の一端を叙し強力なる戰時内閣の確立を厚望せんとす。惟ふに國民は歴代内閣の閣内不一致の行動、聲明より心身を浪費不安を増したること一再ならず、これを要するに政府に牢固として抜く能はざる維新的思想の根柢不確立に起因す、平沼内閣が閣内早々總議和を説くに至りしことも閣内不一致を表明せる以外のものに非ず、眞に閣僚にしてその責任政治に透徹し維新眞實を以て臣道の本務なるに透徹せば斯くまでの外侮を招き國內不安の激發は未然に防止し得たるならん、前軍の覆轍は後軍の戒めなり、新内

閣は深く思ふ此處に致し一致團結責任政治に徹し重慶處理目的に向ひ體面不披一貫せる主張のもとに萬民尊仰の政治を行ひ苟くも維新眞實に背馳するあらば即刻大義を明くせんことを望みて止まず帝國は空前の難關に渡途、内外共に多事多端にして斷行せざるべからざる革新工作を無數に句載す。まづ外に是を觀るに獨ソ不可侵條約によりて激變せる國際情勢は帝國外交の一新を期すべき契機を齎すに至りぬ、頃日若間日ソ、日華提携論、或は獨ソ條約如何に拘はらず、日獨關係強化説を爲すものあり然れども斯の如きは帝國の愛國精神を滅却し日本の進路を阻害毒する國賊論のみ、帝國は現にソ聯と支那に、外蒙國境に戦ひつゝあり滿、支赤化を企圖するソ聯軍赤匪を撃退すべく鉅額百萬を大陸に送りて戰闘中なり、支那軍變の大眼目が防共、阜道を基調とせる新秩序建設にあるは喋々を要せざるところ、何を苦しみて提携の要あらんや明確に相對立し不倶戴天の關係あるものにしていつれに提携の途を求めんとすや、斯の如き提携論は道義日本を殺すものであり支那軍變の眞實義を滅却興亞の聖業を永劫にアジア民族の掌中より喪失せしめる暴論なり。英國は夙に亞細亞侵略の爪牙を伸ばし同種相喰む悲惨なる亞細亞の闘争を惹起せしめたる元兇にして、今事變に當りても害我利敵行爲に終始、帝國の國是と正面衝突をなす現に陰に陽に闘ひつゝある仇敵たり。もし歐洲情勢の變化により帝國へ提携の申入れありとするも帝國は彼が東亞における一切の侵蝕權益を放棄、退陣を確約實行せざる限りその申入れに應ず能はざる關係にあるなり。重大背信行爲を敢て爲したる獨逸との提携説の如きは一顧にも値せざる妄論にして斯る屈辱外交を口にする者あるが故になかなかに外侮を招く經驗に徹し國民は確固たる信念を把握すべき要緊な緊きものあるなり。已に日獨關係清算され白紙へ還元せる帝國の進む

道は唯一つ即ち英ソを擁護し種々新憲法建設あるのみ、阿部新内閣は須く強力一本外交を確立庶代内閣が運轉すべき左
 明せる能行外交を是正す實せる準備を清景に強く更に強く國是を貫徹すべきなり、又此を内に關するに自由主義時代の精神を
 掃拭されず諸機構の修正を要するもの山積す、憲法依然り、文政依然り、産業機構依然り、金融依然り、吏治依然り目する國政其
 非を異ね得ざるなし。戰時目的を完遂せんに宜しく一切の政治機構を改革簡易化し内閣を初め凡百の機構をして戰時體制
 化せざる可からず、一億同胞士でに鐵の如き決意を固む、憲政府のみ妥和たり得べけんや、須く阿部新内閣は衆望に應じて
 三思、斷行に邁進し若し非力にして成就するなくんば宜しく挂冠、責任履行を適任者へ譲り本來の百道を遵守されんことを

府縣會議員選舉に關し指令を發す

今回行はるる各府縣會議員の總選舉に際しその對
 策協議機關として「選舉對策委員會」を設置し、左の諸件を協議決定せり。一、各分府縣選舉員中、府縣會に議員として立候補
 補せんとする者は各分府縣都會の承認を得て本部委員會に申出べし、其型項として左之件を附記するを要す(イ)立候補地區
 (ロ)應接辯士の有無(ハ)開戦の期日(ニ)事務所及選舉事務長(一)、提すべき政見綱領は必ず本部委員會の承認を得べ
 きものと十三、原則として本黨の提すべき一二三を掲げれば行政一各府縣の職業組合、産業組合の公平なる統制を促進財
 政一税制の徹底的整理殊に戰時負擔の均衡、官公營事業の民業化並に擴充、社會一犧牲産業人救済の徹底、軍事機務事業の強
 化促進、醫療機關の公營充實(ス)ローガン参考▽國內の革新は實業自治體の活動より一犧牲産業人の徹底的救済を急げ!
 △聖戰の目的貫徹は國內維新の斷行にあり▽府縣會の刷新は吾等の手で▽既成政黨の撲滅人民戰線の鞏固▽英露に對する

邊は正しい選挙より! 右決定す

昭和十四年九月

大日本生産黨本部

對時局聲明發表

九月二十日午後二時半より大阪北濱の吉田事務所にて合同總務會を開議し、吉田委員長
 以下、白井、影山、佐橋、船生、森野、關根、手島、小部、栗山の各總務出席して、時局に對する方針其他につき種々協議の
 結果、戰時局勢を發表して我黨の態度を明かにすることを決定し、九月二十日附左の如き聲明書を發表した

【聲明】

今回本黨は現下歐洲戰況に支那軍變處理に關し慎重協議の結果左の如き結論に到達せり依つて天下に
 聲明し本黨の向ふべき所を明らかにせんとなす 一、歐洲戰況に關する件 一、現下歐洲に於る戰亂的事態はすべて之れ白人
 剝奪階級における野蠻的利己的動機より出發せる紛争なり従つて日本は之に介入参加することなく、専心聖戰貫徹の一道に邁
 進邁進するを可なりと確信す 二、日本はこの際從來の依存外交を脱却し使命外交に専念すべきものと確信す 三、英ソに
 對しては從來通り緊ソ討英の大方針を更に積極的に遂行す 四、獨伊に對しては從來とも道において結ぶべく斷じて阿附追
 從的態度をとるべきにあらざる旨を強調し來れるが、今後は特に監視的態度を以てこれに臨まんとなす 五、現内閣並に中央
 下層部における親英親ソ的傾向に對しては極力之を警戒阻止せんとす 六、日獨伊防共協定は獨ソの同盟により實質的にそ
 の效力を喪失せるものと認め今後本協定に依存の餘地なしと信す 七、日英會談は明らかに決裂せるものと認め今後協約に
 妥協の餘地なきものと信す 一、支那軍變處理に關する件 一、聖戰貫徹に當りては飽まで國民黨三民主義の全面的決定を

代て終始すべきものと確信す 二、將政權は徹底的に之を破壊す 三、英ソの操縦行爲を断滅し更に英ソ勢力の全面的退放を期す 四、聖戰遂行を阻害する一切の和平策動を粉砕す 五、島嶼上陸地區には軍政を布くを最も適當と認む、一切の敗北的偽政府の樹立を不可と信す 六、英佛等外國租界を速やかに之を撤收すべきものと確信す 七、明治天皇百壽合邦の御聖旨に則り日滿支合邦を實現するを以て對支處理方針の最高目標となすを可なりと確信す 右聲明す

昭和十四年九月二十二日

大日本生産黨

府縣會選舉戰の成果

今回全國一府三十七縣にわたつて行はれし府縣會議員選舉に際し吾黨よりは

總務、手島剛毅氏（大阪市住吉區）、中央常任委員住田徳市氏、（兵庫縣西之宮市）、相談役荻野丈夫氏（京都府中郡）、評議員大内武氏（京都府福知山市）中央常任委員青野正一氏（大阪府北河内郡）

諸氏の出馬を見たが何れも既成金權政黨群の野蠻と百戰練磨と巨豪連を向ふに懸しての闘ひで言語に絶するの苦戰を續けた各候補者の得點は、住田徳市氏（落）次點千二百四十五票 荻野丈夫氏（落）次點七百七十八票、大内武氏（落）千六百二十九票 青野正一氏（落）六百五十二票 手島剛毅氏（當）千九百〇九票

なほ手島氏は黨公認とし、住田、青野、大内氏は黨推薦者、荻野氏は中立として闘つた。なほ今回の選舉を通じて非常に愉快に感じ、且つ大きな收穫でもあつたものは、吾黨の立候補地より社實大衆黨を完全にノックアウトしたことである。即ち我黨の立候補者の無い地區においては黨々當選してゐる社大黨立候補者も、我黨の手島、青野、住田氏の立つた地區においては

完全に擊敗してゐることである。この點、青野、住田の兩氏は憤慨したりといへども、甚だ以て大いなる功を奏せるものといはざるを得ないのである

黨章略章新制さる

入厩鏡に朝日を配した我黨の黨章は、今や全國に分布して異常なる黨勢の發展を物語つてゐるが、今般この本章に對して略章が新制され、これは銀台黒地に白く「生産黨」と浮かしたもので、縦二分横五分位の清楚な感じのするものである

其他の運動

以上の外特記さるべき事項として、九月六日午後六時より松本市公會堂に、松本支部主催の「國權突破大演說會」が開催され、本部より船生、關根の兩總務及瀧澤常任が出演したこと、總務佐橋尚政氏が調査部長に新任したこと、日韓合邦三十年を記念して先覺志士の慰靈祭が黒龍會主催で九月二十九日青山會館で執行されたこと及び大西文彦秋山延一の兩名が黨規黨則に悖る行爲ありたる廉を以て除名處分に附されたること等である。

十月

英大使の招宴に不出席を勸告

十月三十日クレギー英國大使が支那から歸るといふ夫人

を以て迎へ、西下の機曾に關西財界官界の名士連を新大阪ホテルに招待して午時懇談會を開くといふ情勢を耳にした我が黨
西黨當局においては、十月二十八日左の如き聲明書を発表して知名各層に連すると共に

【聲明書】 クレーギー英大使が大阪に來り新大阪ホテルにおいて、大阪府市首腦部および經濟界の有力者と會談する
といふ聖戰の實徹は亞細亞より英ソの懸退にあり、彼クレーギー大使何を會談せんとする、皇國日本は英國の魔手により
再び彼等の番天たるの愚を始す勿れ、大阪府市民のあの熱烈黨義ある排英運動を銘記せよ、親英派と稱せらるゝ一部少數有
力者によつて、英蘇の戰功を懸断さるべからず、我輩はクレーギー大阪會談を絶對反對すると共に大阪市民に重大監視の要
あることを警告するものなり、右聲明す。

十月二十八日

大日本生産黨關西黨務局

知事、市長、商工會議所會頭、師團長等、軍官方面には人を派して招待を断れと警告し廻りさらに招待當日の三十日午前再
び、電報を以て「日英大阪會談に出かけることは一寸待つた」と警告を發したが、午後零時半わづか二十六名の少數ながら開
宴された、我輩はこれに先だち午前十一時新大阪ホテルに抗爭の陣を構へ關西黨務局の柴山、野野原氏等十數名の代表がク
レーギー大使に面會して下記の如き勸告書を手交すべく、交渉を重ねた結果クレーギー大使は大阪總領事代理として遂に之を交
理したが、我輩代表者は宴會場に當てられたる奥一階大ホテル前に頑強つて、宴會が済むまで演説をしたり大聲で怒鳴つたり
軍官隊ともみ合つたりしたので、宴會場は時ならぬ不氣味な空氣につつまれ、出席者は何づれも周章狼狽して、ほうほうの態
で刑場を閉ぢ、料理場を抜けて逃げ歸つた始末であつた、尙クレーギー大使も同ホテルに一拍の變定を變更して匆々神戸に引返

へしたことも痛快なことではあつた、因に同日の勸告文左の通り

【勸告文】 「聖戰の目的貫徹は援蔣國の懸念によつて完成す」この決意は戰として動かす而かして貴國の永久に亘る援蔣
行爲は今や世界周知の事實なり、依つて速かに援蔣行爲を中止せられたし、吾人は貴官かわが國內における策動を嚴重監視
するものなり。

昭和四年十月三十日

大日本生産黨

クレーギー大使閣下

「妄論親ソ親英を撃つ」聲明發表

皇國日本の一部には聯ソ、討英派と討英派と討英派の
如き非日本的、國交調停國際外交論が喧しつたつある、即ち日本の目下の使命は支那事變を可及的速かに解決すべきでありま
す。事變處理の最大障害となつてゐる英國を討滅しなければならぬ、それには後顧の憂へを絶つためにソ聯と手をにぎつて一
意討英の歩武を進むべきであると断ずる徒輩が聯ソ討英派でありその逆を行くものが親英、親ソ派である、然るにこの兩者は
共に腹心の目的と濟濟外交の眞義を解せざる「國體的徒輩なり」として我輩は左の如き聲明書を発表し討英派の大方針を明示した

【聲明】

復讐怪奇を極むる歐洲情勢の推移は微妙なる影響を帝國に齎し、粟米糧食提携編等々複雑なる様相を露
呈するに至りぬ、就中、ソ聯と連合企圖喧し、私かに日ソ親善論者の會合すら見るに至たるは甚に驚くに堪えたる事
なり。日ソ親善論者曰く、迅速なる事變處理はソ聯を援護より、手を引かしめるにあり、且つまたソ聯をして、その南下政

費を遂行せしめ、ドイツとの角逐に奔命せる英國をして、收拾に難澁させ極東より退陣せしむるにありと、而して爾日
 ツは既に既成協定を結びたり、ソ聯の本邦出漁船に對する壓迫は除去されたり、島々彼此の間に紛擾の因あらんや、と之實
 に権の半面を讓たる論にして一顧だに値せず、支那事變の眞意義は滅共以外になし支那赤化の魔手を擯にせる彼ソ聯を討た
 ずして何處にか事變處理あらん必戰協定妥結したりと雖もこは彼の侵略を驅逐せるに非ず、彼より停戦を乞ひたるもの領海
 外の出漁船に對する壓迫こそ元來不當のものにして、除去されたりとて取て喜ぶべきものにあらず、何ぞ喋々するに足らん
 や、況やソ聯をしてイラン、アフガニスタン、イラク、アラビヤ、トルコに進出せしめ印度を脅かすことにより英國を極
 東より退陣せしめんとせるが如きは英帝國主義の爪牙をソ聯共產主義の狼噬に代ふるのみ、桎梏のアジヤ民族解放の理想と
 する八紘一宇の聖國精神に悖る大にして功利主義以外の何ものにも非ざるなり、

則英撃ソは、帝國の一貫せる國策、皇道宣布の大事業完遂への聖戰を大陸に遂行しつゝある帝國の理想を阻み機率的に援
 將をなしつゝあるソ聯との相闘は宿命的なもの、漁業條約改訂に理由なき自説を固執し、北樺太油田開發に對する不當壓迫
 解消せず彼我國交に打開の曙光だに窺知せるを得ざる今日に於て、何を苦しみて親善を議するの餘地やあらん、斯く如きは
 外國に對し我國民が事變處理に倦み悩めるかの諷刺を與ふるに過ぎず、又内に對しては大眾を眩惑士氣を阻喪せしめ聖國體
 制を紊るのみ呼種子身中の虫とは彼ら親善論者なり帝國の進道は唯一つ一億國民は嚴に國策を紊る風潮を誅し打倒共產主
 義、打倒資本主義、打倒功利主義、打倒ソ聯、打倒英國の道に團結、右顧左眈する事なく八紘一宇大理想實現へ邁進すべきなり

「内田先生を偲ぶ」出版

我黨總裁内田良平先生遊いて二年有半、去る六月の二年祭執行當初より

吉田委員長は「内田先生を偲ぶ」著書出版を意圖され以來、同志、知己、門下生等に對し之が執筆方を依頼中であつたが、こ
 れを取纏め「内田先生を偲ぶ」と題する一巻が十月二十日附で上梓された。内容は故内田先生の遺影、墓所、遺囑等の写真數
 葉が收められ、吉田委員長の「嘸國士内田良平先生を偲ぶ」の一文を初め同志、知友、門下生等二十七名の故先生を思慕する
 切々たる眞情を吐露した百七十頁にわたるもので故先生を偲ぶよい資料であるといへやう

吉田委員長著「經濟維新管見」發行

十月二十五日付を以て吉田委員長が「經濟維新管見」と題する

(一) 國內整備の緊要性 (二) 道徳、經濟不二體 (三) 金權を奉還せよ (四) 産業を民業的公營とせよ (五) 官吏の獨善を排す
 等の五項目を内容とする經濟革新に對する意見書を發表された

役員異動

本部書記長鈴木善一氏が辭任され、十月十四日入幡博宣氏が新書記長に就任されたこと等であらう

十一月

十一月に遼入つては、先づ十一月七日午後六時より長野市圖書館大講堂に、本部並に長野縣支部聯合會主催の「國難突破大

演説會」が開催され、本部より吉田總務委員長をはじめ手島、柴山、野山、小部、船生の各總務出席して、言々火を吐くが如き大獅子吼をなし、満員の聴衆に多大の感動と感銘を與へたのをはじめ、十二月には大阪市港區築港野山においてまた二十

五日には午後七時から岐阜市公會堂においていづれも討英、歐ソをスローガンとする國難突破大演説會が開催され、吉田委員長をはじめ幹部多数登壇して一大熱辯をふるつたが、この月誌記されなければならぬことは「阿久津村殉黨同志の慰靈祭」が次の如く盛大に執行されたこと、及び青年俱樂部主催の「聖戰明徴全國青年大會」が開催されたこと等であらう

阿久津村殉黨同志の慰靈祭並記念演説會

去る昭和七年正月本黨と社會大衆黨との間に惹起されたるいはゆる阿久津村紛争事件は本年で滿七年になる、これが七周年に當つて十一月九日午後二時より宇都宮市下河原町常念寺においてこれ等殉黨四氏の慰靈祭が盛大に舉行された

當日は犠牲者木戸氏の未亡人、相馬氏の實父以下の遺族、黨本部よりは吉田總務委員長以下本部幹部三十餘名、又宇都宮支部よりは柳橋支部長代理、佐藤相談役以下支部黨員多数、足利支部よりは杉山一郎氏以下、友誼團體からは野口大日本青年黨代表、田沼日本革新黨小山支部長等百數十名列席、式は宇都宮支部柳橋氏司會の下に開會、先づ一同起立禮拜の後、橋氏の開會の辭、佐藤相談役の祭文、奉土、常念寺住職の讀經、吉田總務委員長の祭文奏上を終つて來賓弔辭、大東聖生一同の朗吟、各方面より寄せられたる弔辭、弔電の披露あつて焼香に移り、各遺族の焼香、本部代表、支部代表、一般の焼香を終り、續いて吉田總務委員長の挨拶、遺族代表の謝辭支部代表の挨拶あつて感會裡に式を閉じた。

因に當日の祭場は故人の幽止靈性を稱ふるが如く頭山雨翁、萬生龍久先生、小林順一郎先生、内田淑榮夫人等を初め、愛

國難民同志會、時局協議會、鶴岡莊等々各先輩、友誼團體等より寄せられた花環、供物等が飾られて盛大であつた

阿久津村事件犠牲者慰靈祭に際し吉田委員長以下本部幹部多数宇都宮市に來るを機とし、十一月九日午後七時より縣公會堂に「國難突破大演説會」を開催し、吉田委員長以下柴山、手島、野山の各總務出席、愛國の大雄辯を演じた

聖戰明徴全國青年大會開く

我黨の青年分子を初め全國維新陣營の中堅的青年分子を糾合し轉成されてゐる「青年俱樂部」に於ては最近頗る緊迫せる内外情勢、即ち内には國民生活問題を初めとして思想、産業、教育問題等々誠に憂慮すべき事態累積し、外に對支、對ソ問題及び對歐關係等々之又複雜怪奇なる様相を呈し、全亞細亞民族の盟主たる日本の負荷責務愈々重きを加ふるの秋、獨善、無能、統帥力を缺く官僚が早くも非常時局擔當の資格能力なき醜態を露し、爲めに國情は唯一途危急の過程を辿りつゝある折柄今にして奮起一番せずんば悔を百年に残すの愚を要すべき緊急時なりとして全國に飛檄し、十一月二十一日午後六時より青山會館に「聖戰明徴全國青年大會並に演説會」を開催した

當日は大阪、京都、福岡、新潟、長野、群馬、千葉、埼玉、神奈川等々全國の代表外數參列し、持尾利久氏司會、我黨影電正行氏議長の下に、宣言、決議を可決し、當局訪問委員を決定して講義を終り、次いで來賓祝辭として我黨吉田益三氏の挨拶があつて大會を閉じ、引續き演説會に移り、北陸代表登石清、近畿代表河上利治氏以下長谷川幸男、瀧澤利眞、原達一甫、影山正治、永島文雄の諸氏交々立つて愛國の熱辯を揮ひ、十時すぎ佐橋尚政氏の發聲で聖壽萬歳を三唱して散會した

演説會、決議は翌々二十四日午前十一時から訪問委員によつて首相、外相、陸相、海相へそれぞれ手交された

す(一)我等は聖戰明徴のため強力的内閣の出現を望みます(二)我等は聖戰明徴のため國內維新の實現を期す

聖戰明徴全國青年大會

其の他の運動

以上の外、十一月三日明治節の佳節に、尼崎支店再建宣講式並に座談會が開催されたこと、および我黨總務委員長吉田益三、頭山秀三兩氏主宰の「全日本愛國諸大會議」が十一月二十三日晴國神社大祭の佳日を期し、午後一時より東京赤坂海池の三會堂において開催されたこと等である

十二月

逼迫せる内外情勢に關し指令を發す

愈々昭和十四年の掃尾を迎へた我が黨は、内

閣、外交問題を巡り逼迫せる社會様相に對して輕率妄動を慎むやう、十一月十二日吉田委員長の名を以て左の如く全國黨員に指令したが

【指令】 今や一切が未解決、未決定のまま、聖戰第三年も暮れんとしてゐる、支那事變と歐洲大戰のため國際關係は

益々複雑多難となり、國內的には急を要する種々なる問題が山積してゐる、かゝる切迫せる世態に乗じて人民戰線派的、一敗戰的行動や思想が頓に隆盛蔓延し、戰時下の皇國日本を混亂せしめんと狂奔してゐる。この秋、皇國無窮の發展を要求する本黨の全國黨員各位においては、逐次發起する外交問題や經濟的、政治的なる國民の不滿に對しては、その原因を極めずして輕率妄動することなく、慎重深慮して此等國民の不滿不平を革命的人民戰線派の煽手惑はせられざるやう維新的正しい方向に引導すべきである。茲に本年掃尾に際して、切迫せる社會情勢に對する本黨の態度を明示し、全黨員の果敢なる御奉公を切望するものである。尙重慶問題勃發の際に至急本部の指令を仰ぎ行動せられたい。

昭和十四年十二月十二日

總務委員長 吉田 益三

全國黨員各位殿

親ソ派撃滅を宣言す

十二月十五日左の如き「親ソ派撃滅宣言」を發表して、聯ソ論の妄説を逐條

反駁して、聯ソ論者に對して斷平として官戰を布告した。

親ソ派撃滅宣言

謹みて按ずるに大詔によりて炳として明らかなること今次聖戰の眞面目は「一東亞種年の禍根を斷滅し」以て皇道に立脚せる東亞新秩序を確立するにあり「東亞種年の禍根」とは何ぞ、他なし表には抗日容共國用黨政權にして、裏には之と野合して以て支那の掠奪を企圖しつつある英ソ帝國主義なり。即ちこの表裏兩面よりする「ソソの敵」を根本的に打倒放逐せずして斷じて聖戰の貫徹はあり得ざるなり。然るに先般來、獨ソ同盟の成立による日獨伊

軍事同盟の失敗とノモンハン事件に關する日ソ停戰協定の成立以來、國內諸方面に聯ソ論の盛衰を見、或者は日露伊ソ四國軍事同盟の締結をいひ、或者は日ソ不平等條約の締結を論じ、或者は聯ソ討伐を叫びつつあり。いはゆる維新陣營なるもの内部にすら得々として斯る論議を放言するものあるを見る。吾人は天地神明に誓つて断言す、かかる聯ソ論こそは實に國體不田徳神洲不信仰の奇論邪説のみと。かかる聯ソ論こそはかの親露派と共にまことに國體の敵、皇道の敵にして斷罪すべし。〇〇べき存在なり、この徒輩を〇〇す、この俗論を彼らをして何の聖戰何の維新なりや、憂憤をひきず痛心賦す能はず、吾人遂に起つて嚴に聯ソ容共派に開戦を宣告する次第なり。ここに端的に吾人が信念を開陳せん(一)日本とソ聯は思想上國體に相容れざるなり、彼は共產主義を以て全世界の赤色革命を實現せんとし我は皇道を以て全世界を再建せんとす、彼は日本國體を以て最大の敵となし、吾は共產主義を以て人類の敵となす秋毫一點空論の餘地あることなし何を以てソ聯と結ばんとするか(二)ソ聯とコミンテルンは一體不可分にして彼は日本國內にコミンテルン日本支部たる日本共產黨を作成し、これを通じて多年日本國體の破壊工作に狂奔し、現にこれを強行しつつあり何を以てソ聯と結ばんとするか(三)ソ聯は支那に中國共產黨及共產黨を結成し此を通じて支那侵略の野望を逞ふし、今次事變の元兇また此にあり。數萬の皇軍は彼等に虐殺され聖戰は彼らによつて完遂を阻まれつゝあり、何を以てソ聯と結ばんとするか(四)先の張敬峰事件、今次のノモンハン事件は實に未曾有の大激戦にしてしかも皇軍の善戰勇闘にかゝらばらず、遂に不田徳協定を見る。このまゝに止まんか國の威風全く地に墜ち皇軍、皇民の士氣また阻喪せん。何を以てソ聯と結ばんとするか(五)樺東における一切の利害日ソ互に全く相

反すかの漁業問題の一事を以てするも明白なり過去二十餘年、彼我紛争の絶えざる萬人の等しく知る所なり。何を以てソ聯と結ばんとするか、更に聯ソ派の言論若干を擧げて之を俾碎せん(一)聯ソ派曰く、ソ聯と提携するはコミンテルンと結ぶに非ず又共產主義を認めるに非ずと、ソ聯を離れてコミンテルンの存在無く、共產主義を離れてソ聯無しソ聯とコミンテルンと共產主義は三位一體にして絶對不可分なり。之を分離して考ふるは驚くべき認識不足の眞論のみ(二)聯ソ派曰く、ソ聯と結ぶは日本及び支那の共產運動を認めるに非ず、かへつて支那より共產運動の手を引かせるにありと、ソ聯はしかく善人に非ず、もし日本にしてソ聯と結ば、忽ちにして日本及び支那の共產運動は飛躍的に活潑化するべし、過般のノモンハン停戰協定締結せらるるや、俄然日本國內の共產運動状況を呈せりとは當陸開催せられたる全國警察部長會議の席上内務大臣の報告したる所なり停戰協定にして然り、いはんや不田徳條約締結の曉においてをや、ソ聯と結ばんとするものは即ち日本及び支那の共產運動を公認助長せんとするものなり、聯ソ派は即ち容共派なり、この點一切の論辯を許さざるなり(三)聯ソ派曰く、ソ聯と同盟せば、數年間にはソ聯と衝突の恐れなし、滿蒙における對ソ軍備を南に向け支那及英國に對すれば頗る有利なりと、果してソ聯が一片の條約を尊重し、信義を確固と守る國なりや、その外交の權謀術數に當み約變常なく動いたる計らざるは至國外交と共に世界周知の事實なり。條約の存在によつて安心するはお目出度き限なり、況んやソ聯と同盟せば、對ソ軍備の要無くその大部分を南方に向け得るもの如く考ふるはまことに噴飯に堪へざる言論のみ(四)聯ソ派曰く、ソ聯と結んで彼の銀錢を樺東より印度及び近東方面に向けしめば、支那軍需解決のために好く、又英國壓迫のためによ

く、二百一萬の大方策なりと、かゝる机上的考案の全く無價値なるは前述する所によりて明瞭なり。不幸にしてソ聯はしかくお目出度き國にあらず、本國は又しかく甘き民族にあらずなり。況や彼ら常に奧亞をいひ大アジア主義を叫び印度解放を主張しつゝあるにおいてをや、日本は自口の小利のために印度三億同胞を赤化ソ聯に賣らんとするか、何の聖職何の皇道宣布なりや(一)ソ聯ソ派曰く、北方は不毛の地多く資源少く経済的利益なし、南方は土地豊沃にして資源多く経済的利益無限なり、何を好んで北方に向ふか、よろしく北方ソ聯と結んで南方に向ふべしと、皇道宣布は利害打算のために非ざるなりよし一片の利益無くとも向ふべき所には斷乎として向ひ、たとへ無数の利益あるとも向ふべからざるには斷乎として向はざるなり之れ皇道日本の眞骨頂なり、彼らは経済的利益によつて常に國の進路を考へんとするなり彼らは唯物主義者なり。南に向ふは大いによし、されど是は侵略のために非ずして常に大義明分のためならざるべからず、南方に進まんが爲めに北方ソ聯と敵対的、屈辱的提携をなさんとするは日本の神國なるを信せざるユダヤ的俗論のみ(一)ソ聯ソ派曰く、現在日本の實力をもつて如何にしてソ聯を敵とし、共に英に對するを得べきか宜しく聯ソ討英の實をあぐべしと、俗論愚論もこゝに至りては極まれりといふべし、現状維持の舊殻に籠りて机上の空論に墮し、この大難向をして一時的に糊塗せんとする小心無膽の徒、日本の眞姿を知らざるも甚だしきものなり。神州不滅、神國無敵の信仰何ぞ戦を云々し、日本主義を口にする資格あらんや(一)ソ聯ソ派曰く、ソ聯及び共産主義の害は陽性なり、故に恐るに足らず、英國及び自由主義の害は陰性なり、故に恐るべしと、かくの如き論は最も笑ふべき低級卑劣の愚論のみ、かくの如き徒黨は「日本共産黨」の看板を掲げて

畏らわば日本に共産黨および共産主義者無しと思ひ得る短見淺慮の徒黨なり、抑や何を以て陽陰を分かつんとするか、陰性といふべくんば寧ろ遙かにソ聯の共産主義か陰性なり、大體共産主義と自由主義ソ聯と英國を別のものと考へる考へ方自身が不可なるなり。一者は表裏のみ、双枝のみ、一體不可分なり、排すべきは自由主義、共産主義諸共なり、討つべきは英國ソ聯もろともなり。その一と結んでそのを討たん一とする如きは俗耳には入り易きも、苟くも百年の大計に非ざるなり況んや日本主義を稱する者の絶對に考ふべきものに非ざるなり(一)ソ聯ソ派曰く、國內維新の敵は親英派なり、世界維新の敵は英國なり、故に一切の反英派と結びてこれに對せざるべからずと、國內維新の敵は親英派と共にソ聯派なり、共に討たざるべからず、世界維新の敵は英國と共にソ聯なり。共に討たざるべからず、反英の故を以てソ聯と結ぶは賣國なり、反資本主義の故を以て共産派と結ぶは國賊なり。この徒常に謀略をいふも、謀略のみによつて維新を爲し、聖戦を行はんとするは絶對に不可なり、彼らの謀略遂に國を賣らん、かくて我等は結論的に宣言す。(一)ソ聯論者は共容派なり。故に之を擊滅せん(一)ソ聯論者は人民戦線なり、故に之を粉砕せん(一)ソ聯論者は唯物主義者なり、事大主義者なり、思想監視者なり國體不信仰者なり、故に之を追放せん。事無明瞭なり、當局は宜しく速やかに聯ソ論者を人民戦線として徹底的に糾弾すべし、親英論者に對しても同様なり。これらの徒黨は共に後方擾亂、反戦利敵の徒黨なり、我等はここに峻厳にその反省を警告するものなり、もし敢て反省せざるにおいては〇〇忽ちに降下せん。右宣言す

昭和十四年十二月十五日

大日本生産黨

大阪で「聖戦明徴全国青年大會」

去月二十日東京青山會館において「聖戦明徴全国青年大會」を開催した「青年俱樂部」においては、十一月八日午後六時から大阪中央公會堂に再び「全國青年大會並に演說會」を開催することとなり、東京より永島文雄、摺藤一甫、持尾利久、白井爲雄、船生利重、長谷川幸典氏等以下全國より代表多數參集し小部英男氏司會の下に、大會を進行し、永島氏を議長に推して宣言、決議を可決、次いで藤井作吉、吉田益三兩氏の祝辭挨拶あつて大會を終り、引續き演說會に移り、全國代表多數登壇して愛國の大獅子吼をなし十時すぎ散會した。尙「青年俱樂部」に於ては十二月二十三日午後六時から松本市公會堂に「聖戦明徴中郷青年大會並に演說會」を開催した。

其他の運動

十一月十一日日本部より柴山、小部兩氏を迎へて廣島縣善戸町音戸座に於て「音戸支準」の結成式並に肥後演說會が開催されたが、支準責任者は原田寛氏である。尙松本支部では十一月十四日午後六時から松本市魚網において、本部から船生利重氏を迎へて座談會を開催したが席上公認市長問題の動機が出て市政刷新のため「松本市政刷新聯盟」を結成して市會解散運動を再開することを決議した。十一月十五日日本部議員、神戸支部長代理味岡正義氏が逝去された。

昭和十五年

【皇紀二千六百年】

對米問責近畿大會

米國の對日強迫政策は支那事變擴大の最大要因なりとし、その猛省を促し併せて我が國民が自主編往、よく東亞の安定を期すべき確固不拔の信念を涵養するため

貴族院議員一條實孝公、同井田馨楠男、同井上清純男、同大井成元男、同菊池武夫男、西尾胤次海軍少將、橋本武次陸軍中將、四王天延孝陸軍中將、本黨小林順一郎顧問、吉田益三總務委員長ら

が主催者代表となり一月十三日午後六時より大阪市中央公會堂に「對米問責近畿大會」を開催、小林順一郎、西尾胤次、井田馨楠、四王天延孝の諸氏勳辯を揮ひ二千餘衆に多大の感銘を與へ、次いで橋本中將を議長に推し左の決議を行つた。

【決議】 (一) 東亞禍亂誘致の責任は米、英、ソ殊に米國にあり、政府は宜しくこの際敢然として懺悔なる米國の猛省を促さんことを願す (二) 帝國は日本精神を基調として益々團結を強固にして舉國一致克く困苦缺乏に堪へて戦力の充實を圖り、自主獨立斷乎として東亞の安定を期せざるべからず

不退有志代議士の妄動を撃つ

清議の天譴に永く政權を離れてゐた既成政黨は議會に於て、國體勢力を把持せるを奇貨とし、阿部内閣崩壊の間隙に便乗して往年の黄金時代を再來せしむべく、利害を共にする財閥、

黨閥と結託し醜態極まる内閣乗取りの陰謀に狂奔したが、かくの如きは内閣政を棄り、外國威の失墜を招來するものであり、所謂有志代議士會なるもの、妄動は斷じて默許すべきに非ずと本黨では吉田益三總務委員長の名を以て左の如き聲明を天下に發表してこれが決意を明らかにした。

衆議院有志代議士會なるものにより、舊態未突如として捲起されたる阿部内閣不信任決議で不調不慮なる現象は時局の重大性に背馳、複雜微妙の形成を醸成しつつあり。その懸念は國運に及ぼす重大なるものあり、而もその動機の不純不明朗なる甚に痛憤に堪えず。

惟かに支那中央政權の樹立日蹙の間に迫り、新東亞體制の實現期して待つべきものありと雖も、こは事變處理の一段階に到達せるのみにして、聖戰の眞意義は擧げて今後に残さる。抗日戰軍の覆滅、新秩序建設の聖業は、複雑なる國際の情勢下に推し進めらるべく、那家の前路實に容易ならざるものを感じしむ。有史並に二千六百歳、正に直面せる皇國以來の最大國難を克服し、八紘一字の理想を宇内に顯現せんには、上下相一致協力、更に鞏固なる決意、不退轉の勇猛心、堅忍不拔の御奉公に精勵するを要す。

畏も 大元帥陛下におかせられては、大本營に禁裡に置かせ給ひ御親しく御蘇を御統率、夙夜軍務に御精勵遊ばされ一億蒼生の需ふべき道を御躬を以て御垂範あらせ給ふ。臣子たるもの烏んぞ大御心を奉戴し、一死實はざるの徒嗟あらんや。事變は未だ終了せず。百萬皇師は大陸の野に戰鬪を繼續中なり。この秋に當りこの事變處理は飽くまでも軍事行動を中心

「推進するべきは多言を要せず。凡百の政治、経済、外交、教育等々は軍行動を中軸に樹立施行するべく、若し政府にして
 書反するが如き施政あらば、その懲改を求め、退陣を促すを得るは軍り軍あるのみ。然るに聖戦の意義を解せず、第一線に
 も参戦するなく功利自由主義を奉じて反國體的言行に終始する代議士輩が恐るべき野心を内蔵しつゝ、名を國政に藉り、國利
 民福に藉りて、一箇半箇の知識もて、施政の府に對して不信任を決議せるが如きは沙汰の限りといはざるべからず。之れ實
 て國民と政府の間在りて國體體制を鞏固ならしむべき議員の職責を忘却、國民をして感はしめ敢て後方擾亂を爲せるも
 のにしてその罪や甚大、制裁を加へらるべく必然事たり。

▲素より阿部内閣の脆弱性は吾人これを否定するものに非ず。現内閣が國內經濟問題に對し運用を誤り、財界不安を醸し、一
 國民生活に脅威を齎したるは事實なるも、こは單り阿部内閣の責任のみに非ず、實は一切の指導階級および國民の分擔せざる
 べからざる責任なり。日常生活用品に關する不安は概ね國民の一部に時局を辨へざるの口利思想にもとづく愛憎み、買滯め
 の原因す。然るに己の非國民的行動を隱蔽し政府を糾弾せんとす。何ぞその厚顏無恥なるや。

▲不信任を決議するに至りたる内面事情を檢するに、政權獲得および黨出身關係に對する感情上の軋動に發端終始す、一億
 國民戮力協心、一體となりて政府を鞭撻、國家總力戦に邁往すべき軍大時局に際し、政權を窺ふが如き不謹慎なる所以が許
 され得ざるは明白事たるに、雖の甘きに集ふが如く利を慕ひ責白に擲られ、徒黨を組みて陰謀を逞ふし、また言論機關を
 實主體かに宇垣内閣の實現を企み、その手段として政府不信任を議す、何れの所にか先發後發を本分とする議員の面目あり

や。而も斯る不逞代議士多數を出したる政黨は頽冠り主權に終始し、聊かも責任の所屬を明白にせず、政權の廻り來らんこ
 とを切かに僥倖す。心事の陋劣なる實に唾棄すべし。各政黨は斯の如き不逞徒輩を出し上 聖明を蓋ひ奉り、下國民を惑は
 し統後の戰時體制を案りたる責任に誘惑、須く一切の公職を辭しその黨を解消、罪を天下に謝すべきなり。一部の偽裝愛國
 團體また政權慾に驅られ、本來の使命を忘れ、策謀の走狗となり傀儡となりて奔命これ努め百鬼集行の形相を呈す、斯る
 不逞行爲が許さるべき事由なし、皇師百萬、屍を馬革に委み、碧血をもて大陸を彩り、聖業の先驅となりて仆れつゝあるの
 秋、後方擾亂を爲せる彼らの頭上、天譴應に降るべきなり。吾人はさきに大命宇垣一成大將に降下その組閣に着手するや斷
 平反對攻撃を加へ、宇垣外相桂冠せるとき所信を公開して、猛省を促したる所以は一に宇垣大將の信念に信頼し能はざるも
 のありしが故なりき。果して相憂遂に箴を成して今次の陰謀に及ぶ。嗚呼、君を思ひ國を思ひ、英靈を思ひて民福に到れば
 憂憤いふべからず。吾人は儼に國民と俱に在りて、大御心を奉戴、日本臣民道に透徹し、未曾有の時艱克服に邁進、苟くも
 國威を失墜し、國運の隆榮を阻害荼毒するの風聲に對しては寸毫の假藉なく憤懣の矛を執らんとす。茲に所信の一端を叙し
 て有志代議士會およびその一聯に連るの徒並に各政黨の再思三省を促すものなり。(昭和十五年一月八日)

米内内閣成立と我が黨

相續く各種國內經濟問題の對策に當り失ひ、所謂有志代議士會なるもの
 の陰謀に陥り阿部内閣は遂に總辭職を辭行、組閣の大命は米内光政海軍大將に降下した。我が黨は歴代内閣が時局擔當の自信
 なく、徒らに密不細工式思想基礎の不明瞭な學國內閣を組織し、行き詰れば直ちに辭職し恬として恥ぢざるの無責任は斷して

野子能はず、若し米内大將にしてこれが信念なくんば即ち大命を拜辞すべしと佐権向政、船生利重兩總務、船津俊男中央官、委員は一月十五日閣内閣本部に米内大將を訪れ左の要請書を手交した

聖戦ここに四年、内外の諸情勢いよいよ緊迫を告げ、皇國の前途實に容易ならざるものあるの秋、舊體有志代議士會なるもの運動を起因とし、遂に阿部内閣はその脆弱性を暴露し總辭職を執行するの止むなきに至り、一月十三日閣内閣本部に閣下に降下せらる。支那事變發生以來政變遂に三たび、百萬の維新士向大陸の野に在りて屍を馬革に委み、碧血以て大地を彩りつゝあるの秋、國內における再三の政變は、實に第一線將兵の士氣にも影響するところ甚大なるべく將又對外對内關係より看るも甚だ寒心に堪えざるところなり。従つて斯る際、大命を拜受せる閣下の責任と決意一入重且つ大なるものありと確信す。我黨は曩に阿部内閣の組閣に際し、維新的思想の確立、責任政治の徹底等々に關しこれが善處方を要請せる處ありしが、今般大命を拜受せる閣下におかれても、從來歴代内閣の踏襲し來れるが如き政黨、財閥、官僚、日本主義、自由主義、國家社會主義等々の形式的總親和、四方圓滿、八方美人の曖昧なる相聞態度を一掃して、牢固として抜く能はざる維新的思想の根基を確立し、この思想的根基に立脚して關係の人的配置を考慮し、しかしてその施政に當つては單に「職を辭すれば即ち足る」ととなすが如き無責任なる態度を根本的に改め、萬代不易の日本古民道たる「聖明を重んず過誤あらば直ちに罷免、以て自ら決す」の責任政治に透徹すると共に、對支處理、對歐米方策並に對内諸問題の對處等々山積せる閣下の重大案件を解決し上、聖明に應へ奉り、下萬民を安んずるの確固たる時局擔當の自信の有無こそ實に大命拜受の基礎的條件

なりと信す。若し閣下にして以上の如き維新的思想の確立、責任政治の徹底、時局擔當に對する牢固たる確信なく、漫然大命を拜受するが如きことあらば、徒らに政變を繰返すのみにして、畏くも震慄を惱まし奉る結果と相成り、而して聖戰の元途へ、統後の維新戰時體制の確立も得て期し難く、又外侮を蒙ることも少なからざるべく、むしろこの際即ち大命を拜辭し以て臣道の本務を果さるべきである。右要請す

淺間丸事件起る

一月二十一日、日本郵船株式會社淺間丸は貨客を満載して一路横濱に向ひ、すでに東京灣を距る僅か三十五哩の點に差かりたる時、突如として現れたる英國軍艦は同船に威嚇停船を命じ、武装士官水兵が乗り込み來り船内を不法臨檢、獨逸人船客を拘致するの事件が起つた。此英國の對日敵性を最も露骨に示せるもので明らかな侮日的挑戰行爲である。我黨は事件を重大視し急遽重大協議の結果、一月二十四日、實行委員關根喜四郎、永島文雄、千葉友次郎、船津俊男、柏村幸雄、高瀬道善、福島八郎諸氏は要請書、決議文、警告書を携行、首相、海相、外相、英國大使館、日本郵船會社を歴訪してこれを手交、嚴重警告を發した。首相に手交せる要請書は左の通りである。

今回淺間丸不法臨檢に關して執りたる英國の態度は越權不遜も甚だしく、明らかに侮日的挑戰行爲なりと斷せざるを得ず。今や同胞一億の目は同問題に對する皇國の態度と英國の出入如何に集中せられつゝあり。二十三日政府當局の示せし態度はいかゞか國民の意を安んずるものありと雖も、その將來は寸毫の樂觀を許されざるなり。抑々支那事變並に歐洲大戰において示されたる英國の反日的侮日的害我利敵の數々の行爲に對しては我等は常に隱忍自重、切齒扼腕して今日に至りたるも、

今回の淺間丸事件に際しては最良中國民の愛憎は何物によつても抑壓し得ざる頂點に沸騰せるなり。今にして拱手傍觀、一片の形式的抗議に終らんか皇國の威信は遂に地に墜ち、延びては大陸の野に苦戦力闘しつゝある皇軍將兵の士氣にも好ましからざる影響を與へ、加へて支那の抗日、毎日の行爲は舊に倍して熾烈となるは火を見るよりも明かなり。我等は唯々ひたすら皇國體防護のため以外に他意なくこの要請を敢てせしものなれば、政府は宜しく生等の意圖を諒とせられ皇國の威信確保のため、國體明徴のため、世界正義確保のため、干戈もまた解せざる不退轉・不動の決意を以て事件解決に臨まれむことを切望す。

更にこの機會に根本主義的行動をとるに非ざれば祖國目的の究遂も不可能なりとし「打倒英國暴徒米ソ」の大旗の下
 (一) 淺間丸事件を政治的に無関係化せんとするものに利用されざること (二) 淺間丸事件によつて親ソ派の討英運動と同視されることを極力排除すること (三) 黨としては飽くまで討英運動の陣前によつて暴徒英國打倒に進むこと等の態度を決定し各分黨に暴徒英國の指令を殺すとともに全國的一大運動を展開した。

暴徒英國打倒國民大會

淺間丸事件によつて口火を切つた暴徒英國運動の第一陣として本黨主催の「暴徒英國打倒國民大會」並に「時局批判大演説會」は一月卅一日午後六時より大阪市中央公會堂において開催された。愛國の熱血に沸く數千五百、狩野廣總務司會のもとに定刻開會、山本實一、長谷川幸男、山本千一氏熱辭を揮つたのち國民大會に入り小部英男總務司を議長に推し左の宣言、決議をなし、演説會を續行、柴山河、手島剛藏氏のおとづけて總務司長吉田益三氏一

時間半におよぶ愛國の獅子吼に多大の感銘を與へた。宣言決議は直ちに代表者を派遣、青、海、外相並に英國大使に手交した

【宣言】 暴徒英國くなく英國皇權の爲せる淺間丸不法強擄事件は越權不遜も甚だしき毎日行動にして國際上よりするも違反行爲なるは明々白々たり、然るに彼なほ言を左右にして敢て辯辭を弄し敗むるを知らざるは吾等一體國民の憤激その極に達す、政府當局は宜敷くその對策を既往の軟弱外交に墮する事なく敢然之に對處せん事を期すべし。右宣言す

【決議】 吾人は本大會の名において諸件を決議す。(一) 吾等は淺間丸事件徹底的解決を要求す (二) 吾等は此度の英國の暴舉に對し斷乎謝罪を要求す (三) 吾等は拉致全捕人即時返還を要求す。右決議す

支部動勢

▼宇都宮支部では光澤あき紀元二十六年の佳き歳を迎へ愈々擁護多岐なる世態に對處すべく二百午前十時より同市森葉町の佐藤蘭問宅に臨時支部總會を開催、伊澤代行委員長以下四十九名出席、支部再建はじめ各種事項を協議した、更に同支部幹部は一月七日兩毛支部幹部と會同、栃木縣支部聯合會結成の件を協議、實現に努力する事になつた▼足利支遣は皇紀二千六百年の新春を期し同支遣を改組、兩毛支部を結成した▼阿久津村事件殉黨同志木戸辨吉、嶺岸善九郎渡邊靜一、相馬留吉四氏の英牌は施主佐藤猛吼氏の肝煎りで宇都宮市西原町一向寺に建立中であつたが一月九日七周忌の記念日に除靈式を行つた▼京都支部では淺間丸事件に關し要請書を首、陸、海、外、遞相に即時引會の勸告書を渡部淺間丸船長に送付した▼台灣事務局では一月二十三日同事務局に緊急幹部會を開催し「暴徒英國に對し斷乎たる處置を以て邁進せんことを要望す」との激勵文を首、外、陸、海、遞相宛に打電、本部と緊密なる連絡のもとに打倒暴徒英國運動を展開した。

人事

【役員異動】任總務、中央常任委員、千葉友次郎【死亡】相誘役、黒龍會幹部小幡虎太郎氏は一月五日午前一時逝去した、行年六十一、告別式は六日午後一時より東京市赤坂一ツ木圓通寺において本黨顧問、黒龍會主席喜正龍久氏御機委員長となり厳かに執行された、小幡氏は黨組内田良平先生と同じ福島の産、日韓合邦の功勞者である。

二 月

紀元の佳節に賜りたる御詔書を拜し奉りて滿天下に聲明

皇紀

一千六百年紀元の佳節に當り、長くも、大詔を下し給ひ、臣民の向ふべきところを御垂示あらせられた、本黨では只管、御詔書に應へ奉らんことを深く期し、十二月左の聲明を滿天下に發表した

皇紀一千六百年紀元の佳節に當り、聖上親しく時難克服の大詔を下し給へり。結黨茲に十年微なりと雖も血涙をこの一道に翫き來りし我等の恐懼感激に耐えざる所なり。謹みて按ずるに時難克服の大方途は上に、神武天皇惟神創業の大精神皇國皇業の大理想に格遊して國體の本義を明徹にし、以て維新の大業を成就するにあるを垂示し給へるものと拜察し奉る。神武創業の大精神とは即ち「惟神の大道」にして「天業恢弘」「八紘一字」は其具體的發現なり。「皇國皇業」の大理想とは即ち

「萬有修理因成」の大使命にして「亞細亞維新」「世界維新」はその必然的進程なり。然るに方今内外時難の加重に従ひ、一或は私利の爲に惟神の大業を蹂躪し、或は黨略の爲皇國の不理想を否定し、或は現状維持の爲めに國體の本義を惑亂し去らんとする徒輩續出充滿するを見る、而も對支聖戰の前途尙は遠く、對英米ソの關係愈々急ならんとす。これ神州の危機にして臣子殉忠の秋なり。大詔發表の大御心拜察し奉るだに恐懼措く能はざる處なり、こゝにおいか我等益々自戒自責、故總裁の英慮と共に、大いに立黨の眞精神を振發し以て至高の御聖旨に應へ奉らんことを深く新たに誓願するものなり。右謹みて天下に聲明す

齊藤隆夫問題と本黨

休會明け第七十五帝國議會本會議において民政黨所屬代議士齊藤隆夫はその

黨を代表し政府に質問するに當り、聖職を冒瀆せる不逞運動の言を吐いた、本黨は問題を重視し單に齊藤隆夫一個の問題に非ず、全既成政黨の反國體思想を暴露せるものとして既成政黨の解散齊藤隆夫の處断を要求、全國的に演說會を開き、或ひは黨報その他文書によつて糾弾を行つたが、更に時局協議會と緊密なる提携の下に十三日中井衆議院懲罰委員長に對し即時除名處分に附すべしとの強硬なる決議文を手交すると共に同等の趣意を盛りたる要請書を首、陸、海、内、各相に手交、更に十七日聲明を發表、二十日第二回聲明を發表して決意を明らかにした

支部動勢

▼八王子支部では九日及び二十六日の兩度に亘り黨本部より船生利重、關根喜四郎總務、結澤俊男、柏村幸雄、高瀬道善中央常任委員を迎へて座談會を開いた▲廣島縣支部では紀元節に當り氏神社へ楠木記念植樹をなし

皇紀二千六百年記念會「幕面」に「大日本生業青年支部」と認めたる角標を立たる▲群馬縣足利支部および群馬縣進進新進
 勸業開拓生、高崎、新田、利根各地區代表は十一日勸業の志士高山彦九郎を祀る縣社高山神社に参拜殉國を誓ひ、後新田縣
 に座談會を開演、十七日には傳單を各地に撒布した▼宇都宮支部では十一日ポスター五千枚を各所に貼付し縣民に多大の感
 銘を與へ、二十七日には兩手支部聯合會を開き縣下十二ヶ所において「時局批判大演說會」を開演することを決議、直ちに
 實行に入り佐藤猛吼、柳省、伊澤留吉、柿沼信吉、藤野鷲呂、鈴木邦治諸氏が獅子吼した▼埼玉縣大宮支部では十七日大宮
 町社會會館に「國體明徴大演說會」を開演、聴衆五百近來にない盛況であつた、講師、影山正治、佐橋尚政、船生利重、關
 根嘉四郎、村田敏三、諸氏▼長野縣松本支部では後任市長選挙を繰り廻せる市會の淨化を期し「松本市政刷新聯盟
 を結成、聲明を發して市議全員の自決を促した、また役員會を開き一、演說會、一座談會、一支部獲得、一組織、一支部擴
 大強化、一支部旗幟製一、連絡の徹底一、縣民の生活理想状況調査等の本年度事業計畫を確立した▼京都支部では二十六日
 河上支部長宅に二・二六事件記念座談會を開演、關西黨務局より柴山滿總務出席、淺間丸事件、齋藤隆夫問題等に関し意見を
 を交換した▼廣島支部では齋藤隆夫問題に関し極刑の宣言を與へられたしとの要望書を二十七日衆議院正副議長、懲罰委員
 長および廣島縣選出貴衆兩院議員に發送した。

人事

【役員異動】 任評議員、皆川三郎、村田貞治郎、解任總務、權尾武雄、解任中央常任委員、小杉賢二、吉
 川興七、梶原實雄、大西眞砂夫、栗野隆雄

三 月

全國大遊說開始

益々加重なる内外の危局、到底この儘の國內體制では國難突破は不可

能である、また現状の統後體制では聖戰貫徹は及びもつかぬと本黨では切迫せる内外情勢に鑑み「國體明徴」「聖戰貫徹」の
 一大國民運動を喚起し、以て非常時日本の國難突破を敢行すべく、吉田益三總務委員長統率のもと全幹部を左の六班に編成三
 月二十一日より五月末にかけ全國的に「皇紀二千六百年記念國難突破大演說會」を開催することに決定、京都を振出しに大遊
 說陣を繰出し全國民に深い感銘を與へた。

- 【第一班】 入幡博堂、久野一雄、關根嘉四郎、千葉友次郎、深澤漁造、小松崎重【第二班】 影山正治、白井武雄、山下幸
- 弘、長谷川幸男、福島八郎、山田正治、【第三班】 船生利重、佐橋尚政、永富以徳、瀧澤利重、高瀬道善【第四班】 小部英
- 男、河上利治、山根敏三、太田博徳、尾井眞澄【第五班】 手島剛毅、山本千一、徳田整二、青野正一、柏村幸男【第六
- 班】 柴山滿、狩野巖、住田徳市、粘澤俊男、中村金次郎

舌戦開かる

本の全國大遊說は二百の京都本願寺における「國難突破大演說會」をトップに連日開催
 されたが文字通り超議員の盛況にて各地とも大好評を博した、期せずして時を同じくした既成政黨の議會報告演說會が、明年

の準備に對する準備工作のため、手盛りの議會戰功談であり時局に對反せる内容と誇大な自己報告に終始したのに對比し、本黨の全國遊説が次第に重加する國難的請願象を默過するに忍びず日本民族の本務たる聖戰奮闘、維新實業を唯一無上の目標として進められたことは轉換期において政治的主權勢力、思想的據點を要請しつつある國民に、異常なる反響を與へ、本黨の旗の進むところ強緩せる銑後體制は是止され新しき御奉公の決意は固められ實り多い維新的成果が認められた、當月における遊説の跡を辿れば左の通りである。

▽二千二百京都本願寺(辯士)柴山滿、小部英男、河上利治、青野正一ほか(聽衆)三百餘名▽二十三日京都伏見深草小學校(辯士)柴山滿、小部英男、河上利治、青野正一、ほか(聽衆)三百餘名▽二十五日奈良縣櫻井町繁榮座(辯士)手島剛毅、山本千一、柴山滿、小部英男、青野正一(聽衆)三百五十餘名△二十七日和歌山縣津本町公會堂(司會)大岡林吉、(辯士)山本千一、小部英男、柴山滿、(聽衆)三百五十餘名▽二十八日和歌山縣新宮市公會堂(司會)筒井順一(辯士)柴山滿、小部英男、山本千一(聽衆)一千名

機業地桐生の悩みを解く

機業下における平和産業は資材の配給に悩んでゐるが、機業地群馬桐生市の機業業者も同じ悩みから、さきに桐生内地織物工業組合等へ陳情するなど密々對策を協議してゐたが、群馬縣皇道維新聯盟桐生地区代表石北政男氏を介し業者連名を以て本黨へ生糸配給制對策を依頼して來たので、本部より佐橋尚政總務、高瀬道善中央常任委員を現地へ派遣、各工場を視察の上、三日午後六時より同市「林源」にて業者と會見し、その苦惱を聞きまた現經濟機構の見送し、皇道經濟確立の急務を説いて東京、官局と折衝の結果、豫想以上の配給を獲得し、小機業家の悩みを解いた。

支部動勢

▼熊本支部岩間慈朗氏等中心となり、熊本地方同愛の士を糾合して三日「尊皇愛國九州有志大會」を開催、内外諸問題に對し憂國の至誠を披露、地方民の輿論を喚起した▼宮崎支部では十四日縣政淨化に關し、七項より成る要請書を阿部滋氏の名をもつて宮崎縣知事に提出、善處を促した▼埼玉縣大宮支部村田敏三氏は「日本の國難を救ふ力、妨げる力」と題するリーフレットを町民に配布し奮起を促した▼京都支部では齋藤隆夫除名反對で議會を缺席した社會大眾黨所屬水谷長三郎代議士が京都市内各所において、除名反對の理由を掲げて演説會を開き遂に支部所在地の伏見區においても一々所開催する計畫を立てゝゐるのに對し、十七日緊急幹部會を開いて社大演説會開催を決議二十三日社大支部に對し中止を要求、若し中止せざれば立會演説を要求すとの強硬なる申入れをなしたところ遂に社大は演説會を中止した

人事

【役員移動】任總務、山下幸弘、任中央常任委員、入木可生、高橋澤一、中村金次郎

四月

全國大遊説續行さる

二「國難明瞭」「聖戰奮闘」の二天スローガンを掲げ三月二十一日京都に第一

あげた本黨の「國難突破全國大遊説」はすでに京都、奈良、和歌山を席捲しこの月に入るや依然大體露を展開、近畿に

四國に、九州に、關東に、中國に黨派を進めたが、いたるところ湧くが如き歓迎を受けその成果は測り知れざるものがあつたこの月における遊説の跡を辿れば次の通りである

- ▽二百 兵庫縣形崎市杭瀬小學校(司會)南草蔵(辯士)狩野巖、柴山滿、小部英男、住田徳市、菅野止二(聽衆)三百餘名
- ▽三百 埼玉縣川越市行傳寺(辯士)船生利重、永富以徳、關根喜四郎、福島入郎、高瀬道善、柏村幸雄、長谷川幸男、(聽衆)暴風雨にて比較的僅少▽五百 千葉縣大森町大軒クラブ(辯士)船生利重、永富以徳、關根喜四郎、福島入郎、高瀬道善、須藤隆雄(聽衆)五百餘名▽七日 群馬縣沼田町小學校(辯士)佐橋尚政、影山正治、船生利重、關根喜四郎、高瀬道善(聽衆)八百餘名▽十日 愛媛縣小松町小學校(司會)松田清次郎(辯士)小部英男、山本千一、柴山滿、河上利治、谷口光範(聽衆)約六百名▽十日 前橋市勢多會館(司會)山崎、内山(辯士)影山正治、船生利重、關根喜四郎、高瀬道善(聽衆)二百名▽十一日 宇都宮市商工會議所(司會)佐藤猛吼、伊澤留吉(辯士)關根喜四郎、船生利重、高瀬道善、柳省(聽衆)約四百名▽十一日 高松市公會堂(司會)中野正男(辯士)山本千一、小部英男、柴山滿、河上利治、(聽衆)約千二百名▽十二日、高松市公會堂(司會)高井徹也(辯士)船生利重、高瀬道善、長谷川幸男、石北政男(聽衆)三百五十餘名▽十四日 大牟田市公會堂(司會)石川直樹(辯士)山本千一、小部英男、柴山滿、河上利治(聽衆)七百名

- ▽十五日 熊本市公會堂(司會)岩間慈朗(辯士)山本千一、河上利治、柴山滿、小部英男、澤村憲代治(聽衆)約七百五十名▽十六日 別府市公會堂(司會)和田義則(辯士)山本千一、小部英男、柴山滿、河上利治、山本彌榮彦(聽衆)千五百五十名▽十七日 宮崎市公會堂(司會)黒田時雄(辯士)吉田益三、山本千一、小部英男、柴山滿、河上利治(聽衆)千六百五十餘名▽十八日 延岡市延岡劇場(司會)伊藤千吉(辯士)吉田益三、柴山滿、山本千一、小部英男、河上利治(聽衆)約四百名▽十九日 小倉市宗寺(司會)寺本福造(辯士)吉田益三、柴山滿、小部英男、河上利治(聽衆)九百名▽廿日 西岡縣今田町小學校(司會)許斐徳次郎(辯士)吉田益三、影山正治、小部英男、柴山滿(聽衆)四百五十名▽二十日 福岡縣伊田町工會館(司會)鎌田敏一郎(辯士)吉田益三、小部英男、柴山滿、河上利治(聽衆)四百名▽廿一日 飯塚市公會堂(司會)阪井武志(辯士)吉田益三、影山正治、柴山滿、小部英男、許斐徳次郎(聽衆)六百名▽廿二日 九州大會(福岡市九州劇場)福岡市は故内田良平總裁、頭山滿顧問出身の地である。大會並に大演説會は狩野益邦氏の司會で午後六時半より開始された、同市出身の狩野巖總務郷士人に懇へ、次いで大會に入り小部英男總務を議長に推し宣言(千葉友次郎總務朗讀)津讓(許斐徳次郎氏朗讀)を可決すれば小倉代表寺本福造氏「故總裁の墓前に報告すべし」との緊急動議を提出可決、次いで本部側柴山滿總務、地方側延岡代表袴抄を述べ再び演説會に移り影山正治、手島剛毅兩總務の後を受けて、吉田益三總務委員壽國の獅子吼を行った、(聽衆)千三百名、盛會を極めた▽廿二日 茨城縣龍ヶ崎町大正區(司會)高瀬道善(辯士)小池銀次郎、船生利重、高瀬道善(聽衆)七百餘名▽廿三日 茨城縣取手町日之田館(辯士)小池銀次郎、船

生利重、永島文雄、高瀬清善（聴衆）約四百五十名▽廿三日 佐世保市公會堂（司會）吉住泰治（辯士）吉田益三、柴山滿
 手島剛毅、影山正治、小部英男（聴衆）千七百五十名▽二十四日 長崎市公會堂（辯士）吉田益三、手島剛毅、影山正治、一
 小部英男、河上利治（聴衆）八百五十名▽廿四日 茨城縣土浦町公會堂（司會）小池銀次郎（辯士）船生利重、永島文雄、
 關根喜四郎、高瀬清善（聴衆）約八百名▽廿七日 廣島市醫師會館（司會）岡野茂樹（辯士）手島剛毅、柴山滿、小部英男
 松井正光（聴衆）七百名▽廿八日 廣島縣首町音月座（司會）原田寛（辯士）松井正光、手島剛毅、柴山滿、小部英男（
 聴衆）五百名▽廿八日 埼玉縣大宮町社會會館（司會）村田敏三（辯士）船生利重、金重大雷、長谷川幸男、高瀬清善、福
 島入郎（聴衆）約五百五十名▽廿九日 岡山市深根小學校（司會）大森中庄分會長（辯士）手島剛毅、小部英男、柴山滿、
 倉田由松、小阪猛夫（聴衆）九百餘名▽廿九日 横濱市神奈川會館（司會）福島入郎（辯士）吉田益三、船生利重、金重大
 雷、山下幸弘（聴衆）約八百名▽三十日 東京淀橋橋公會堂（司會）岩田勝次郎、柏村幸雄（辯士）吉田益三、關根喜四郎
 永島以徳、長谷川幸男、福島入郎（聴衆）約六百五十名

故内田總裁慰靈祭 別項の如く全國大遊説の途次、二十一日午後一時三十分博多驛着列車で飯塚市より福岡市
 入りをした吉田益三總務委員長、影山正治、柴山滿、小部英男、千葉友次郎各總務、星井真澄中央常任委員、許斐金田支部長ら
 一行は先着の手島剛毅、狩野殿總務、狩野益邦氏等地元有志の出迎へを受け直ちに故内田總裁の菩提寺なる同市地行濱町眞福
 寺に参詣、福岡を洋社の代表者も参列して故總裁の慰靈祭を饗し、殉國奉公を誓願した

支部動勢

▼長野縣松本支部では後任市長選挙を繰り市會各派が競争を繰ること二年、遂に決選投票を行はんと

せざる遺憾とし、繼ぎに同支部を中心に結成せる松本市政刷新聯盟の名をもつて聲明書を發表、愛市愛國の心情を明かにした

五 月

全國大遊説多大の効果を收めて終了

本黨の紀元二千六百年記念全國遊説「國難突

破大演説會」は三月二十一日京都に第一聲を擧げてより近畿、關東、四國、九州、中國、中部、山陰、北陸、東北と前後三ヶ
 月にわたり台灣、北海道を除く本州全土を、殆んどその足跡を印せざるなきまでに靡捲し、非常なる感銘と多大なる効果を收
 めて五月二十七日千葉縣大森町を殿りに一段落を告げたが、この間演説會數五十一回、座談會數三十一回、計八十二回とい
 う記録を残し又全聴衆數三萬六千八百名、一ヶ所平均七二、五七名といふ驚異的效果を收めた、然も終始一言統調ある秩序
 の下に無事この全國遊説を終了し、且つこの遊説によつて支部を結成せんと申出づるもの數ヶ所を算ふるに至りたるは本黨の
 無私無私、殉國の主張が國民の賛るところなるを立證するもので本黨の大いに誇りと欣快とするところである。五月にお
 ける遊説の記録は左の通りである。

▽七日 名古屋市公會堂（司會）松原銀次（辯士）吉田益三、手島剛毅、影山正治、小部英男、住田徳市、長谷川幸男（聴衆）
 一千餘名▽八日 豊橋市東雲座（司會）大倉常吉（辯士）吉田益三、手島剛毅、影山正治、小部英男、住田徳市、長谷川幸

男(農衆)千二百餘名▽十日 兵庫縣生野町小學校(司會)富澤敦(辯士)手島剛毅、荻野丈夫、小部英男、柴山滿、野正一、(農衆)三百五十餘名▽十三日 松江市公會堂(司會)的阜同志會長(辯士)手島剛毅、荻野丈夫、柴山滿、小部英男、山口利隆、青野正一(農衆)約九百名△十五日 福知山市公會堂(司會)大内武(辯士)荻野丈夫、手島剛毅、柴山滿、小部英男、狩野巖(農衆)千四百名▽十六日 福井市公會堂(司會)高見孝一(辯士)吉田益三、柴山滿、狩野巖、小部英男、長谷部富太郎(農衆)七百五十餘名▽十七日 金澤市實科女學校(辯士)吉田益三、山本千一、狩野巖、小部英男、柴山滿、大山俊雄(農衆)千八百餘名▽十八日 富山市昭和會館(司會)狩矢文龜(辯士)吉田益三、山本千一、小部英男、大山俊雄(農衆)三百五十餘名▽二十日 仙台市仙台劇場(司會)須藤隆雄(辯士)吉田益三、柴山滿、船生利治、河上利治、(農衆約四百名▽廿一日 盛岡市公會堂(司會)信天源一郎(辯士)吉田益三、柴山滿、船生利重、河上利治(農衆)約七百名▽廿二日 弘前市公會堂(司會)三崎島久(辯士)吉田益三、柴山滿、船生利重、河上利治(農衆)約八百名▽廿五日 長野市産業會館(司會)水谷道泰(辯士)柴山滿、船生利重、關根喜四郎、河上利治、柏村幸雄(農衆)約四百名▽廿六日 松本市公會堂(司會)水谷道泰、柏村幸雄(辯士)船生利重、關根喜四郎、河上利治、柴山滿(農衆)約二千名▽廿七日 千葉縣大森町六軒クラブ(司會)沼崎浩月(辯士)吉田益三、小池根次郎、山本千一(農衆)百五十餘名

◆全國遊説記録

演説會數五十二回、(府二十七縣)【内訳】(括弧内は回数)京都(三)奈良(一)和歌山(二)兵庫(二)廣島(二)岡山(一)愛媛(一)香川(一)鳥取(一)福岡(六)熊本(一)大分(一)宮崎(二)長崎

(二)徳島(二)愛知(二)長野(二)福井(一)石川(一)富山(一)埼玉(二)千葉(二)茨城(五)群馬(三)栃木(一)神奈川(一)東京(一)宮城(一)岩手(一)青森(一)座談會數三十一回、農衆總計二萬六千八百名(一ヶ所平均七二、五七名)

東西合同總務會 全國大遊説も一段落を告げ、また立憲十周年記念全國大會も日誌に迫つたので五月二十八日東京芝罘輪大鳴戸に東西合同總務會を開會、吉田益三總務委員長、入幡博堂書記長、佐橋尙政、河上利治、山本千一、鈴木善二、狩野巖、小部英男、白井爲雄、柴山滿、船生利重、千葉友次郎、永富以徳、久野一雄、影山正治、山下幸弘總務、船澤俊男、太田君鶴、長谷川幸男、茂呂靜馬各中央常任委員出席、吉田總務委員長挨拶の後遊説部より全國遊説に關する報告があり、次いで左の諸事項を協議した(一)支部組織に關する件(二)全國大會に關する件(三)大會記念演説會の件(四)黨本部金積立の件

支部、支準の整備

東西合同總務會の決議により左の如く決定した

【新設支部】(一)福知山支部 京都府福知山市(二)峰山支部 京都府峰山町(右兩支部は從來三丹支部内に包含されてゐたが今回兩支部に分割す)(三)木下支部 千葉縣大森町【新設支部準備會】(一)横濱支準 神奈川縣横濱市(二)長野支準 長野縣長野市(三)大宮支準 埼玉縣大宮町(四)桐生支準 群馬縣桐生市(五)松江支準 鳥根縣松江市(六)生野支準 兵庫縣生野町(七)串本支準 和歌山縣串本町(八)阿北支準 徳島縣貞光町(九)佐世保支準 長崎縣佐世保

市【廢止支部】(一)前橋支部 群馬縣前橋市 (二)名古屋支部 愛知縣名古屋

四八八

【支部動勢】

都支部では十四日河上支部長ほか二幹部が市村市長を訪問、失政その極に達せる市政の暗黒面を指摘し辭職勧告書を手交、次いで田中市會議長に市議の自肅による市會の明朗化を要求、若し勸告を無視するときは全市に亘り演説會を開き不正を暴露すべしとの決意を披瀝、聲明書を発表して市民の奮起を促した▼松本支部ではかねて支部旗製作中のところ完成を見たので二十六日四柱神社において本部より船生、關根、柴山、河上總務、柏村中央常任委員、支部より水谷道泰氏以下幹部が参列、嚴かな入魂式を行った▼全國大遊説を機に支部結成を希求してゐた千葉縣印旛郡木下町を中心とする二町三ヶ村では小池敏次郎氏の斡旋で愈々支部を結成する運びとなり二十七日吉田總務委員長、白井事務長、佐橋、山本、柴山、船生、河上、千葉各總務、福島、鮎澤、柏村、佐藤各中央常任委員を迎へ大森町六軒クラブにおいて結成式を挙げて了した

六 月

立黨十周年記念全國大會

本黨が昭和六年六月二十八日大阪中

之黨公會堂に於いて結成式を挙げてより本年を以て十周年を迎へるに至つた。皇紀二千六百年といふ民族蕃殖の佳き歳、本黨も立黨十周年を迎へ六月二十七日、八の兩日帝都に憲法記念全國大會を開いたのである。この慶びを俱にし且つ一應ある成果を収めんとするは聖地宮崎より北は樺太に近き北海道函館より、全國黨員の來り會するもの正に三百有餘名、大會第一日たる二十七日は地方分營の代表者のみ東京赤坂三會堂に參集、累擧せる地方議案の審議に當り、第二日たる二十八日は同會場に頭山、萬生、小林三顧問、吉田總務委員長をはじめ本部幹部及び地方代議員三百餘名出席し本年度における本黨の行動綱領、運動方針、政策を慎重審議した、この二日間における代議員審議の態度は熾烈なる維新魂に終始し、言々句々、皇民我の意識に出發した維新的言説であり、可決議案の一つ一つが現代日本の維新的生命力となるものであつた。本黨はここに立黨十周年を契機に更に強靱にして飛躍的な新しき闘争への段階に向つて發足をなしたのである。全國大會提出議案並に宣言、決議は左の通りである

提出議案 ▼第一日(地方提出)

- 一、婦人問題に關する件(可決)
- 二、物資配給の圓滑に關する件(可決)
- 三、銃後における兵役義務を有する國民一般に第二應召制度を樹立の件(保留)
- 四、出征軍人遺家族援護施設の積極的活動要望の件(可決)
- 五、指導者の思想鑑査の件(保留)

- 六、地方分營主催の遊説網實現の件(可決)
 - 七、農村並に勤勞者に必要なる木綿及び地下足袋配給方促進の件(可決)
 - 八、戰時食糧政策確立の件(可決)
 - 九、無醫町村根絶の件(可決)
 - 十、國體本義の德育研究所を各市町村に設置の件(撤回)
 - 十一、皇軍將兵慰問の件(可決)
 - 十二、統制下における内地織物製造業者に最低原料配給確保に関する件(可決)
 - 十三、買溜賣惜しみ絶滅の件(可決)
 - 十四、關取引防止に關する件(可決)
 - 十五、農業生産資材配給に關する件(可決)
 - 十六、本部と地方分營との連絡強化の件(可決)
 - 十七、銃後經濟對策強化徹底に關する件(可決)
 - 十八、海上勤勞同志に對する縦横の連絡並に海上部設置に關する件(可決)
 - 十九、半島勞務者の思想調査及其内地雜居分布に關する件(撤回)
- 緊急動議、黨基金積立に關する件(可決)

▼第二日(本部提出)

- 一、野望的新黨運動撃滅の件(可決) 説明者 影山正治
- 二、責任政治確立の件(可決) 説明者 船生利重
- 三、皇道經濟樹立の件(可決) 説明者 太田岩藏
- 四、戰時國民生活確保の件(可決) 説明者 山下幸弘
- 五、銃後農村確立の件(可決) 説明者 關根喜四郎
- 六、討英撃ソ排米の大方針確立の件(可決) 説明者 山本千一
- 七、蔣政權の武力的殲滅に關する件(可決) 説明者 手島剛毅

緊急動議

- 一、蘭印、佛印保證確保の件(可決)
- 二、九州大會開催の件(可決)

【宣言】

茲に本黨創立十周年記念全國大會を開催するに當り謹みて瀛天下に宣言す回顧すれば昭和六年六月廿八日を以て本黨結成せられてより十星霜、爾來舉黨一致總裁故内田良平先生を中心に一切の障害を排しつゝ國體防護、維新靈寶の一道に邁進し來れり。その間或ひは大事に參劃して獄に投ぜらる者或は赤匪と闘つて死に赴けり者、或ひは慘劇の極

健康を害して病に陥る者等擧げて數ふるに遑あらず、その創立の古くして國争の永き、またその國志の熾烈にして犠牲の深大なる、まことに若間群小類似の諸團體と懸絶する所以なり。今や聖戦の前途益々多難にして内外一新の神機、今こそ十年一貫身命を賭して主張し來れる本黨の大策を急速に實現すべき秋なり、まづ金權の奉還を實行して資本主義經濟體制の根本改訂を行ひ、特に中小商工業の保護を圖つて健全都市を建設し、肥料問題、買價整理問題等を解決して強健農村を樹立し政、民、社大の解散と選挙法の一新を斷行して（以下十四字削除）教育界、宗教界、思想界、言論界の徹底的刷新を強行して自由主義文化體制の核心を改め國民生活の基本を確立し無敵國防の根柢を固成し以て内昭和皇道維新の完遂に邁進すると共に、外は討支敵ソ排米の大方針を堅持し蔣政権の武力的殲滅を實行し（以下五字削除）完成に努力し以て世界維新の根柢を確保すべきなり。これが實行に當りては飽くまで草莽勢力を以て任じ如何なる強權にも追従せず維新陣營内部の肅正を行ひ内外一切の現状維持的、公武合體敵的諸勢力の殲滅を期するものなり。昭々たる神武我等の上にあり、何とか憂へ何とか恐れん。百萬人と雖も行かんのみ、滿天下の同憂願くば我等と共に維新救國の大道に戮力邁進されんことを 右宣言す

【決議】

(一) 我等は皇道維新確立のため金權財閥をして金權の奉還をなせしめんことを期す (一) 我等は皇道政治確立のため政、民、社大の解散とこれを基礎とする野性的新黨の殲滅を期す (一) 我等は皇道農村確立のため自由主義階級主義による農村野蠻を否定して純樸農村の健全化を期す (一) 我等は皇道文化確立のため一切の反國體的宗教、教育思想、言論機關結社の消滅を期す (一) 我等は皇道皇統確立のため蔣政権の徹底的殲滅と（以下五字削除）の實現を期す

(一) 我等は皇道外交確立のため討支敵ソ排米氣運の激成を期す (一) 我等は皇道維新確立のため維新陣營内に横行せる公武合體派、親英聯ソ派の掃蕩を期す

昭和十五年六月廿八日

大日本生産黨全國大會

新黨運動反對の聲明書

近衛文相公が樞密院議長の要職を辭し皇國體制整備のため新黨運動を嚆矢するや既成政治團體は等しく頹廢を呈し所謂新黨運動を巡つて暗闘激闘を逞しよするに至つた。本黨は新黨運動が内容において舊態依然たるのみならず、その間政権獲得の陰謀が存するを見て皇國の爲め斷乎粉砕することに決し、六月五日緊急總務會を開き熟議の結果、左の聲明を公表してその態度を明らかにするところがあつた

本黨は目下下作中の所謂新黨運動に對して絕對反對の意志を表明するものである。(一) 新黨の思想的根據は依然として自由主義的であり社會主義的である。その國體をいひ、皇道を稱するは單なる保身野望のためである(二) 新黨の目標は現狀維持、時局便乗、政權獲得にあり、斷じて真正戰時體制を確立する所以でない。(三) 新黨は政、民兩黨及び社大黨を基礎とする偽裝政黨にして、何等の反省なく、懺悔なく、謝罪なし。その本質の低俗なるその心事の卑劣なる正に時局詐欺といふべきである(四) 新黨の構成分子は殆んどすべて血盟團、五・一五、神兵隊、二・二六等該等事件發生の責任者にして國內窮迫化の〇〇なり、聖戰阻害、外侮招來の責任、また二に彼等に歸す、その罪正に死に値す。彼等が自黨を解散するは勝手なり、廢黨專制を以てなほ且つ國民指導の新黨を急造せんとするが如きは、その無恥厚顏斷じて許すべからざる所である。

(一) 新黨の構成分子は殆んどすべて維新派に非ざればは難しきなり。又その本質において實業主義的階級は重なり。美辭を弄してその野心を覆ふと雖も、固に維新派の指導者たるを得ない。維新完成、實業進行を期せんと欲せば、第一に彼等と同調諷刺しなければならぬのである。吾輩は假令、如何なる者の出馬又は意向如何に關らず、國體の本義、維新の大道に立脚して所謂新黨運動に反對するものである。なほ維新陣營の一部にかゝる明らかなる公武合體運動に遠慮附せんとするものあることは我等の最も遺憾とする所にして若しその非を改めざるにおいては、陣營混淆のため斷乎これを遺憾せんとするものである。

故内田總裁三年祭

本黨直に黒龍會の創立者にして日韓合邦の偉大なる功業者、また近世日本の典型的國士として頭山滿翁と共に一世の崇敬の的たりし本黨總裁故内田良平先生が全日本の愛國者から惜まれつゝ昭和十二年七月二十六日野天されてから早くも三屆祭、本年は恰かも三年祭に相當するのであるが、都合により一ヶ月早めて六月二十六日金子治氏直に黒龍會主幹萬生能久氏齋主となり東京九段東人會館において盛大且つ觀禮裡に舉行された。當日は恰かも友邦滿洲國皇帝陛下の御訪日、入京の佳き日に當り日本朝野を擧げて感激溢るゝものがあつたが、内田先生の大亞細亞經綸の大精神と大抱負がいま着々として實現されつゝある實状を目の邊りにして、今更の如く先生の偉大なる識見と抱負に對し參列者一同感激を新たにすると共に先生の長逝を嘆じたのである。祭典は頭山滿翁をはじめ山本英輔大將、芳澤謙吉、小泉次郎、井戸川辰三、野内文次郎、池田弘、吉田本黨總務委員長以下朝野の名士三百餘名參列の下に淑榮未亡人はじめ、遺族の玉串奉奠、讀いて頭山翁以下參列者一同の玉串奉奠があつて式を閉じ別室大禮堂に於ける食卓に着き、故内田先生を憶ぶ有志のテーブル。

スピーチ等があり觀禮大禮堂に深き三年祭を致した。この日、本黨では全國大會出席のため上京中の全國代表者が多數參列して故總裁の偉位に玉串を奉奠した。

立黨十周年全國大會記念大演說會

立黨十周年記念全國大會を記念し開催の「國體興破大演說會」は六月二十八日全國大會に引續き午後六時より東京日比谷公會堂において盛大に開催された。當日は折柄の暑さにもかかわらず、聴衆は隨を接して會場に押しかけ、さしに廣い日比谷公會堂も三階の一部を残して殆んど一杯、壇上には日皇旗と生産電旗を中心に、軍政一體の戰時體制確立、野望的新黨運動、戰時國民生活の充實、討安瀾ソ維米方針の確立等々のスローガンが掲げられて聴衆を興奮せしめてゐる。定刻野望新黨開會を宣し、皇居遙拜、戰後並に出征將兵に對し、感謝の默禱をさしげたる後、同氏の開會の挨拶に次いで、小部英男總務、内外諸問題について、山本千一總務は熱辭をふるつて外交問題にメスを入るれば、臨斷から果敢「中止」の聲援が飛ぶ、湧き立つた聴衆は續く梁山、山止治平島剛各總務に感激的な拍手を浴びり會場は稀に見る活況を呈す。最後に吉田益三總務委員長は國內問題から對外問題、黨の政策等に至るまで詳細具體的に説けば、満堂の聴衆は嵐の如き拍手をもつて共鳴を送る、かくて盛況裡に午後九時過ぎ吉田益三總務委員長の發聲で、聖徳萬歳を奉唱して散會した。

七月

〇〇〇〇起る

聖戰すでに四載、皇國は未嘗有の困難に直面し皇國強力戦時體制の確立は國を憂ふる者の求めてやまざる處である、然るに國內は舊態革ならず上層階級は現状維持に汲々乎として餘念なく、政界の腐敗墮落、政治の腐敗窮蹙は心ある士をして眼を覆はしむるありさまである、嗚呼、現状を以て推移せんか、那家の前途に容喙ならず社稷必ずしも富強の安きに非ざるべしとは愛國の士の常に浩歎せるところであつたが、總務部山止治氏をはじめ、青年部員は密かに決意するところあり、遂に〇〇〇〇を起すに至つた、本黨では直ちに緊急幹部會を召集し、對策を協議の結果、世の大文字を連ねたる聲明書を天下に公表せんとしたが當局の容るゝところとならず發案處分に附されたことは遺憾であつた

立黨十周年記念國難突破國民大會並に大演說會

曇きに帝都に於て、立

黨十周年記念大演說會を開催した、本黨は七月十五日午後六時より大坂天王寺公園音楽堂に於て、立黨十周年記念國難突破國民大會並に大演說會を開催した、當日は朝來の風雨漸く晴まつたとはいへ、なほ鬱陶しき雨模様にも拘らず、愛國の觀衆は定刻前より詰めかけ、實に三萬餘を算へる大盛況である、定刻狩野野總務の司會、青野止、住田澤市、高橋道善各中央常任委員、梁山滿、山本千一總務の熱辭があり、國民大會に移り小部英男總務を議長に推し、宣言決議を可決、引續き演說會に入り關根重四郎、手島剛毅、船生利軍各總務の熱辭のあとを承けて吉田益三總務委員長登壇、世界情勢より歐戰外交を衝き、國內問題に移つて新體制運動に論及、更に近衛聲明の誤謬を剔決して、既成政黨の解散と選舉法の一新、内閣制度の改革、教育問題、皇道經濟の樹立、政治の簡易化を強調、最後に日支關係は現時きながら官報布告をして、再出發すべきであると結び、多大の感銘を與へて降壇、吉田總務委員長の發聲で、聖壽萬歳を奉唱して盛況裡に散會した。

近衛内閣成立と本黨

新體制運動をめぐる政界の微妙なる動きは、米内内閣の後退を求めつつある

ものの如くであつたが米内首相は政局の一新をはかるため遂に總辭職を決行、七月十七日後継内閣組織の本命は近衛文麿公に降下した、本黨では同夜九時より黨本部に緊急合同幹部會を開催、急遽下京せる吉田總務委員長を中心に對策を協議の結果、一新内閣の成立に對しては暫時靜觀的態度をとり、組織完了後において要請書を提出することに決定、翌十八日午前九時半吉田總務委員長は秋外莊に近衛公を訪問し、同十時五分まで四十五分間にわたり左の如き要旨を口頭及び文書を以て進言善處を要請した

- (一) 内閣の行動を迅速且つ強力ならしめるため組織に際しては八方美人的の配置を廢し有機的統一を目標とすること
- (二) 如何なる方面の重壓にも屈せず、軍との協力を計り、強力なる閣内統一(軍部の絶対協力)を確天下に公表すること
- (三) 日本主義者の國軍犯人に對して大赦令を奏請すること(一) 大本營を強化して國策を一元化し、かつ重要國策の事前漏洩を防止すること(二) 日本主義者と稱する者の獨官運動は維新運動の大道を逸脱せる野心的策動なれば是等一切を起用せざること(三) 轉回者、社系系等人民戰線派の體制的階層を嚴重警戒すること(四) 伊勢大廟參拜の車中談を廢すること
- (五) 責任政治の徹底(一) 支那事變の根本的解決(二) 皇道經濟確立のため、金融財閥をして金權を奉還せしむる(三) 皇道政治確立のため、既成政黨の解消とこれを基礎とする野望的新黨の廢滅(四) 皇道文化確立のため一切の反國體的宗教教育、思想、言論機關、結社の消滅(五) 皇道亞細亞確立のため府政權の徹底廢滅と日滿支〇〇の實現(六) 皇道外交確立

の露討英、撃ツ、排米の断行(一) 閣印、佛印即時〇〇をして南方生命線の確保(一) 高度國防を確立して世界動亂に對
かくて二十一日第二派近衛内閣に對する信任式も舉行され成立を見たので佐藤尙政、永原以郷、千葉友次郎各總務、柏村幸雄
中央常任委員の四代表は二十三日午後、時首相官邸に富田内閣書記官長を訪問し左の如き内外重要國策の即時實施を建議した

【要 請】

聖戰並に滿三年、忠勇無比なる皇軍將士は今尙大陸の野を碧血に彩りつゝ新軍部建設の聖戰を邁進しつゝ
ある秋、内、内閣の更迭すること五度、七月十七日再び組閣の大命閣下に降下せらる閣下は、今次支那變動發端初にお
ける責任者にして、政治責任よりするも、その在任中左記事項の即時實行を圖つて、内外を一新し國本を磐石に培つて以
て支那變亂の根本的解決を圖り東亞の新秩序を確立して、變遷様々なき世界情勢に對處せられ、上 聖慮に應へ奉らるべし
(一) 金融財閥をして令權を奪還せしむべし(一) 高度國防の擴充に全産業を動員して世界動亂に對處すべし(一) 對支
官戰布告奏請し、蔣政権を徹底殲滅して日滿文〇〇の實現を計るべし(一) 援將第三國の擊滅し、討英、撃ツ、排米並に防
共輻輳強化の外交方針を確立すべし(一) 援將ルート並に〇〇を即時占領して南方生命線を確保し、東亞新秩序建設の根柢
を確立すべし(一) 一切の反國輿論、教育、思想、言論機關、結社を消滅すべし(一) 既成政黨を解消しこれを基礎と
すべし野望的新黨を擊滅すべし(一) 責任政治の徹底を期し若し古道本務に背反する行為あらば閣下以てその責を果すべし
右敬請す

昭和十五年七月二十三日

大日本生産黨

内閣總理大臣 公近衛文麿閣下

支部動勢

▼京都支部では十五日全國大會報告を兼ね支部擴大委員會を開催、次の七議案を審議可決し支部新役員
を決定した(一) 支部黨勢擴大に関する件(一) 佛印閣印即時保證確保運動に関する件(一) 京都事務所設置に関する件、一
(一) 黨勢擴大演說會連演開催に関する件(一) 奢侈品統制に基く西陣織縮生産動勞者生活問題に関する件(一) 生産従業
動勞者に對する京都市電車朝引退勤運動の件(一) 農産肥料に関する統制配給に関する件▼宇都宮支部主催の時局對策大
演說會は二十一日午後七時より宇都宮市外城山村駒生の荒川與一氏方において本部より船生利重、高瀬道善氏を迎へ盛大に
開催された▼福井支部では國民再組織に關し國民の覺醒を促す運動を再開することになり、その第一聲を二十五日午後七
時より福井市谷町高野山坊に擧げた、司會者高見孝一(幹士)木下治郎松、山崎與三吉、長谷部富太郎諸氏熱辯を揮ひ、二
百餘の聽衆に多大の感銘を與へた、

人 事

【役員異動】 依藤勝任書記長並青年部長、影山正治、

八 月

再び撃英運動を全国に展開

支那、朝鮮、露、日、以来我が東洋新秩序建設の大業を遂げに努むるにあらずるは、我が東洋の野望實現に狂奔し來つた、露英帝國の非道暴戾はその絶頂に達し、歐州動亂の嵐が東洋に波及せんとするや愈々、血迷ひ愚かしくも米國を背後に頼んで對日敵性行為を露骨化しつゝあつたが、偶々わが日本檢察當局が國防治安の國內法規により英人間諜の一齊檢閲を斷行するや、これが報復として英本土並に英領植民地在在の日本人を逮捕するの暴舉に出た、續り續つた一億日本國民の對英感情は遂に暴英露滅の熾發點に到達し、國內を舉げて憤激の増場と化したのである、本黨は邦人不法逮捕事件に關し、八月六日佐橋尙政、千葉友次郎總務、粘澤俊男中央常任委員三代表が松岡外相を訪問し、從來の自重靜觀的態度を一擲し、國交斷絶も辭せざるの強硬態度を以て邁進されん事を進言することにも七月午前十時より急遽大阪より上京の吉田總務委員長を中心にして緊急總務會を開催し、全国的に露英の種運動を展開することを決議し、左の指令を全国分發に發し果敢な討英、撃英の種運動を開始した。

【指令】 英、撃英運動展開に關する件

今回の英本國並に英領植民地における邦人不法逮捕事件は老練極まる英國の常套手段にして我々の斷して許容し得ざる所なり、我黨においては直に緊急總務會を開催して、このが決議に基き從來の自重靜觀的態度を一擲し、國交斷絶も辭せざるの強硬態度を持すべき旨を外務大臣に進言して外務當局の決意を促すと共に關西黨務局においては、七月八日より連夜に亘り、大阪市各所に撃英街頭演説を開催して打倒英國の大獅子吼をなすつゝある。

各地分發においてもこの際あらゆる方法（演説會、ピラ、ポスター、外務當局への進言、英國大使館宛決議文郵送等々）を以て、猛烈なる露英運動を展開し、これが運動經過を本部宛報告ありたし

各地の撃英運動

【大阪】關西黨務局青年部を前衛とする撃英街頭演説は八月七日大阪の表を關たる大阪駅前を最初とし、毎夜各方面に轉戦、手島剛毅、狩野巖、小部英男、柴山滿、青野止一、梶原重雄、高橋澤一、入木可生氏ら幹部が絶叫を續けた【京都】京都支部では十日西陣成逸校十一日深草第一校十二日東山區有濟、十三日伏見區本願寺別院に演説會を開催、柴山滿、小部英男總務、河上支部長、難波支部書記長、木俣大道塾々監、小川支部組織部長らが撃英、基督教、救世軍、ロータリー・クラブ解散を絶叫したほか全市に傳單を貼付して注目を惹いた【松江】十日同市出雲郡に友誼團松江壯年同志會と提携して國民大會を開催本部より狩野總務を特派千五百の觀衆を湧かせた【徳島】阿北支店主催の國民大會は同縣貞光町天理教會において十二日開催、大盛會を極めたが、その後も特製の撃英傳單をもつて戦ひ續けた【熊本】十日夜同市における縣民大會に藤間黨代表が出演した【宮崎】十二日夜公會堂における國民大會に黒田黨代表が出演した【堺】支部員を總動員し撃英傳單をもつて全市を塗り潰した【生野】同地新聞社主催の豐岡市公會堂における國民大會に宮澤黨代表が出演した【峰山】縣下數ヶ所に二十五日より撃英演説會を開催【岡山】支部主催にて廿四日市内深橋小學校千五百瀨戸町公會堂に國民大會を開催、本部より柴山、小部兩總務出張、小部支部長以下黨員が獅子吼した【盛岡】支部では友誼團を促し撃英解散期成同盟を組織し、市と共同主催にて二十日同市岩手公園運動場に市民大會を開催、宣言決

一 離れ行つたが會衆一萬五千名に上つた【徳島】支部名をもつて首、陸、海相並に英國大使に決議を打電、露英ボスターを市内外支所に貼付した【川越】十六日同市外三芳野村小坂作業所に演説會を開催、本部より船生、福島、高橋三幹部來援ひき續き演説會を催し、外相及び英大使へ決議を打電した【廣島】青島支連では十一日外相及び英大使へ決議を打電した、【千葉】同縣本下支部では二十四日大森町六軒クラブに討英大演説會を開催、本部より船生、高橋(道)高橋(源)柏村幹部來縣小池相談役らが獅子吼、外相並に英大使へ決議を打電した【福井】十一日商工會議所に討英演説會並に縣民大會を開催、一貫、陸、外相宛決議文を打電した【宇都宮】二十七日商工會議所別館に英大演説會を開催、船生、高橋本部幹部、佐藤、一浦沼、伊澤支部幹部が獅子吼、千二百の會衆を湧立たせた【大宮】大宮支連では傳單を貼付するほか決議を首、外相及び英軍大使に送つた

新體制問題と本黨

近衛文相公提唱の新體制運動は同公の首相親任と共に急速に具體化し、八月二十一日準備委員の發表を見るに至り、本黨顧問高生能久氏も準備委員として参加されるに至つたが本黨はその組織構成になほ全幅の協力を致し難きものあるを感じ立憲の精神に即し、独自の立場をもつて、御奉公の誠を盡すことになり、八月二十三日國分書に左の指令を發し、新體制運動に對する態度を明らかにした。

【指令】 一、新體制問題に關する件

豫めて政府がその準備を急ぎつゝあつた所謂新體制も愈々、昨日準備委員の發表を見るに至つた、我が黨吉田委員長には八月二十二日近衛首相と會見の上、我々日本主義運動の聲前、

目的等に就き十分、その意を盡し來つた、我黨は顧問高生能久氏の準備委員参加如何に拘らず、故内田總裁の意志を盡し、立憲の精神に即り、飽くまで厳正公平なる態度を以て維新國家體制確立に邁進すべきである、全國黨員各位においては、益々黨内の結束を固り黨独自の立場において御奉公の誠を盡し組織の擴大強化に邁進せられたし。

新支部及び支連の結成

○見支連 兵庫縣加古郡一見町に居住する本黨評議員飯塚豊一氏の盡力により岡町に支連を結成、八月三日本部より狩野、小部、柴山各總務、太田中央常任委員、大田評議員が出張し同町公會室において支連結成記念演説會を開催、播州の野に生産黨旗を進めた。○南丹支部 京都府南丹波地方に支部樹立の氣運が動きつゝあつたが八月十七日京都府船井郡八木町八木劇場において南丹支部の結成大會を開催、力強き第一歩を踏出した。事務所は京都府船井郡富本村上原曾平井房次郎方。○東成支連 大阪市東成區有志西原義典氏及びその同業組合員により支連組織の議が興り八月二十日小部、柴山兩總務が出席し盛大な結成大會を開會した。

支部動勢

▼京都支部では八月一日、河上支部長、難波書記長、小川組織部長、西田、一貫、鈴木各幹事がスパイの滲透化しつゝある救世軍、基督教各派教會、關係中、女學校、ロータリー・クラブの潰滅を叫び京都縣兵隊に、中井隊長府警本部に小菅警部部長を訪問し請書を手交、更に救世軍京都小隊には松野中校、京都府立病院にロータリー・クラブ支部長澤月氏を訪問、解散勧告文を突きつけたが、「事件英國スパイの滲透救世軍を弾れ」と大書せる立憲救世軍を市内目黒十團所に立て潰滅運動の火蓋を切つた▲桐生支連では八月七日本部より佐藤、關根、高橋の三幹部を迎へ桐生劇場において演説會を開

演説會を開催、右三氏のほか地元より園田、岡部、石北幹事總辦を擁ひ三百の聴衆を緊密させた。引續き「林源」に座談會を催し佐橋總務を中心に質疑應答を行つたが近來稀に見る盛會であつた▲久呂保革新會では八日群馬縣利根郡久呂保村外山操氏宅に座談會を開催、佐橋總務、高瀬中央常任委員を團み眞劍に時局問題を討議した▲松本支部主催の國難突破座談會は八月二十日松本市小柳町魚網において開催された。支部より白井、船生總務出席、水谷支部長司會の下に船生總務講演の、一のみ質疑應答を行つたが當日は黨員のほか降旗元縣議、青柳東日支局長、青木大日本青年黨支部員、田村青年會員、塚原信州日々記者各各方面の有志六十餘名が會し多大の感銘を與へた

九月

全國大會可決議案處理に關する通牒

本黨では六月二十八日東京において開催された全國大會で可決された議案の處理經過並に今後の活動を明不するため總務會の決定にもつき九月十二日全國分黨に通牒を發した

内外諸政批判大演説會

時局下國民の新たなる決意をのぞんで愈々擴大強化、躍進しつつある本黨は九月二十一日午後六時より大阪天王寺公園音楽堂において「内外諸政批判大演説會」を開催、吉田總務委員長以下東西幹

部總動員で大論陣を展開したが、聴衆無慮五萬、肅然と傾聽、盛況裡に多大の感銘を與へた。この日好天の日曜日にくぐまれの國の聴衆は文字通り長蛇の列を作つて入場、途ひには壇上に籠を敷いて坐り込む盛況、定刻太田岩穂中央常任委員の會で皇座禮拜、英靈と皇軍將士に感謝の默禱を捧げたのも同氏の挨拶で閉會、八木可生中央常任委員、河上利治總務、山本千一總務、梁山浦總務、小部英男總務、船生利重總務、手島剛毅總務ら相次いで登壇、内外國政につき批判のあとを受けて吉田益三總務委員長は萬雷の如き拍手に迎へられて登壇、外交、新體制運動、選挙法、司法、行政分離論、物資配給から經濟問題に及び、一時間四十分にあつた演説は傾け烈々火を吐く大熱辯に五萬の聴衆身動きもせず、多大の感銘を與へた。かくて最後に吉田總務委員長の發聲で聖壽の萬歳を三唱して盛況裡に散會した。

新支部結成

○泉北支部 嘗ては東方會が大阪地區に於る唯一の牙城として誇つた泉北、泉南兩郡、岸和田市を包含する同會泉北支部も本黨旗進むとこそ脆くも崩壊し、本黨支部が輝やかしくも結成された。東方會の行動に懐らなかつた同地方農山漁村有志の間では同會を脱退し本黨に入黨せんと希望するものが多く再三支部結成準備會が開かれたが、愈よ正式に支部を組織することになり舊東方會員はもとより新しき黨員多數を獲得して舊組織に倍する同志を得たので九月二十一日日泉北郡鳳町官幣大社大鳥神社の大前に本部より白井、船生、千葉三總務、關西黨務局より小部、手島、柴山總務ほか幹部が列席して嚴肅な支部結成會を舉行、次いで同町千種小學校に結成記念内外諸政批判演説會を開催、野崎誠平、八木可生、梁山浦、小部英男、船生利重、手島剛毅、吉田總務委員長が熱辯を揮つた。廿三日は泉北郡北松尾小學校、二十四日

は南郡南池田小學校において記念演説會を開催し力強き國事の第一歩を踏みだした。事務所、大阪府東北郡南池田村分廳
 原田道氏方、總事務所、東北郡鳳町長乘寺二五二、○關東支部、京都三條大橋高山彦九郎先生遺像の畔りに關東支部が九月
 二十八日結成された。事務所、京都市大和大路三條下五軒町小川隆一郎氏方、○落北支隊九月二十三日白井、船生、千葉
 三總務出席し結成式を進行事務所、京都市左京區上宮野池の内町一宮宮天氏方

支部動勢

▼久呂保革新會では九月七日群馬縣利根郡久呂小學校に「新體制並に外交問題大演説會」を開催、諸田
 光太郎氏司會で「維新奉行者の覺悟」清水三郎氏「外交問題と臣民道」高瀬道善中央常任委員「新體制の動向と維新」船生
 利重總務、それぞれ熱辯を振ひ最後に高瀬源治氏が支報告をなし感況を述べた。▼福濱支隊主催「新體制と外交問題問題座
 談會」は十五日福濱市神奈川區福月會で開かれ船生、山下總務、高瀬、佐藤中央常任委員が出席、熱心真剣な質疑を爲した
 ▼福島縣郡山郡前木村屋旅館に本黨相談役小池銀次郎氏を團長青壯年中堅層の座談會が二十一日午後七時より開かれ本黨の
 政策が闡明された▼埼玉縣大宮支隊では大宮町社會會館に白井總務、福島、高瀬中央常任委員を迎へて座談會を開催した。

十月

全國支部長會議

本黨は六月二十七日、二十八の兩日にわたり立憲十周年記念全國大會を開催し内外緊急
 軍大問題につき慎重審議これを可決決定して一意實現に邁進しつゝあつたがその後幾許もなくして社實大衆黨、既成政黨は相
 隨いで解散し、新體制運動の發足を見、日獨伊同盟締結する等、實に内外諸情勢は著しく轉換したが本黨が不斷に奮闘する
 維新の途は前途尙ほ遠遠なるものがあるのに鑑み本黨は十月十八日全國の支部長を東京に招集して全國支部長會議を開催し
 新情勢に對應すべき本黨の態度審議決定した。この日恰も 聖上陛下護國の英靈に御親拜遊ばさるゝ、晴國神社臨時大祭の佳き
 日に當り今更ながら聖恩の霑けなさに感泣しつゝ全國百五十餘名の代表は議長吉田總務委員長統率の下、終始眞剣且つ嚴肅に
 會議を進め、宣言、決議を可決し、十三議案及び緊急勸諭三件を慎重審議の上可決してこれが實現に邁進することになった

【宣言】

本黨は茲に創立十周年記念大會を開き所信を公にせり然るに澎湃として皇國をめぐる時艱の荒濤は甚だ
 重且大を極め須臾の偷安を許さず、皇國の前路多難なる容易に逆襲し難く空前の關頭に達す、之を克く啓開し皇威をして
 益々伸張宇内に光被せしめんには今こそ本黨が十年一貫身命を賭して主張し來れる大策を急速に實現し昭和維新を達成すべ
 き秋なりと信ず、本黨は茲に全國支部長會議を開催するに當り更にその志を叙べ謹みて瀆天下に懸へんとす。惟ふに近頃
 相は大政黨實を目標に新體制運動を提唱し已にその機構の一部を組織せり。これを顧るにそのいふ所とは著しく懸隔し眞
 端を異にし、これ指導的地位にめぐる者が一切の自由民主思想、社會主義、功利思想を揚棄せざるに由因す。國體に違背せる
 殉國私の理念を確固把握なき所に居て眞體新體制の確立あらんや、まづ國本を築りたる現行憲法を改正、金權維新を實

行して變態經濟を是止し、配給、統制機構の根本的改革を断行、以て國民生活の基本を確立し無敵國防の根柢を固成、内皇
道維新の完遂に邁進すると共に、外は武力を以て蔣介石を殲滅し滅共討英米の大方針を堅持し世界維新の根柢を確保すべき
なり。本黨は眞箇昭和維新の完遂を自指し更に主張するところを吟味精選し黨内の結束を固め黨勢を擴大強化し凡ゆる機會
において捨身奉公の誠を盡さんとす。昭々たる補助我等が上にあり、何をか憂へ何をか恐れん、罷れて後ち口まむのみ。諸
天下の同愛慕ば我等と共に維新救國の大道を戮力協心邁進されむことを 右宣言す

【決議】

(一) 我等は皇國本然の眞姿を顯現するため責任政治の確立を期す (一) 我等は眞箇皇道維新の爲め
變日本主義者の徹底殲滅を期す (一) 我等は皇道政治確立のため現行選舉法の改正を期す (一) 我等は國民生活の基本を
確立するためその最低基準を決定し各種統制機構の改正を期す (一) 我等は皇道外交確立のため滅共討英米の實現を期す。

【提出議案】

- 一、責任政治確立の件 佐藤尚政氏提案理由を説明すれば、清水三郎、佐々木清
- 二、信天源一郎、荻野丈夫の諸氏より意見の開陳あり議長は各位の意見を十分付度して實行に移すといふことで決定し次の
- 二、自治政治の根本的改革の件 小池銀次郎氏が提案理由を説明し、水谷道泰、清水三郎、村中清太郎
- 大内武、紺野庄三郎、山口兼吉の諸氏より意見を開陳結局本部に特別委員會を設置し詳細研究の上實現することとして可決
- 十、農村生産擴充に關する件 順序を變更して第十號議案と同じく小池氏が提案理由を説明すれば水谷、一
- 信夫、紺野、大森、須藤の諸氏より意見が出で、結局議長は農村對策委員會に一任といふことで可決

三、選舉法改正に關する件

は山本千一氏が説明し、且下政府においても改正を企圖しつつあるやうである
からこの際是非共我黨が立憲以來主張し來つた家長本位選舉法に改正したしと計れば萬端異議なくこれを可決し實行方法は
政府要路に向つて實現方を進言すると共に地方各地においても凡ゆる方法を以てこれが實現の運動を展開する事を決定した

四、新體制に關する件

關根喜四郎氏の提案理由説明に對して信天源一郎、山口兼吉、高澤敏、村田敏三、田
田敏十郎、大内武氏より熱烈なる意見が述べられ、議長はこれを採決して、主旨には賛成であるが人的構成には反對、若し
これに入會するとせば生産黨員として入會することは差支へなしとして可決

五、共產黨撲滅に關する件

六、討英米に關する件 この二議案を一括して河上利治氏提案理由を説明し、共產黨とソ聯とは切離して考へ
られない、又支那事件を通じて英米の敵性も明確なる事實である、我等は飽くまでこれ等を討たねばならぬとなし、滿洲國
議なくこれを可決し、實行方法は凡ゆる手段を以てこれが實現を期することとなつた

七、指導者の思想監査の件

一切の指導機關にたつさわる人々の思想を厳重監査の要ありとして狩野巖氏提
案理由を説明し、全國黨員が監査員となつてこれが監視をなすこととして可決

八、擬裝日本主義者の徹底殲滅の件

小部英男氏理由を説明し、滿場拍手を以つてこれを可決し、實行

方法は凡ゆる手段を以て凡ゆる機会を通じてこれが實現徹底を計ること

十二、先達隊組織の件 船生利重氏が提案理由として先達隊の主義主張を理念となし、先達者として御維新黨費することが目的であると説明し、藩編一致これを可決して名前は大日本生業黨先達隊とし隊員は即時各分署より一五名を推薦すること、決定この時議長より過日大阪に黨の青年部開設の件及青年部を改組して青年隊結成の件が報告された

九、配給統制機構の根本的改革の件 太田君鶴氏の説明に對し、信天、清水、村田、中村、野崎、高澤野呂、荻野氏等多數の地方情勢に即した諷刺かつ熱烈なる意見の開陳あり議長は各自の意見を參酌して本部において當局へこれが改革實行方を迫ることとして採擇可決した

十一、國民生活最底基準確立の件 柴山清氏、國民の生活を無視して國家の政策はないすべからず我黨の生産保護法を生かすべきであるとの提案理由を説明し、藩編一致これを可決し、實行方法は本部において大中小部會、農村等に分けて研究し、支部長會議の名を以て當局に進言すること

十三、組織擴大に關する件 白井爲雄氏提案理由を説明し、從來の職業別組織を廢止して地域的組織に單一化すること、中央地方の連絡を密すること、支那機關を十二分に活躍せしむること等を審議して可決した

【緊急動議】 一、日本主義國事犯人に對する〇〇〇〇〇〇〇〇の件 永富口雄氏が議

出し藩編一致を可決し實行方法は本部に一任された

二、支部倍加運動の件 提案理由を中野正雄氏が説明し來年の黨大會までこれが實現を期することとして可決
三、供出米麥の代金を即時支拂に關する件 茨城、千葉兩縣支部聯合を以て提出され、少くも一ヶ月位で支拂ひされたと希望し、實行方法は本部一任として可決

青年寮設立さる 本黨では最近極みに活氣を増して來た黨の擴大伸張に伴ひ、新しき同志や支部分黨の

若き騎士たちの爲め、修養、指導講習、宿舍等に充つるため、大阪市天王寺區石ヶ辻町に關西黨務局所屬の「青年寮」を創設十月八日盛大な開寮式を舉行、初代寮監には河上利治、星井眞富兩氏、指導主事に柴山清氏が選ばれた寮則は左の通りである

大日本生業黨青年寮々則

- 一、寮是 (目標) 忠節 親和 熱情 反省 實踐 石の條項を信條として、自己完成し、大義奉公の道を進む
- 二、目的 本寮は吾等の一般黨員又は有志希望者等の爲めに右に讀み所の寮是に則り更に吾黨の實踐部隊たるの役割をなさせん爲めに諸種の指導訓練をなす
- 三、寮の機能 一、本寮は關西黨務局の管理下に置き黨規の統制を受けるものとす
- 四、本寮に教育主事及寮監を置く△教育主事は寮生の指導訓
- 一、寮是 (目標) 忠節 親和 熱情 反省 實踐 石の條項を信條として、自己完成し、大義奉公の道を進む
- 二、目的 本寮は吾等の一般黨員又は有志希望者等の爲めに右に讀み所の寮是に則り更に吾黨の實踐部隊たるの役割をなさせん爲めに諸種の指導訓練をなす
- 三、寮の機能 一、本寮は關西黨務局の管理下に置き黨規の統制を受けるものとす
- 四、本寮の一切行事の決定は吉田委員長の認許を経しものなるを更す
- 五、行事 (イ) 黨員及一般希望者の爲めに我黨の主義政策組織に關する講座を持ち、研究と訓練を通じて、その實踐に移す

(ロ) 研究會、講習會等の期日はその都度協議決定す
 (ハ) 修養—大義のために盡忠報國の志を教さんとする求道の士の爲めに修養と訓練との道徳的役割をもち、又同志等の良き安息の家ともなり固き結びの團樂の陣營ともなる
 六、寮生 例へ一日たりとも寮に生活せんとする者は寮監の認許を要す

七、寮内規 一、寮生は寮の目的と精神を傳へて一切の行動をなすべし (一) 寮生は常に指導者たるの自覚と進取の行者たる名譽の爲めに行動すべし (二) 寮生は自肅自勉に徹すべし (一) 寮生は右の諸項に相反するの行爲ある場合は當即依り黨を除名し寮を退放するものとす (二) 在寮中の諸費用は、その都度これを協議決定す

河合教授問題で検事局を激罵

休職經濟學部教授河合榮治郎(五〇)に對し、内務省は昨春勸告行政の處分を以つて右四科の發禁を命ずる一方、検事局も強硬なる態度をもつて起訴したが、その歸趨如何によつては自由主義一派に對する優越感と興へしめ、將來に對する大なる影響の點よりして、成行を重視し、一方自由主義教授一派も自派生命の分岐點なりとして其無罪を欲求して居つたもので、その重大意味をたらす判決は滿腹石坂裁判長によつて「無罪」の判決が下され、各方面に向つて一大センセーションをまき起したが、右に對し愛國の國氏よりは一齊に「檢事控訴」の當然あるべき事か期待されてをった折柄、檢事局は「斷乎控訴」に一決し一大喝采が博されたるも次に來るべき機會こそつとも重大なりとして本黨では滿腹の首腦部會議の結果代表千葉、高瀬、福島、清水の四氏は檢事と會見大いに激論するところあつた

吉田總務委員長を圍む會生る

さきに吾黨支部の結成を見たる大阪府下泉北部の團町地方において、その後地方の實業家、農村人等有志の間に吉田委員長を圍む時局懇談の會合をなす案が持上り、その第一回を十月十四日の夜團町政友クラブに開催した會する者三十五名、吉田委員長を中心として、外交、思想、政治經濟等の諸問題にわたり二時間半

各人に充分なる清年を興へた、この會は今後も永續せしめて、地方人の政治智識と時局認識のために努める筈である、然もこれは黨とは別として吉田委員長個人への集團として「吉田會」とでもいふべき實のものである

日本主義青年會議結成さる

日本主義青年全國會議の結成大會は十月十七日の佳節を下し午前十時より東京赤坂三會堂において約千名の全國日本各地の青年を集め豪華なる大會の幕を開けた、司會は松木良勝氏これを擔當し兒玉信夫氏を議長に推薦し船生利生氏懇辯を傾けて開會の辭を述べ、議長自ら日獨伊同盟に賜はつた御詔書を捧讀すれば場内は極めて嚴肅なる氣張り大會は次第に高調して青年の氣氣を三す。かくて宣言決議を可決、今後の運動方針、役員任命等議事終了し、井田警備男、堀内文治郎中將、本黨總務委員長吉田益三氏等の來賓祝辭あり、幕生能久翁の發生の下に聖壽萬歳を三唱して午後四時この意義深き大會の幕を閉じた、かくて得望の青年會議は愛に風々の生ぶ聲をあげ今後の運動が如何に展開されるかを重視されることとなつた。

吉田總務委員長主催で全國詩吟大會

昨年十月二十三日吉田總務委員長、頭山秀三兩氏の主宰で開かれた詩吟界の劃期的豪華企てたる全國詩吟大會は大好評を博したが、十月二十日午後一時より「第二回全日本愛國詩吟大會」が兩氏主宰で東京赤坂三會堂で盛大に開催された。出演者は關東、關西選りすぐりの一流大家四十餘名、頭山兩翁、關西部長、關西部長、小栗一雄、高野源進氏ら在京の名士顯官千餘名來賓され盛會を極めた。

新支部結成

○西陣支部 西陣で名高い京都に十月一日西陣支部が結成された。事務所、京都市上京區紫雲寺

南町三五西田次郎方、○相生支部 支那軍の献身的努力により野島橋相生市における本軍の組織は著しい進展を示しつゝあつたが十月二十六日、吉田憲務委員長、船生、佐橋、小部各總務、船生、高瀬中央常任委員出席、相生市天神宮前において厳肅な支那結成式を挙行、同夜は相生西校に記者大演説會を開催、一千餘名の聴衆に多大の感銘を與へた○利根支部 久呂保革新委員の努力で組織中であつた群島利根郡における支部は、十月二十七日吉田憲務委員長、船生、佐橋、小部、船生、高瀬の本郡幹部列席の下に同郡西田町須賀神社において利根支那結成式を挙行、同夜は西田町に結成式を大演説會を開催した。

支部動勢

▼松本支部では野球場用衣に所屬名を英語で記すことは不適當のみならず團體費からも面白くないと舞臺字運動を起し懸下各中等學校、各運動團體に印刷物を配布、更に西品、看板等の英文字も日本語に改むべしとの運動を推進したところ各方面の賛成を得、著々實現してゐる▼廣島縣香戸支部では十月十一日、紀元二千六百年國民慶祝の日同地團體に同町出身の出征軍人遺家族を招待、諸華大會を催し、妹尾支部員支那の土産物を贈つて慰安を行つた。▼兵庫縣西宮市立正社でも十一、十二の兩日、市公會堂に出征軍人遺家族慰安會を催し演劇部を招待して十分な満足を得た。▼群馬縣高崎市における本黨支那會は十月二十八日日本軍より船生、高瀬(澤)高瀬(道)三幹部出席行はれた。▼群馬縣高崎市における支那會は本部より佐橋、小部、高瀬三幹部が出席し二十八日開催された。

人事

【役員異動】任中央常任委員、高瀬源治

十一月

關西地方擴大協議會

關西黨務局主催の關西地方擴大協議會は十一月四日午後七時より大阪中之島公會堂に於て開催された。當日は下度幹部會のため下阪中の東京本部の幹部を初め松江支准の代表者黨務局管下分營より代表約四十名出席して、定刻早開演、戰況並に出征將兵に感謝の默禱を捧げ、小部本勇氏を議長に推し、書記を任命、現支部長豊西補一氏言葉をなし、續いて出席者の自己紹介をなして本部報告に移り、青年隊の件を河上利治氏が又先進黨及青年隊の件を栗山清氏がそれぞれ説明し、次いで本部側を代表して船生利重氏が挨拶をなして吉田委員長より一條の訓示があつて議事に入る

- 一、組織擴大に關する件
- 一、改體制に關する件 (イ) 官公吏の新體制化(ロ) 地方組織の現状維持的傾向監視(ニ) 反國體的思想徹底撲滅に關する件
- 一、選挙法改正に關する件

をそれぞれ可決して、ついで地方代表の情勢報告に入らんとするや大阪府代表櫻原氏より

一、現在の總務委員長制を廢止して、現總務委員長を總裁として推挙の件
 が緊急動議として提出され満場一致これを可決し、方法その他は黨務局一任となつた。續いて東北支部代表野村氏松江支准代

表の早氏、京都支部代表難波氏、城東支部代表西原氏より熱烈なる情勢報告あつて午後十時吉田委員長後援の下に懇話會を
審議して散會した

家長選舉法等を要請

我が黨立憲以來の主張たる家長選舉權附與に關する輿論は頭山清翁、萬生能
久氏の對政府進言書發表以來次第に昂まり之に對する政府當局の態度には全國革新陣營の嚴肅な注目が拂はれてゐるが、去る
四日大阪中之島公會堂で開催した我黨「關西擴大協議會」の決議に基き代表永富、千葉、高瀬、柏村、牧野の幹部は十一月七
日午前十一時より内務省を訪問次官と會見續いて大政黨會の有馬事務局長を訪ねて夫々左記要請書を手交し一時内幸町
の東京本部に引揚げた

【要 請】

現行選舉法は西洋の個人主義選舉法の模倣にして家族主義を根幹とする吾國體とは全然適合せず、よつ
て今回の改正に當つては吾黨立憲以來主張し來れる一家を構成せる家長は男女年齢を問はず選舉權を附與する家長本位選舉
法を採用せられたし

内務大臣 安井英二閣下

【要 請】

大政黨會の人的構成を見るに中央地方を問はず舊態依然たり、かくの如き人的放棄を以つてしては新
體制の確立を不可能なるべく人材を廣く天下に求め眞の新體制確立を要す

大政黨會事務局長 有馬頼寧閣下

再び聯ソ派を撃つ

内外の急迫せる情勢に鑑み本黨では十一月十五日「再び聯ソ派を撃つ」と題する聲明書
發表せんとしたが當時のため發表處分に附されたことは遺憾であつた。

東亞先覺者慰靈祭

(黒龍會主催) 黒龍會では、紀元二千六百年の佳辰に創立四十周年を迎へその記念祭を發
ねて、東亞同種先覺志士の慰靈祭を舉行した。この日十一月十五日青山會館には朝野名士多數出席、一千七百柱の英靈を前
に、午後一時池田弘、吉田益三兩氏司會の下齊主今泉定助翁の祭詞、主催者黒龍會主幹萬生能久、後援代表頭山清兩氏の
樂文朗讀等あり祭典終了後堀内文次郎、本多照太郎兩氏の講演あり非常な盛會裡に散會した。因に昭和八年紀元節日比谷公
園の慰靈祭には一千四百五十四柱が奉祀されたが、今回はその後物故せる内田良平、田中舍身、五百木良三、梅屋庄吉、薄
天鬼、若宮卯之助、井上角五郎、大山卯二郎、東津耕次郎、高山公通、馬場國義照、細井肇、西村泰蔵、香渡信、上領一郎
の諸氏等二百有餘柱が合祀されてゐる

日本主義青年會議臨時大會

日本主義青年會議臨時大會は十一月十八日正午より日比谷公會堂において松
木良勝氏司會の下に開催集會者は千五百名を算へ、午後一時總員起立、宮城善祥、戰歿將士に對する默禱を捧げること
外「仁愛政治の確立」「吏道刷新、獨善排難」「新體制使來者偽裝轉向者排撃」「生活振興緊急對策の樹立」「日本主義に
よる經濟國策樹立」「新體制樹立皇道維新斷行」のスローガン林立する内に大森一登氏先づ起つて開會の辭を述べ、次いで
中野信天氏選ばれて議長席につき挨拶終つて愈々議事に入り柳町茂道氏の經過報告、友納早一氏の聲明朗讀に續いて議案

明として高橋武蔵氏が「改進黨刷新に關する件」高橋一氏が「農村及び中小商工業者に關する件」船生利重氏が「反國體思想
顯露の件」赤神良護氏が「現下の經濟政策に關する件」最後に寺田昭次郎氏が「黨員會に關する件」を夫々説明この間終始
誠私奉公の旨道徳を強調、官僣獨善の非並びに黨員會の人格的不信任を剔抉し、全黨團結一致を以て決議されたので、直
ちにこれが運動方針の闡明に移り最後に聖壽萬歳を三唱、午後四時極めて盛況裡に閉會した

第二代總裁に吉田益三氏を推戴

純正日本主義の大

旗を翻して非常時局救済のために第一線に立つて立黨以來十年間奮闘を續けて來たわが大日本生産黨は、昭和十二年七月二十
六日總裁内田良平先生を失つて今まで足かけ四年間故内田先生の魂を奉じて益々結束を固めひたすら御維新眞實に邁進し來つ
たのであるが、最近慌しき時局の轉換と情勢の逼迫に伴ひ新總裁推戴の聲が全国的に燃え上り、この澎湃たる聲を反映して
去る十一月二十七日東京赤坂三會堂に緊急合同幹部會を開催し、總務中央常任委員卅餘名出席の下に全國的要望たる總裁推戴
の件を協議の結果、瀟灑一致破るるが如き拍手の下に總務委員長吉田益三氏を第二代總裁に推戴することに決定し、これを契
機に政策の再検討機構の刷新を斷行し黨勢を益々擴大強化して唯一の愛國政黨として果敢なる活動を開示することゝなつた、
向故内田總裁は今後「黨祖」として永久にその精神を繼承することとなつたが、我黨は右新總裁推戴と共に、頭山、萬生、
小林の各顧問、故内田總裁未亡人、その他他田相談役等先輩にこの遺教をなすと共に、各地分黨に對しても次の如き指令を
發した

【指令】 吉田總裁推戴に關する件

本黨は十一月二十七日午後一時より東京赤坂三會堂に緊急幹

部會を開催し、總務中央常任委員三十餘名出席、全國分黨より熱烈に要望されたる總裁推戴の件を協議の結果、瀟灑一致を以
て吉田委員長を第二代總裁に推戴することに決定した、我黨はこれを契機に政策の再検討、機構の刷新を斷行し、黨勢を益
々擴大強化し唯一の維新愛國政黨として果敢なる活動を開示することゝなつた。全國分黨においても吉田總裁の下、一致團
結し以て黨本來の使命達成のため御奉公の誠を盡されし、向故内田良平總裁は今後「黨祖」として飽く迄その精神を繼承
することゝなつた。追而吉田新總裁推戴その他に就き昭和十六年三月上旬頃東京に全國大會を開催する豫定である

吉田新總裁の訓示

今般はからずも全國黨員の厚望により大日本生産黨の榮譽ある總裁に推舉された

ことは、深く光榮を思ふと共にその責務の重大なるを痛切に感ずるのである。余が今後黨總裁として結黨以來十年一貫して
主張し來つた故内田先生の經驗、黨の主義、政策を繼承して有終の果を成し一意御奉公の實を擧げ得るか否かは、かかつて
黨員諸君の愛國の熱意と強固な實踐、一黨一家、始終不渝の戦力協心にまたねば難い、本黨は家族主義の上で結盟された
團體である。總裁はその家長であり、黨員は家族である一家が圓滿に行くも行かざるも凡ては和に盡きる、全國黨員諸君は
同志相結び相和し魯鈍なる余の有力な推進力となられんことを希望してやまない。時局はいよいよ重大である、皇師百萬
大陸の野を轉戦すること既に四歳、國民政府樹立され御我の間に國を調整の基本條約の締結を見たとはいへ事變はこれによ
つて終熄せるものでなく、むしろ今後こそ重大なるものがある。更而共黨關係確立の大事業はいまその緒に付いたばかりで

あつて、荆棘の道は行手に重疊してゐるのである。日獨伊三國同盟の妥結により皇國の進むべき路は明示せられた。今はいはゆる世界平和主義者のいふ萬邦友好の秋ではない。英米は明らかに對陸の地位に立つた、ソ聯の存在は執拗なる援將行爲によつて明白である、我が對外政策はすべて三國同盟の輻輳に出発するべきであり、世界情勢また悉く三國輻輳を對象にすべきつある、八紘一宇、皇道の世界光被てふ大理想に發した、東亞共榮圈確立への行動は獨伊等盟約國の認むる所であると共に必然相對的に英米等の阻礙行爲となつて現れつゝある。東亞共榮の根本理念は亞細亞の獨立以外にない。即ち亞細亞の天地から白人勢力を驅逐せんとするのであるがアジアをして歐米の讎敵たらしめた最大元兇は英米であつて獨伊は一塊の領土をも所有してゐないのである。然るがゆえに歐洲の問題はしばらく措き、東亞に關する限り獨伊の諒解は事態の解決に大した影響を齎らすものではない。東亞共榮圈の確立は日本のみが獨力でこれらの侵略國を相手に解決せねばならぬ事は論ずるまでもない。さればこそその前路は容易ならざる荆棘あるを痛感せしめられるのである。現に米國は太平洋作戦を練り軍備の擴充に狂奔し、獨伊を嚇かして對日離間を策し、英國はシンガポールの軍備を固め泰國を嚇かして佛印との交戦をなさしめ西貢地方に叛亂を起させて佛印の内崩を企て際に我が南方政策の阻止に奔命これにつとめてゐる我が敵か英附屬民なる事は今や隠れもない事實である。三國同盟はさらに其輻輳を固め第四條の發動を見るに至つた。世界騷亂の荒蕪がひしひしと皇國に迫りつゝあるを感ずるとき皇國我らの使命は實に重大である。本黨は結黨以來十屆、その戰術的實踐は時代の先驅者としての陣やかしき使命をはたして來た、滿洲事變に赴けて結成した本黨の行手には言語に名狀し難い苦難が起

伏重疊してゐた、赤穂先驅同志の犠牲も多くあつた。然し本黨の行動目標たる國體明徴と防護は微動だにするものでなかつたことは現在といへども變りはない、結黨當時の現實的目標は政黨政治の打倒と社會主義の驅滅であつた、十年を關した今日、果してこの目標を完遂し得たといへるであらうか、既成政黨は形式的に解體し社會主義は表面的には敗退した、然しそれはあくまでも時局備乘といふ機態である。近衛首相提唱の新體制は大政黨運動として全國民の參加を切望し政黨、財閥、特權階級、社會主義陣營は過去において犯せる積弊を懺悔もなせず恬然として新體制を提唱する大政黨といふ聖業に参加した。かかる豹變の動機と信念に多大の疑問を持ち責任政治の確立を冀求してやまぬ我々は反省なき彼等の過去の事實に對しあくまで追及せんとするものである。世界が過渡的段階にある如く我國も轉換期に遭逢してゐる、大政黨會に内包される政黨政治の殘滓と社會主義の傳統は大政黨運動に便乗すべく狂奔してゐるのである。我々は彼らのかかる卑屈な事大主義を斥けると共にその將來に大きな相愛を持つ、日本が萬一將來において國際編裡に或ひは東亞の舞台において間違があつた場合、これらの勢力が無言で國力の復活に専念し得るであらうか、大政黨會はそのいふが如く臣道實踐の推進力でなければならぬ。従つてその中核は理論的にも一貫して臣道の眞義を明確に把持した人達であり、この中核的要素を全國民に普遍せしむることを本務としなければならぬのである。世の政治的・思想的、社會的、文化的集團が擧げて大政黨會に溶解しつゝあるとき、本黨のみが毅然としてその集團を解かざる所以は大政黨會をして眞の大政黨運動たらしめんとするところにある、如何なる威武にも屈せず權力にも制約されず常に民間草莽にあつて唯だ只管維新成就を祈念し挺身奉公の

誠を以て本黨の存在は空前の艱難に直面せる皇國なるがゆえに必要であり、且つ大いなる使命を有するのである。こゝにこそ恩師故内田先生が垂訓せられたる無報無私の純正漢人道の眞姿があると確信するのである。「まづらはざる」ものを擊ち「たゞよえる國」を修理固成することは皇國の理想であり日本臣民の使命である、外に對するも内に対するもこの大道を描いて皇國體はあり得ない、我々は黨祖故内田先生の精神を繼承し一意専心御奉公の道を勵むのみである。國體の防衛と明徴のため苦難多き途を選び皇國體の防備となることか臣道實徳であり、また本黨に課せられたる眞の使命なるを確信しての先達たらんことを決意し總裁を交託した次第である。全國黨員諸君の余に示されたる御厚意に對し深く感謝を捧げ、あはせて將來に對する決意の一端を披露して就仕の辭と致した次第である。

「大日本生産黨十年史」編纂に着手

我黨が昭和六年六月二十八日結黨されて以來十年

今や全國津々浦々に我黨組織の擴大を見つつある時、新たにまた、吉田新總裁を迎へて結果を新たにし、十年を一期として新たなる巨歩を踏み出すに當り「大日本生産黨十年史」編纂の議が十一月二十七日の合同幹部會において決議せられ、これが編纂委員として、吉田總裁統率の下に、久野一雄、柴山南、小部英男、佐橋尙政、白井爲雄、影山正治、太田岩藏、千葉友次郎の諸氏が任命された。明年三月上旬、新總裁就任、機關刷新等の臨時全國大會が開催される運びとなつてゐるので、これが大會まで完成の豫定である。

日本主義國事犯者釋放さる

司法省では神嘗祭に當り廣大無邊の鴻恩を浴く獄舎に浴せしめるため、全國

五十餘の刑務所にゐる刑期三分の一を経た横犯四六十四名に對し十一月十七日皇朝假出所を許した、この恩典に浴した者の中血盟團の盟主井上日昭と愛郷塾々長橋孝三郎の兩氏は小倉刑務所を午前九時に出所したが更に明治節の佳き日にあたる十一月三日此日二・二天事件山本元少尉等八名をはじめ血盟團事件の小沼正氏(三〇)菱沼五郎氏(二九)濱口元首相狙撃の佐藤隆雄氏(三三)統天塾事件の鈴木欽氏(三一)その他全國で合計百三十三名が假釋放の恩典に浴した、本年は紀元二千六百年のほか明治神宮鎮座二十年祭を迎へて殊更に意義深き佳節にあたるので司法省では全國刑務所に調査を命じて改悛の情願著かつ行刑の實績あがれる者に對し普く假釋放の恩典に浴させたのである、これを以て我等が豫めて念願し遺憾の支部長會議においても決議した日本主義國事犯人は殆んど出所を許され今更なから皇恩の廣大に感激するばかりである

栃木縣支部聯合會結成

全國支部長會議以來栃木縣下各分會間に支部聯合會結成の機運が急速に進展してゐ

たが十一月九日宇都宮市に宇都宮、兩毛、支部の幹部が會同、本部より白井、高瀬兩幹部が出席して栃木縣支部聯合會を結成した。事務所、宇都宮市蓬萊町一六三九佐藤猛吼會長方。

支部動勢

▼徳島支部では徳島市會が會派解消に伴ひ正副議長の辭職を強要、政争を繰返せる醜態を遺憾とし十一月十四日市會協議會に勸告書を手交した▼本黨相談役小池銀次郎氏を中心にして十一月十五日茨城縣新治郡玉川村、同十七日同縣鹿島町吉見屋に座談會が開かれた▼日本主義青年埼玉、群馬地方會議は井田警備男、本黨顧問葛生能久氏を迎へ十一月三

十日川越市川越會館で開かれた。

大日本生産黨青年隊結成

皇紀二千六百年、いとも畏きこの式年に、躍ける維新回天の旗を高く掲げ、皇道大日本建設の聖闘を祈念し續けて既に十周年を迎へた本黨は、更に吉田總裁就任の慶びと同時に全國各支部より選拔せる精銳的青年分子を母體に一、尊皇攘夷、滅賊討奸、一、生命奉還、維新黨費、一、全體主義、聯ソ派の驅逐、一、維新陣營の徹底的肅正、一、新體制時局便乗派の掃蕩、一、大亞細亞建設使命の完遂、一、眞摯日本青年の躍起要望の七大實踐綱領を掲げた「大日本生産黨青年隊」が聖地權原に十二月二日嚴肅な結成式を擧げ殉忠無難、捨身奉公の巨歩を踏み出した。前夜より權原神宮外苑入絃寮に宿泊し訓練、協議、座談會等自己錬成に一夜を明かした全國各支部選抜の青年隊士は一糸亂れぬ規律ある朝の行事ののち午前八時隊伍を整へ「青年隊旗」を先頭に歩武肅々行進、權原神宮前廣場にて吉田總裁の閣隊を受け隊旗、總裁を先頭に神宮大前に参進、嚴肅な隊旗入魂式を擧行、再び隊伍を組んで結成式場入絃寮に入る。午前十時住田徳市氏開會を宣し皇居参拜、國歌奉唱、默禱の後住田氏開會の挨拶、入木可生氏の経過報告があつて議事に入り隊則、綱領、編成、組織、會合、附則を審議可決、吉田總裁より別項の如く役員の任命發表があり、次いで河上隊長の挨拶、宣言、決議を終へて吉田總裁は青年隊の囀ふべき道を訓示した。此とき山正浩事務局長の急電に一同平應を熱唱、次いで祝賀祝電の披露、高瀬道善氏の閉會の挨拶をもつて結成式を終了、午後一時半より座談會を開催熱烈な質疑應答を重ねて午後四時終了した

大日本生産黨青年隊役員

(隊長) 河上利治 (参謀) 星井眞澄、住田徳市、高瀬道善、柏村幸雄、難波俊人、牧野晴雄 (内務部長) 難波俊人 (對外部長) 牧野晴雄 (行動部長) 入木可生 (特務部員) 伊吹芳人、古本眞砂人、船澤俊男

大日本生産黨青年隊則

- 一、本隊は大日本生産黨青年隊と稱す
一、本隊は本部を大日本生産黨本部に置く
一、本隊は青年隊長の指名したる隊士を以て構成す

附記 総務方法は別にこれを定む

- 一、本隊は皇道大日本生産黨の精神を遵奉し前衛的組織を確立し純粋犧牲の信條を以て昭和維新の巨道實踐を期す
一、本隊は總裁に直屬し青年隊長統率の下に独自の行動をなす

編 成

- 一、本隊は行動を迅速ならしむる爲め東京、大阪に参謀を分置す
一、本隊は黨本部との連絡の爲め特務部を設く
一、本隊に左の組織を置く

- (イ) 青年隊長 一名
(ロ) 参 謀 若干名
(ハ) 内 務 部 部長一名 次長一名
(ニ) 對 外 部 部長一名 次長一名
(ホ) 行 動 部 部長一名 次長一名

- (イ) 青年隊長は總裁の指名とし青年隊を統轄す
(ロ) 参謀は隊長の指名とし隊長を補佐し各部長會議の上實踐を期す
(ハ) 内務部長は隊長参謀の合議指名とし、事務、出版、宣傳起草の諸務を處理す
(ニ) 對外部長は隊長参謀の合議指名とし地方連絡、組織の諸務を處理す
(ホ) 行動部長は隊長参謀の合議指名とし遊説、座談會、會の諸務を處理す
(ハ) 各部長は隊長参謀の合議指名とし各部長を補佐す
一、本隊には左の會合を設く

(イ) 全隊士大會

隊長これを招集し運動方策を協議す

(ロ) 参謀會議、部長會議は隊長の名に於てこれを招集す

隊士 陸 衛

二、隊長は黨各分隊並びに黨員より推薦せしめ隊長、参謀

參謀の上隊長これを指名す

二、隊長は年輪滿三十五歳以下たることを原則とす

附 則

一、隊長として隊の名譽を勤賞し又決議命令に服せざることを除名す

一、本隊及び隊士の行動一切は隊長並びに参謀之が責任す

一、本規定の改廢は隊長、参謀の協議に基き總裁之を決議す

第三回幹部講習會

青年黨主催第三回幹部講習會は十二月二日午後七時より青年隊結成式のため参集せる全黨

各分隊青年黨士を中心に権原神宮外苑入絳寮大禮堂にて開催、病篤き影山總務の速かなる平康を神前に祈願、河上、黒井、許斐氏の「同志影山氏を悼ぶ」の聖涙共に下る談があり急遽歸京することになった高橋、山田、佐藤三氏を送つて講習會を開き河上總務より「組織の方法と效果に就て」の講義を聴き、翌三日午前六時隊伍を整へて神宮に参拜、開入時より大國以都雄氏の「聖政一致と維新運動」を講義して同十一時終了した。

台灣事務局移轉 新事務所、台北市古亭町二四二

支那動勢

▼十二月九日羊城小石町紫水館にて支那結成組の演説會を開催、小池相談技が弘毅精神演説を引用、「新體國と水戸學」と題し熱辯を繰ひ多大の感銘を與へた。参集三百五十名。

昭和十六年年頭所感

總裁 吉田 益三

紀元三千六百一年の新春を迎へ謹しまて聖壽無窮、皇室の御繁榮を祈り奉り皇運隆昌を祈念し奉る、吾等は光輝燦たる曩古の聖紀を送り茲に二千六百一年を迎へた「一」はすべてものゝはじめ、悠久窮り無き皇國はいま更に久遠なる將來へ向つて新しき發足をなすのである、この「はじめ」なる年の一月一日に當り吾等は二千六百年の昔、神武天皇がつかものどもを御統率遊ばされ日向國美々津を御進發、岡水門、埃宮、高島宮を経て難波崎に御揚陸、さらに水路を熊野へ向はせられ大和國へ御進發、まつろはぬものども討ち平げ鳥見山に皇祖を祀られ中つ國を盡めさせ給ひしことどもを傳ひ奉り實に我が國の理想が漂へる國を修理固成す大鴻大無邊なる大慈大悲に發せるを痛感するのである、更にまた眼を轉じて現下の内外に至ればそこには大東亞共榮團の確立、世界維新の聖業が悠久二千六百年の大理想をそのまゝ繼承して發せられたるのを見るのである、皇恩限りなく世界全人類の上に垂れ、二十億青年悉くその所を得せしめ給はんとの大御心の有難くも辱けなきを思ふよとよき皇田百等の使命の榮ある重大な身に心感謝にうち慄ぶものがある

時局は愈々重大である、皇師大陸の野を轉戦すること爰に五談、國民政府樹立され日支國交調整の基本條約の締結を見たるといふも事態は然燃せるものにあらず、東亞共榮團確立の大事業はいまその緒についたばかりである、日獨伊三國同盟の妥結は我が國の進むべき道をはつきりと定めた、いまや英蘭國民が我が敵であることは隠れもない事實となつた、荆棘の途

は行手に重疊してゐる、鴻業成るか否かはすべて皇民等重費への一途にかゝつてゐる、爲政當局、指導階級はじめ億萬民が上下一丸となり無私無私、國に殉すべき秋は來つたのである、この歳旦に當り吾等の思ふはたゞ「報國」「殉國」只管維新成就を祈念し挺身奉公を誓ふのみである

こは單り吾等のみの心構へであつてはならない、國を擧げて凡てこれではならぬ、政策はこの一線に集中され、大御心のあるまゝに顯現さるべきである、高度國防國家建設のため政府は經濟に資材に重點主義を執り極度の統制政策を用ひてゐる、事業經營にも人的資源運営にも物價にも、國民生活の全部に亘つて統制は強化され且つされんとしてゐる、統制もその運営を誤れば無きに勝る、「天啓うして鳥翔るに委せ、海深うして魚跳るに委す」といふことがあるが、鳥でも人に飼育さるればその自由を失ひ鳥籠の隅で窮屈をかこち天賦の美聲を殺するを得ず苦しむ、養魚場の魚は天來の美味を保ち得ない、自由に大空を翔り高聲を張り上げ存分の運動をしてこそ立派な鳥となり、魚でも大海を泳ぐがまゝ躍るがまゝに委してこそ美味を保ち得る、人間もそれと同じやうに否なそれ以上の自由と大きな希望と御奉公の榮譽をもつて活動せねば本來の姿は現はれないものである、希望も名譽も慾望もなき灰色の人生に追込み人間を機械化せしめる統制機構が果してよく國家の繁榮利益を齎らすであらうか、共產主義國家ソ聯は斯るによつて國家産業の姿微衰退を招來した、殷盛遠からずである、軌近公益優先の字句に拘泥して一切の家庭人の努力を無視する傾向があることは寧ろ憂慮に堪へない家庭にあつても會社にあつても職場にあつても國家を主に私を従に働くことは勿論のことである、いかに機械設備が優れてゐても要はそれ

を運用する人の如何にある、法律がいかに完備しても人を得なければ産業の發達、國運の興隆は期すべくもないのである、現在の官僚は平等といふ字句に拘はつて各人悉く異れる能力長所を無視して一面の枠内に押込まんとしてゐる、斯様なことで産業能力が向上しよる筈がない産業部門に若き官僚が觸手し自己の欲するが儘に驅使せんとする状態は大きな誤謬である、中小商工業者の轉失業問題は重大である、政府もこの問題には相當意を用ひてゐるもの、如く或ひは職業紹介、轉業斡旋更生資金の融通、授産訓練等を計畫を樹て救済策を樹てゐる零細なる資金により生計を立てたる小商人あるひは獨身労働者等ならばそれらの救済策も効果を奏するであらうが、且下問題の對象となつてゐる中小商工業者はこれまで相當の資材を投じて事業を営み來つたものであり地位もあれば名譽も存する階級に屬する人達である、一介の自由労働者を救済するが如き施策をもつて律せんとするも不可能なるは常識に屬することである、物價政策また然り物の良否新鮮を分別せず一律に公定價格制を設定する結果は著しく國民生活の安定に脅威を齎し、供給者も需要者もその弊に困惑してゐる状態である、生産費を顧慮せずして物の價を定めることは供給者の生業を奪ふ結果となり失業者を生み出す原因となる、農民は收穫米を倉庫に貯蔵しながら自由販賣を許されざる爲あたら物を抱きつゝ肥料代の捻出に四苦八苦してゐる、かくして當面の施政は國民をして貧乏なるものと貧困なるものと二階級に迫込み、好むと好まざるにと拘らず中産階級は没落への一途を暴進しつゝあるのである、中産階級無き社會がいかに優勢と想像に充満せるものなるかは帝政ロシアにおいて試験済みのこと、共產黨がロマノフ王朝を倒し共產主義國家ソ聯邦を形成した契機は實にこの間隙に乘じたのである、彼を思ひ此を思へば經濟問題の

由々しくも重大なるを痛感、切に爲政當局の速善改過を冀つて已まない

臣道實踐、憲法體制確立を目標に結成された大政翼賛會は今や時代に歩みを選び出した、而して翼賛會は政府と表裏一體をなすものはりと唱へ「憲法違反」に非ざる事を聲明辭職此努めてゐるが、かかる辭解聲明をすればこそ國民は疑念を抱くのである、政府と大政翼賛會、議會と事務局、國民の二つの政府あり、二つの議會あるが如き感を抱かざるは不信不安を増すのみであり舉國體制を徒らに混亂せしむるのみである、翼賛會の使命は治政の府に非ず思惟指導に盡く、憲法論を以て讀比すべきものでなく一國組の發展せし程度のものと思ふべく、従つて翼賛會當業者も本然の姿に立寄り臣道實踐を勤むべきであらう、かくの如く施政の途に出づるか之感を興ふるは眞箇責任に透徹せし政治家無きに因る、過ちあらば自ら決し罪を購、程の心構へなくして轉強の重責は完ふし得るものでない、社會の實相に眼を閉ち徒らに下級吏僚の提議するところを聽きて順應に附するが如きことでは眞の政治は望めないし、畏れ多くも大御心の顯現は期し難い、且しく社會の實情を聽き若し過ちあらば面目に拘泥せず直ちに改め、良と知るならば斷平適任すべきである。徒らなる面目論、法理論に提はれその機を失すならば國民の要る打撃は測り知れぬものがある

未曾有の國難に直面し吾等は上下一體となり克くこれを打開し國運の運葉へに榮へんことを祈り、またかくあるべきため奉公の誠を盡さむことを誓ふと共にこの「一」なる三千六百一年の歳且に當り聊か志の一端を叙べて本年行動の指針を明らかにした次第である

大日本生産黨十年史年表

昭和年月日	事	項
五、六、六	内田良平先生下阪、結黨準備打合せを行ふ	
一三	大阪堂ビルにて大日本生産黨創立準備相談會開催	
七、五	大阪中央公會堂に創立準備發起人大會を開く	
六	大阪大紙俱樂部にて内田先生講演を行ふ	
二〇	東京黒龍會本部に結黨準備打合せを開く	
六、四、二	内田先生「國體の本義」を刊行す	
五、二四	大阪中央公會堂に結黨式第一次準備委員會開催	
六、二八	大阪中央公會堂に結黨式を舉行、引續き結黨記念大演説會開催	
二九	大阪天王寺公會堂に結黨記念大演説會を開催す	
三〇	結黨届を提出す	
七、一	遊藝部、演説部を設置す	
六	第一次日本共產黨公判に對し警告を發す	
八	黨報第一號を發刊	
二五	關東、東北遊説を行ふ	

- 一六 一
- 一五 二
- 一四 三
- 一三 四
- 一二 五
- 一一 六
- 一〇 七
- 〇九 八
- 〇八 九
- 〇七 一〇
- 〇六 一一
- 〇五 一二
- 〇四 一三
- 〇三 一四
- 〇二 一五
- 〇一 一六
- 同 一七

高麗山事件で起つ
 滿洲同盟国民同盟の大会を開く
 東北・關西、九州遊説を行ふ
 米飛行家の間諜行為を糾弾す
 全国遊説終る
 東京に支部を置く
 東京青山會館に「滿洲同盟聯合大會」を開く
 滿洲同盟勸告、現地に調査員を特派す
 「日本經濟界の實勢」を刊行す
 東京赤坂三會堂に「第一回黨大會準備委員會」を開く
 同所において第一回黨大會を開催
 關東本部事務所を移轉
 關東、關西兩本部役員決まる
 「滿蒙の獨立と世界紅十字會の活動」を刊行す
 獨逸ナチス提携を申入れる
 栃木縣にて勞農大衆黨と衝突す
 栃木縣阿久津村において本黨員、勞農大衆黨員の計画的襲撃を受け殉死者を出す
 關東、關西兩本部より特派員を急行せしむ
 總裁代理坂井理事ら宇都宮に赴き遺族、買傷者を用慰問す

- 一四 一
- 一三 二
- 一二 三
- 一一 四
- 一〇 五
- 〇九 六
- 〇八 七
- 〇七 八
- 〇六 九
- 〇五 一〇
- 〇四 一一
- 〇三 一二
- 〇二 一三
- 〇一 一四
- 同 一五

急進愛國黨、本黨に入黨す
 内田總裁ら列席して殉死者の黨葬を宇都宮公會堂において執行す
 吉田益三氏大阪第三區より衆議院議員選挙に立候補し惜敗す、本黨選挙根本方針、政策重に
 聲明書を發表
 血闘團事件の餘波本黨に及び當局の彈壓激烈を極め東京府下吾儘町における演説會は辯士全
 員に中止を命じ且つ黨員三十餘名を不法拘禁す
 前項彈壓に關し本黨は聲明書を發し當局に嚴重抗議す
 三井財閥の陰謀による五大電力制案を粉碎する爲調査書數萬を頒布し反對運動を展開す
 本黨地方組織規定成る
 阿久津村事件殉死者百日祭を執行す
 五・一五事件突發により本黨は聲明書を出し當局及び社會に反省を求めたり
 「非常時經濟對策」を公表す
 日本國家社會黨、神武會、勳皇維新同盟と提携「國權打開聯合協議會」を組織、東京と野公
 團自治會館に國民大會を開催、當局の彈壓に抗争し亂闘となれり
 齋藤内閣の時局臣教案に反對し全国各地において國民の署名を求むる請願運動を起し、聲明
 書を發表す
 東京機汽船會社争議を指導し有利に解決す
 野村中將遺米に反對、外務省、海軍省、軍令部に反省を促す
 本黨幹部ら指導の青年運動、聖運動、澎湃として起る

九、二三
 一〇、一
 一六
 一〇、二〇
 一、一
 一七
 一、九
 一〇、九
 二、七

本黨指導の大坂編輯内立費人等議有利に解決す
 リットン報告書反對運動を再開、聲明を發表す
 關東本部常任委員長に池田弘氏就任す
 青年分子共同機關「大同俱樂部」生る
 赤化記者を大演習に轉派せんとしたる大阪毎日新聞社を糾彈
 總本部に總務部を新設す
 内田綱毅「滿洲問題に對する日本國民の決意」を内外各國に發表す
 滿洲問題集國一致各派聯合會主催にて芝公園廣場に國民大會を開催
 赤化記者事件に關し大阪毎日新聞社謝罪文を提出す
 五〇一五事件關係者瀧水秀助氏の葬儀を「國家主義各派聯合愛國者葬委員會」主催にて執行す
 阿久津村事件兇徒に對し判決あり直ちに檢事控訴す
 時事新報不逞社説糾彈に對し同社は本黨青年部署名の反駁文を社説欄に掲載し陳謝の意を表したり
 滿洲建國の礎石となつて仆れたる藤部茂樹氏の追悼會を大阪津村別院にて執行す
 阿久津村事件一周年記念追悼會を宇都宮市にて執行す
 本黨に青年部を新設す
 國際聯盟庶務委員會國民大會を東京日比谷公會堂で開催
 黨旗入魂式を東京赤坂氷川神社にて行ふ

二二
 二〇、九
 二一、一
 二五
 四、九
 二四、一
 二四、九
 五、一
 一五、六
 一五、五
 六、三

東京、大阪を中心に盛大な建國祭を舉行す
 東京先覺志士慰靈祭を東京日比谷公會堂新音楽堂にて執行す
 郵船、兩船合同に反對し聲明を發表す
 愛國事件で三井物産本社に警告を發表す
 愛國事件に關し關西本部員島德藏邸を襲ふ
 同事件に關し大阪憲兵隊本部に札明方を進言す
 同島德藏に對し辣儀デモを敢行す
 「日本新經濟策」前巻を發刊す
 關東本部専門部役員決定
 國際勞動會議即時脫退國民大會を大阪天王寺公會堂で開催す
 共產黨討滅を期し國情擁護聯合會生る
 京都府廳第一回大會京都府廳公會堂に開かる
 大阪中之島公會に愛國勸勞祭を舉行天王寺公會堂まで大行進を行ふ
 大阪、京都市會議員選挙に七候補を公認す
 東京之公園に共產黨討滅國民大會を開催す
 五〇一五事件一周年記念闘争を東都に展開す
 福川京大教授問題糾彈大演習會を京都公會堂で開催
 東條内閣に經濟政策質問書を提出す
 内田綱毅著「學道に就いて」を發刊す

九	二二	關大阪市長に辭職を勧告す
一、	二一	神兵隊事件突發し本黨員ら五十七名被擄せらる
二、	二〇	大阪でも神兵隊事件に關し黨員ら連行せらる
三、	一九	關西本部では右事件に關する善後處置協議のため緊急幹部會を召集
四、	一八	神兵隊事件に關し聲明書を公表す
五、	一七	愛國戰士救援會生る
六、	一六	關西本部新役員決定す
七、	一五	關西本部青年部員五・一五事件減刑款願のため徒歩上京なすべく官幣大社生國魂神社に祈願
八、	一四	祭を執行、出發直後解散を命ぜらる
九、	一三	内田總裁「國是及び國策私案」を發表す
一〇、	一二	全國各分黨にて取纏めたる五・一五事件減刑款願書十一萬六千四百二十一通を提出す
一一、	一一	關西本部產業貯蓄銀行問題糾弾に起つ
一二、	一〇	台灣各地へ遊説
一三、	〇九	神兵隊事件に關し吉田委員長ら召しよる
一四、	〇八	吉田委員長長歸宅を許さる
一五、	〇七	内田總裁著「天罰論」を發刊
一六、	〇六	實際内閣打倒國民大會を東京芝公園に開催す
一七、	〇五	實際内閣打倒國民大會を大阪中央公會堂で開く
一八、	〇四	神兵隊事件後の黨再建に關する新陣容を發表

二二	二二	議會對修委員會を設置す
二三	二一	京都修理事に對し、鐵道大臣、鐵道局長に警告を發し、遭難者の慰問を行ふ
二四	二〇	打倒議會政治運動を再開「對議會闘争に際し、滿天下に撒す」の聲明を發表す
二五	一九	對黨同志會生る
二六	一八	足利算氏禮讓の中島商工大臣並びに、連帶責任者たる實際首相、山本内相に自決勸告をな
二七	一七	し中島商相遂に辭職す
二八	一六	愛國戰士救援會を組織
二九	一五	農村救済で當局に陳情
三〇	一四	更正審議會を設置す
三一	一三	台灣總督武官制運動を起し、後日主張貫徹す
三二	一二	全アジア民族大會に参加す
三三	一一	大阪中央公會堂に「アジア民族團結促進大會」を開催
三四	一〇	中川台總督に辭職を勧告
三五	〇九	東京市政刷新運動を起す
三六	〇八	大阪中之島公園に第一回愛國勤勞祭を舉行天王寺公園まで大行進を行ふ
三七	〇七	函館大火災罹災市民に救援の手を伸ぶ
三八	〇六	大阪羽田スレート工場争議を激化、全要求を貫徹す
三九	〇五	吉田委員長、内鮮融和「相和會」總裁に就任
四〇	〇四	日蘭會商代表に會見激勵す

一三三
一八
六、九
二八
七、七
九
一三
八、一〇
一一
二七
九、大
三二
一〇、一
一八
一〇
一〇
一〇
一六
一四

大野天正寺公會堂に重慶西開打倒國民大會を開催
同大阪中央公會堂に國民大會を開催
大阪省議下市場の地價暴落を起す
結黨三周年記念各團體代表者會議を東京赤坂三會堂で開催す
大阪機械工作所等議に對し抗議
岡田新内閣に對する聲明を公表す
内田鐵藏、昭和神學會副總裁に推される
血盟團事件減刑運動を起す
國是國策私案を發表
日本海員組合革正運動を支援す
ロンドン條約廢棄通告促進運動を起す
東京市電線罷業に對し、解決案を提示す
大阪牛國魂神社にて瀧川真變應懺祭を執行
關西地方風水害に對し「對策委員會」を設け罹災民の救援と復興に盡力す
吉田委員長著「天災に學ぶ」を發刊
米國アリゾナ州の排日的強壓に抗議す
農村對策委員會を設置
在連行政機構改革に關し、聲明を發表す
増税に對する意見書を發表す

一四
一六
一九
二二、二
一四
一七
一〇、一、
四
二二
二二
二四
二、
四
三、
一五
一五
一〇
四、
一五

九州地方誌 面大遊説に出發
内田總裁著「憂國憤世狂風録」發刊
九州地方遊説終る
吉田委員長著「起て天命維新の秋」發刊
大阪府會議員へ辭職を勸告
大阪中央公會堂に議院解散要求國民大會開催
吉田委員長千代田通信社社長に就任
吉田委員長著「殘された三輪車」發刊
吉田委員長、大阪經濟新聞に「天眼鏡」を連載す(昭和十年二月二十八日第一編上梓)
新運動方針を決定す
宇垣朝洋總督へ辭職を勸告
黨報發刊決定す
國際勞動會議代表派遣に反對
「朝鮮政治改革の急務」を發表
關東本部は明治神宮、關西本部は橿原神宮にて建國祭を舉行
黨報第一號發刊あり
吉田委員長、大阪中央新聞社長に就任
天皇機關報維持運動の火蓋を切る
「反國體思想を根絶して明治神宮の御神慮を安し奉れ」發刊

一八
一八
二四
二六
二七
六
六
七
一
七
八
二
四
三
一
五
二
五
三
九

大阪朝日新聞排撃運動を起す
美濃部達吉處分に就て全國民の奮起を促す
吉田委員長、朝野聯合會に召さる
メーデー粉砕に關し、聲明を發表す
黨旗台灣へ進む
朝鮮改革に宇垣總督同意を表明す
再び天皇萬歲祝詞問題で政府へ總辭職を通告す
大阪中央新聞紙上に黨四ヶ年史を連載
選舉禁止委員へ意見書を提出す
伊エ紛争に關し、エチオピア支援の態度を決す
神兵庫事件物故者慰靈祭を東京赤坂三善堂にて執行す
台灣統治に關し警告を發す
伊エ紛争に關し再び聲明を發表
國體田徴に關し聲明を發表す
國際觀光局を組織す
黨員倍加運動を起す
政黨排撃運動開始
比律賓獨立運動援助を約す
大阪天王寺普賢堂に國體突破國民大會を開催す

九
一六
二〇
二八
三
五
七
一一
一一
一一
二〇
二〇
一九
九
一
二
二
三

大阪府會議「選舉に二候補を公認」
「禁止選舉後の一考察」發刊
大阪中央公會堂に國體田徴大演説會開催
國際海軍技術委員會出席の日本代表に反對決議を呈交
關東本部では明治節祝賀行進を舉行す
東京市内各所に國體田徴演説會開催
大阪中央公會堂にエチオピア救援大演説會を開く
東京大森ライオンズスリート工場争議を指導、十一月十三日解決す
本黨を中心に國體田徴達成近接談話會開かる
大阪中央公會堂に國體突破大演説會を開催す
全日本愛國團體統一協議會大阪中央公會堂に開かる
大阪中央公會堂に岡田内閣打倒國民大會を開く
神兵庫事件同志會を出所す
大阪府會解散運動を起し決議文を呈交、市内各所に演説會を連日開催す
東久邇中將官邸下には愛國團體代表として吉田委員長に拜謁を賜ふ
大阪において全愛國團體の懇親會開かる
本年度「行動綱領指令」を發す
兵庫縣教育界糾弾事件に警告を發す
神兵庫事件犠牲者長谷川資君の慰靈祭を執行

- 四 二〇
- 三、二六
- 四、二四
- 五、二三
- 六、二八
- 七、二六
- 八、三一
- 九、七
- 一〇、七
- 一一、五
- 一二、九
- 一三、二
- 一四、一

大阪府立實業會館に大阪府會即時解散要求庶民大會を閉催
 「天竺敷と大本坂」を發刊
 二〇二天事件を發す
 二〇二天事件に關し聲明を發す
 メーデー撲滅の進言書を内務省に提出す
 大阪において産業展覽會を執行
 本黨労働組合會議生る
 大阪中央公會堂に全日本愛國政黨合同促進懇談會開かる
 東京赤坂三會堂に全國代表幹部會を開く
 組織方針書を發表す
 愛國團體合同促進を目的に「二月會」結成せる
 官業労働組合に關し陳相、派兵司令官、遣兵隊長官に進言す
 對支問題につき建白、抗議を行ふ
 青年部運動方針を發表す
 官業労働組合に對する陸軍の態度を支持し社大黨を離つ
 大阪において暴支廢物國民大會を開催
 陰謀計畫ありとの嫌疑により本黨員ら不法檢束せる
 労働組合法制定に關し當局に進言書を提出す
 樺太市帝國機械工業會計刷新學議を指導、十一月二十四日解決す

- 一四 二四
- 一五 二五
- 一六 二二
- 一七 六
- 一八 二天
- 一九 二二
- 二〇 二二
- 二一 二二
- 二二 二二
- 二三 二八
- 二四 二二
- 二五 三
- 二六 三
- 二七 一
- 二八 四
- 二九 一
- 三〇 一
- 三一 一
- 三二 一
- 三三 一
- 三四 一
- 三五 一
- 三六 一
- 三七 一
- 三八 一
- 三九 一
- 四〇 一
- 四一 一
- 四二 一
- 四三 一
- 四四 一
- 四五 一
- 四六 一
- 四七 一
- 四八 一
- 四九 一
- 五〇 一
- 五一 一
- 五二 一
- 五三 一
- 五四 一
- 五五 一
- 五六 一
- 五七 一
- 五八 一
- 五九 一
- 六〇 一
- 六一 一
- 六二 一
- 六三 一
- 六四 一
- 六五 一
- 六六 一
- 六七 一
- 六八 一
- 六九 一
- 七〇 一
- 七一 一
- 七二 一
- 七三 一
- 七四 一
- 七五 一
- 七六 一
- 七七 一
- 七八 一
- 七九 一
- 八〇 一
- 八一 一
- 八二 一
- 八三 一
- 八四 一
- 八五 一
- 八六 一
- 八七 一
- 八八 一
- 八九 一
- 九〇 一
- 九一 一
- 九二 一
- 九三 一
- 九四 一
- 九五 一
- 九六 一
- 九七 一
- 九八 一
- 九九 一
- 一〇〇 一

純正維新共同青年隊結成せる
 日本郵船の不敬事件を糾弾す
 尾去澤ダム決壊事件で三黨を糾弾す
 陸海協同會結成せる
 「日本精神と憲政一新」發刊
 本年度運動方針大綱及び内外諸問題に對する聲明を發表す
 政變に際し聲明を發表し本黨を態度を闡明す
 右に關し再び聲明を發す
 本黨労働部指導下に皇國労働同盟結成せる
 純正維新共同青年隊結成せる
 國民離間を關する風潮行進團體の聲明、進言、議員辭職勧告を行ふ
 日本郵船明船會等運動發す
 印刷會支援を決議し聲明を發表す
 海上日本主義強化同盟結成せる
 本黨依補職務、風潮行進を不敬罪にて告發す
 台風の暴化、督府改革の進言をなす
 衆議院議員選舉權に關し聲明を發表態度を明かにす
 日ソ國交斷絶すべしとの聲明を發表
 東洋洗出事件で日本石油會社へ警告を發す

- 一四 總選挙対策の緊急指令を發す
- 三〇 興亞青年聯盟結成せる
- 一 本部組織機構の大改革を断行す
- 五 日本主義文化同盟結成準備會なる
- 二八 政黨推挙同盟結成せる
- 一 内田總裁、皇親貴族國體學生の強力母體一心會の創立を提唱す
- 六 林内閣閣議に際し次期内閣の具備すべき具を三期三期、聲明を發す
- 一四 近衛第一次内閣に對する聲明を發表す
- 二二 純正維新共同青年隊發展の解散す
- 七 對ソ國交斷絶を當局に進言す
- 二二 北支事變に對し進言と聲明を發す
- 一七 北支事變に對し第一次聲明を發す
- 二六 總裁内田良平先生逝去せる
- 一三 故内田總裁の告別式、東京青山斎場にて盛大に執行せる
- 八、三〇 本黨前松石一君兄弟に介る
- 九、一六 日本海員組合の解散を要請す
- 一〇 日本海員組合の軍機洩洩事件と鈴木文治遺米に關し當局へ進言す
- 一四 朝日スレート紛議圓滿に解決す
- 一五 大阪軍人會館に故内田總裁の慰靈祭と追悼會を執行す

- 三〇 吉田委員長全國代表者會議の前に「全黨員に希望す」の一文を發表す
- 一〇、一〇 全國代表幹部會を東京赤坂三會堂に開催す
- 一一 全國代表幹部會記念大演説會を東京淺草公會堂にて開催
- 一五 皇親貴族に佐橋總務を特派す
- 一六 全代會議可決議案で當局に實行方を進言要請す
- 一一二 九國條約會議に出発拒絶の進言を行ふ
- 一三三 吉田委員長「傷痍病兵待遇改善」に關し進言す
- 一五五 大阪にて時局批判大演説會を開催
- 一一、一六 思想國防其他大會決定事件を進言要請す
- 一九 農村對策委員會結成懇談會を開く
- 一九〇 尾崎行雄の不退反軍思想、軍民離間論に對し徹底廢絶を當局に要請し聲明を發表す
- 一九九 アジア民族大會を大阪中央公會堂に開催す
- 一九九 反國體運動の根源地同志社學園齋正を當局に進言要請す
- 二二、一 同志社學園齋正聲明を發表す
- 七 農村對策委員會を開催
- 一五 教育審議會委員推薦に關し首相に質問書を提出す
- 一五 赤城裏山開墾問題訴訟事件和解成立す
- 一三、一、一一 本年度運動方針を決定す
- 一 同志社學園齋正運動成功す

- 一四 | 戦時議會に對する聲明を發表す
- 一七 | 鈴木書記長を滿洲に特派す
- 二一 | 愛國團體各派と聯合し、東京に緊急問題協議會を開く
- 二二 | 政府の電力國營案に對し、聲明書を發表す
- 一六 | 農村負債根本整理請願運動で指令を發す
- 一六 | 殷汝耕夫人に即時國外退去を要求す
- 一六 | 吉田委員長著「支那をどうする」發刊
- 一六 | 東京赤坂三會堂に統後全國農民大會を開く
- 一四 | 農村負債整理請願書を貴衆兩院に提出
- 一六 | 大阪中央公會堂に「獨、伊、支を語る夕」開催
- 一六 | 大阪中央公會堂における社大黨演說會に催涙ガスを投擲す
- 一六 | 關西黨務局に大阪市政刷新委員會を設置
- 一六 | 時局批判演說會を大阪市内各所で連日開催す
- 一七 | 永島、佐橋、影山三總務を滿洲中、北支に特派す
- 一七 | 青年研究會生る
- 一七 | 大阪市中央公會堂に戰時總動員大演說會を開催す
- 一七 | 廣東、漢口即時攻略を進言す
- 一四 | 結黨記念日運動方針の指令を發す
- 一七 | 札幌に北海道大會を開く

戦時議會に對する聲明を發表す
 鈴木書記長を滿洲に特派す
 愛國團體各派と聯合し、東京に緊急問題協議會を開く
 政府の電力國營案に對し、聲明書を發表す
 農村負債根本整理請願運動で指令を發す
 殷汝耕夫人に即時國外退去を要求す
 吉田委員長著「支那をどうする」發刊
 東京赤坂三會堂に統後全國農民大會を開く
 農村負債整理請願書を貴衆兩院に提出
 大阪中央公會堂に「獨、伊、支を語る夕」開催
 大阪中央公會堂における社大黨演說會に催涙ガスを投擲す
 關西黨務局に大阪市政刷新委員會を設置
 時局批判演說會を大阪市内各所で連日開催す
 永島、佐橋、影山三總務を滿洲中、北支に特派す
 青年研究會生る
 大阪市中央公會堂に戰時總動員大演說會を開催す
 廣東、漢口即時攻略を進言す
 結黨記念日運動方針の指令を發す
 札幌に北海道大會を開く

- 一八 | 結黨記念日「戰時總動員大演說會」を東京で開催
- 一八 | 大阪で關西地方代表者會議を開く
- 一一 | 天龍寺革正運動を起す
- 一一 | 對ノ開戦を當局に進言す
- 二五 | 宗教維新に對する意見書を發表
- 二六 | 故内田總裁の一年祭を多摩臺地で執行し、吉田委員長は全黨員に指令を發す
- 一八 | 吉田委員長「暴ソの魔手を拂へ」の意見を發表
- 一六 | 比島獨立運動のサグダル黨と提携援助を約す
- 一八 | 大阪中央公會堂に暴ソ齊懲有志大會並に大演說會を開催
- 二四 | 東京青山會館で暴ソ齊懲青年大會開かる
- 一一 | 傷病兵慰問家族の無償輸送を當局に進言す
- 二二 | 大阪社大市議の國旗凌辱事件を糾弾す
- 一九 | 催涙ガス投擲事件の判決あり
- 一〇 | 子垣一城大將に對し臣節問題で公開狀を發す
- 二三 | 亡國社大黨擊滅市民大會を大阪實業會館で開催す
- 一六 | 武漢三鎮陥落に當り聲明書を發表す
- 一一 | 吉田委員長著「日軍すでに戦ひつゝあり」發刊
- 一一 | 傷病兵家族輸送優遇進言奏效す
- 一四 | 青年俱樂部結成される

結黨記念日「戰時總動員大演說會」を東京で開催
 大阪で關西地方代表者會議を開く
 天龍寺革正運動を起す
 對ノ開戦を當局に進言す
 宗教維新に對する意見書を發表
 故内田總裁の一年祭を多摩臺地で執行し、吉田委員長は全黨員に指令を發す
 吉田委員長「暴ソの魔手を拂へ」の意見を發表
 比島獨立運動のサグダル黨と提携援助を約す
 大阪中央公會堂に暴ソ齊懲有志大會並に大演說會を開催
 東京青山會館で暴ソ齊懲青年大會開かる
 傷病兵慰問家族の無償輸送を當局に進言す
 大阪社大市議の國旗凌辱事件を糾弾す
 催涙ガス投擲事件の判決あり
 子垣一城大將に對し臣節問題で公開狀を發す
 亡國社大黨擊滅市民大會を大阪實業會館で開催す
 武漢三鎮陥落に當り聲明書を發表す
 吉田委員長著「日軍すでに戦ひつゝあり」發刊
 傷病兵家族輸送優遇進言奏效す
 青年俱樂部結成される

一四、一、四
 二、四、四
 三、一、七
 四、一、四
 五、一、三
 六、一、二
 七、一、三
 三、一、〇
 三、一

平沼内閣出現に當り「責任政治の確立」を希望する意見書を發表す
 吉田委員長執筆「ソ聯撃つべし」を發表
 「反國體的選挙法の改正を求む」と題する聲明書を發表す
 東京日比谷公會堂に國難突破大演説會を開く
 大阪中央公會堂に國難突破大演説會を開催す
 議員法改正に關する聲明書を發表す
 本部機構の一部を改正し新役員を任命發表す
 大東塾結成さる
 日獨伊軍事同盟締結要請全國青年聯盟結成さる
 全國代表者會議招集に關し指令を發す
 東京に全國青年大會開かる
 大阪にて再び全國青年大會開く
 東京赤坂三會堂に全國代表者會議を開催す
 全國代表者會議記念「非常時突破大演説會」を開催
 全國代表者會議代表内田邸を訪問す
 日英東京會談に先んじ租界撤收を當局に進言す
 大阪天王寺善樂堂に日英斷交要求國民大會を開催
 全國各分黨排英運動を展開す
 台灣事務局、英領事館の借地權返還を要求す

八、四
 九、二、九
 一〇、一、〇
 一〇、一、〇
 一一、一、五
 一二、一、〇
 一三、一、九
 一四、一、二
 一五、一、八
 一、一、三
 一、一、五

「日英東京會談を即時中止すべし」との聲明を發表す
 組閣に着手せる阿部信行大將に要請書を手交し全黨員に指令を發す
 戰時内閣確立に關し意見を發表す
 府縣會議選舉に關し指令を發す
 對時局聲明を發表
 黨章略章制定さる
 「内田先生を偲ぶ」發刊
 吉田委員長著「經濟維新管見」發行
 「妄論親ソ親英を撃つ」聲明發表
 大阪における英大使の招宴不出席を各方面に勸告す
 阿久津村事件殉難者慰靈祭を宇都宮市にて執行す
 長野、大阪、岐阜に國難突破大演説會開催
 東京青山會館に聖戰明徴全國青年大會を開く
 大阪中央公會堂に聖戰明徴全國青年大會を開く
 逼迫せる内外情勢に關し指令を發す
 親ソ派撃滅を宣告す
 「不逞有志代議士の妄動を撃つ」と題する聲明を發表
 大阪中央公會堂に「對米同輩近衛大會」を開く
 組閣本部に米内光政大將を訪問、「責任政治確立」の要請書を手交す

4 G-4

- 四、 一
- 三、 三
- 二、 二
- 一、 三
- 四、 一
- 三、 一
- 二、 一
- 一、 一

英艦の淺間丸不法砲撃に關し進言、勸告、警告を行ふ
 大阪中央公會堂に「暴英打倒國民大會」を開く
 紀元節に臨りたる御詔書を拜し瀧天下に聲明す
 聖戰を冒瀆せる賣國賊天代藤土岐分を要求すると共に聲明を發表
 佐橋總務らの特派し、總業地桐生市の備みを解決す
 吉田委員長統率の下、全幹部を六班に編成し「皇紀二千六百年記念國難突破大演說會」を全國
 に亘つて開催することとなり、この日第一聲を京都市に揚ぐ
 全國大演說續行せる
 福岡市にて故内田總裁の慰靈祭を執行
 全國大演說終る全期間における演說會三十一回、座談會三十一回、總集總數三萬六千八百人
 その足跡は二府一十七縣に及ぶ
 新黨運動反對の聲明書を發表す
 故内田總裁三年祭東京軍人會館に執行せる
 立憲十周年記念全國大會を東京赤坂三會堂に開く
 大會記念「國難突破大演說會」を日比谷公會堂に開催す
 ○○○○起る
 立憲十周年記念國難突破大演說會を大阪天王寺會堂に開催
 吉田委員長組閣中の近衛公と會見、政策を進言す
 近衛内閣に要請書を提出す





